

子どもたちの学力・体力向上 について

平成 29 年 11 月 7 日
北九州市教育委員会

目 次

1 平成29年度 全国学力・学習状況調査 報告

【調査結果と分析】

(1) 教科に関する調査結果の概要	4
(2) 成果と課題（本年度の正答率に見られる顕著な状況）	5
(3) 調査結果の経年比較	6
(4) 各教科の分析結果	8
(5) H28－H29正答数分布グラフ	24
(6) 学力に影響を与える要因	27
(7) 学習状況調査結果～「学びの育ち」と「心の育ち」の更なる成長に向けて～	28
①学びの育ち	30
②心の育ち	43

【学力向上アクションプランの成果】

(1) 学力向上アクションプラン（概要）	52
(2) 授業力向上 ①「わかる授業」づくり5つのポイントに関係する質問	53
②学力向上推進教員の効果	54
③記述式問題 平均正答率の全国比の推移	56
(3) 家庭・地域との連携 ～児童生徒質問紙より～	57
(4) 子どもひまわり学習塾	58

2 平成29年度 新体力テスト調査結果 速報値

(1) 全体概要（速報値）	60
(2) 本年度の体力向上の取組について	66
(3) 北九州市体力向上プログラム	69
(4) 小学校体育授業パワーアッププラン	76



1 平成29年度 全国学力・学習状況調査 報告

【調査結果と分析】



北九州市環境マスコットキャラクター ていたん&ブラックていたん
©ていたん&ブラックていたん 北九州市

(1) 教科に関する調査結果の概要

平成29年4月に市立の全小・中学校において全国学力・学習状況調査を実施した。調査の概況は以下のとおりである。

1 実施学年・調査内容

- ◇ 実施学年 市立の全小学校・関係特別支援学校 第6学年(133校)
市立の全中学校・関係特別支援学校 第3学年(64校)
- ◇ 調査内容 ① 教科に関する調査 小学校 … 国語・算数 中学校 … 国語・数学
② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

2 調査集計者数 小学校児童数 7,673人 中学校生徒数 7,361人

3 調査日 平成29年4月18日(火)

結果の概要

小学校

- ・ 国語A・B, 算数A・Bの全国平均正答率に対する割合は, 99%~97%となっている。
- ・ 平成26年度以降を経年比較すると, 国語A・Bは上昇している。
- ・ 昨年度と比較すると, 国語A・B, 算数Bは上昇している。

中学校

- ・ 国語A・B, 数学A・Bの全国平均正答率に対する割合は, 99%~94%となっている。
- ・ 平成26年度以降を経年比較すると, 国語A・B, 数学Bは上昇している。
- ・ 昨年度と比較すると, 国語A・B, 数学Bは上昇している。

教科に関する調査(国語, 算数・数学)

小学校6年生	国語A		国語B		算数A		算数B	
	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率
H29 年度本市平均	11.0 / 15 問	74%	5.1 / 9 問	57%	11.6 / 15 問	77%	4.9 / 11 問	44%
H29 年度全国平均	11.2 / 15 問	75%	5.2 / 9 問	58%	11.8 / 15 問	79%	5.1 / 11 問	46%
全国平均に対する割合	98%		99%		98%		97%	
H28 年度本市平均	10.4 / 15 問	70%	5.6 / 10 問	56%	12.1 / 16 問	76%	5.8 / 13 問	45%
H28 年度全国平均	10.9 / 15 問	73%	5.8 / 10 問	58%	12.4 / 16 問	78%	6.1 / 13 問	47%
全国平均に対する割合	96%		96%		98%		95%	
H27 年度本市平均	9.4 / 14 問	67%	5.6 / 9 問	62%	11.7 / 16 問	73%	5.7 / 13 問	44%
H27 年度全国平均	9.8 / 14 問	70%	5.9 / 9 問	65%	12.0 / 16 問	75%	5.9 / 13 問	45%
全国平均に対する割合	96%		95%		98%		97%	
H26 年度本市平均	10.4 / 15 問	69%	5.3 / 10 問	53%	13.0 / 17 問	76%	7.2 / 13 問	55%
H26 年度全国平均	10.9 / 15 問	73%	5.5 / 10 問	56%	13.3 / 17 問	78%	7.6 / 13 問	58%
全国平均に対する割合	95%		95%		98%		95%	

中学校3年生	国語A		国語B		数学A		数学B	
	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率
H29 年度本市平均	24.5 / 32 問	77%	6.3 / 9 問	70%	22.2 / 36 問	62%	6.8 / 15 問	45%
H29 年度全国平均	24.8 / 32 問	77%	6.5 / 9 問	72%	23.3 / 36 問	65%	7.2 / 15 問	48%
全国平均に対する割合	99%		98%		95%		94%	
H28 年度本市平均	24.3 / 33 問	74%	5.8 / 9 問	64%	21.2 / 36 問	59%	6.1 / 15 問	41%
H28 年度全国平均	25.0 / 33 問	76%	6.0 / 9 問	67%	22.4 / 36 問	62%	6.6 / 15 問	44%
全国平均に対する割合	97%		96%		95%		93%	
H27 年度本市平均	24.4 / 33 問	74%	5.7 / 9 問	63%	22.2 / 36 問	62%	5.7 / 15 問	38%
H27 年度全国平均	25.0 / 33 問	76%	5.9 / 9 問	66%	23.2 / 36 問	64%	6.2 / 15 問	42%
全国平均に対する割合	97%		96%		96%		91%	
H26 年度本市平均	24.7 / 32 問	77%	4.3 / 9 問	48%	22.5 / 36 問	62%	8.2 / 15 問	54%
H26 年度全国平均	25.4 / 32 問	79%	4.6 / 9 問	51%	24.3 / 36 問	67%	9.0 / 15 問	60%
全国平均に対する割合	97%		93%		93%		91%	

※ Aは主として「知識」に関する問題, Bは主として「活用」に関する問題である。

※ 結果公表にあたっては, 文部科学省の方針に沿って細かい桁における微小な差異は学力面で実質的な違いを示すものではないという考えから, 昨年度より整数値で公表するようにした。

(2) 成果と課題 ～本年度の正答率(全国平均に対する割合)に見られる顕著な状況～

【成果1】 国語A・B, 算数(数学)A・Bの合計は, 小中学校ともに改善傾向にある。

小学校 27年度 96% → 28年度 96% → 29年度 **98%**

中学校 27年度 95% → 28年度 96% → 29年度 **97%**

※ 全国平均正答率を100%として比較

【成果2】 全国平均を上回る学校数が増加傾向にある。

小学校 27年度 41校 → 28年度 38校 → 29年度 **46校**

中学校 27年度 13校 → 28年度 14校 → 29年度 **16校**

※ 国語, 算数・数学の平均正答率の合計による比較

【成果3】 小学校国語, 中学校国語は, 全国平均に近づいている。

小学校 国語A 27年度 96% → 28年度 96% → 29年度 **98%**

国語B 27年度 95% → 28年度 96% → 29年度 **99%**

中学校 国語A 27年度 97% → 28年度 97% → 29年度 **99%**

国語B 27年度 96% → 28年度 96% → 29年度 **98%**

《課題1》 小学校算数Aは横ばい, 算数Bは一進一退の状況である。

算数A 27年度 98% → 28年度 98% → 29年度 **98%**

算数B 27年度 97% → 28年度 95% → 29年度 **97%**

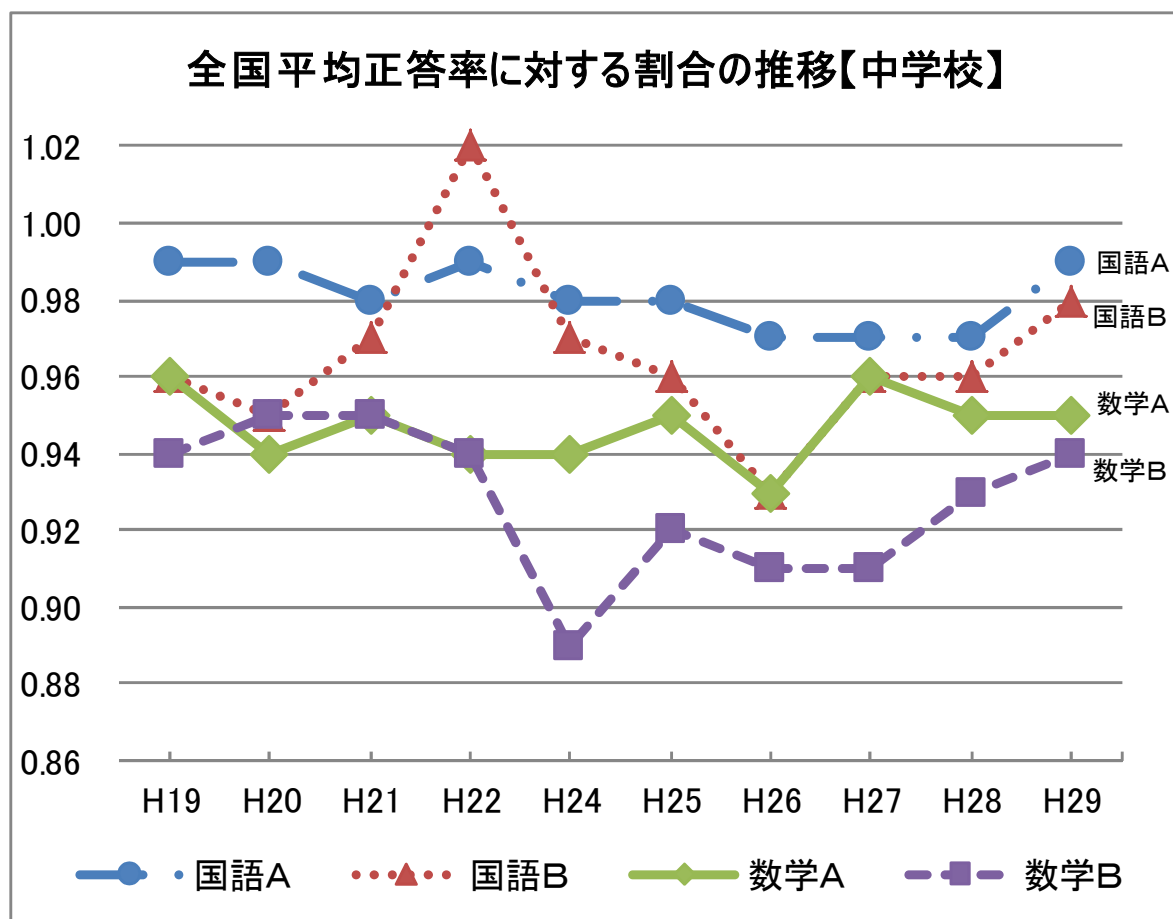
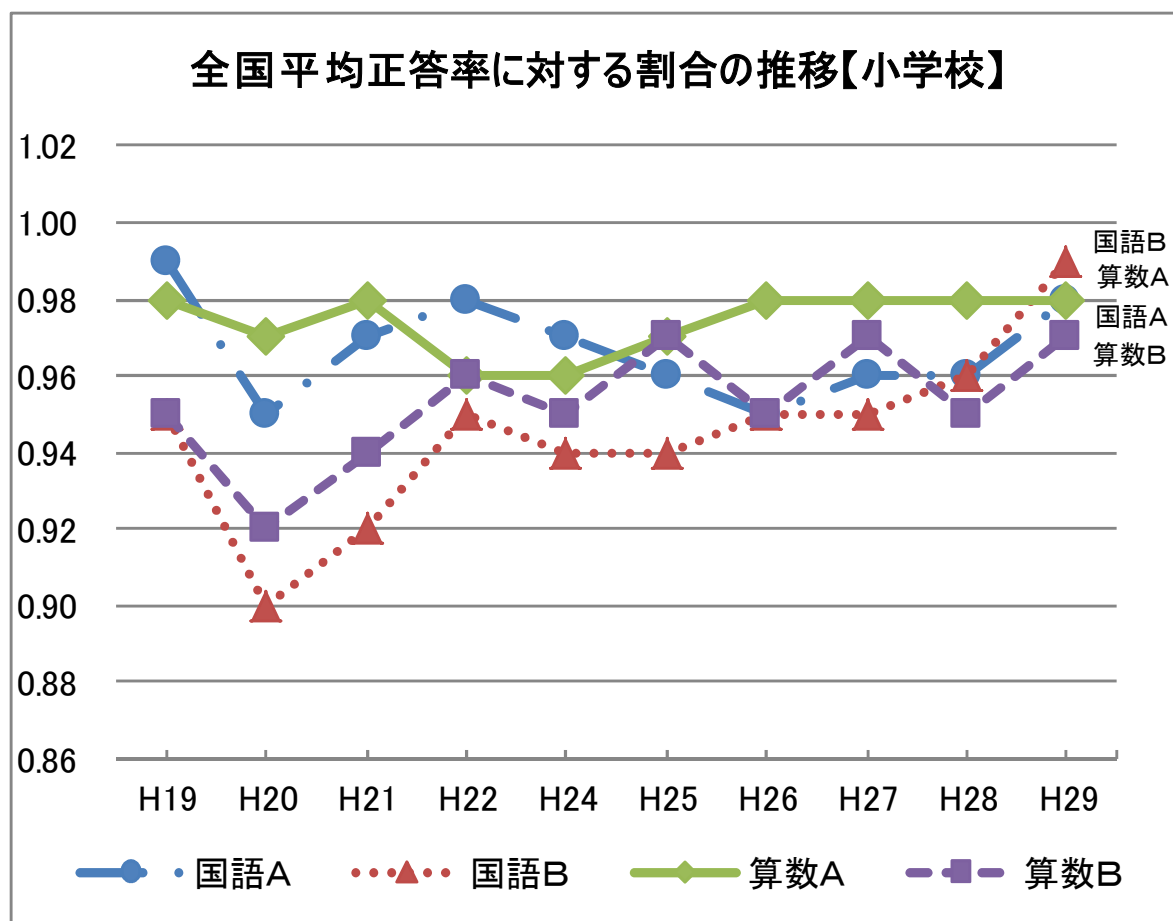
《課題2》 中学校数学Aは, 一進一退の状況であり, 数学Bは改善傾向であるが, 依然として, 低い状況が続いている。

数学A 27年度 96% → 28年度 95% → 29年度 **95%**

数学B 27年度 91% → 28年度 93% → 29年度 **94%**

(3) 調査結果の経年比較

■ 全国平均正答率に対する割合（平成19年度～平成29年度）



■ 全国平均正答率に対する割合（平成19年度～平成29年度）

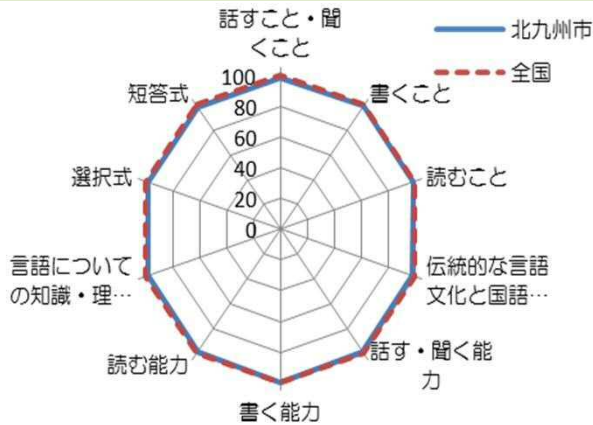
小学校		国語A	国語B	算数A	算数B	合計	中学校		国語A	国語B	数学A	数学B	合計
H19 年度	本市	81	59	81	61	281	H19 年度	本市	81	69	69	57	276
	全国	82	62	82	64	289		全国	82	72	72	61	286
	対全国比	99%	95%	98%	95%	97%		対全国比	99%	96%	96%	94%	96%
H20 年度	本市	62	45	70	47	225	H20 年度	本市	73	58	60	47	237
	全国	65	51	72	52	240		全国	74	61	63	49	247
	対全国比	95%	90%	97%	92%	94%		対全国比	99%	95%	94%	95%	96%
H21 年度	本市	68	46	77	52	243	H21 年度	本市	76	73	60	54	262
	全国	70	51	79	55	254		全国	77	75	63	57	271
	対全国比	97%	92%	98%	94%	96%		対全国比	98%	97%	95%	95%	96%
H22 年度	本市	82	74	71	47	274	H22 年度	本市	75	66	61	41	243
	全国	83	78	74	49	285		全国	75	65	65	43	248
	対全国比	98%	95%	96%	96%	96%		対全国比	99%	102%	94%	94%	98%
H24 年度	本市	79	52	70	56	258	H24 年度	本市	74	61	59	44	237
	全国	82	56	73	59	269		全国	75	63	62	49	250
	対全国比	97%	94%	96%	95%	96%		対全国比	98%	97%	94%	89%	95%
H25 年度	本市	60	46	75	57	238	H25 年度	本市	75	65	60	38	238
	全国	63	49	77	58	248		全国	76	67	64	42	249
	対全国比	96%	94%	97%	97%	96%		対全国比	98%	96%	95%	92%	96%
H26 年度	本市	69	53	76	55	253	H26 年度	本市	77	48	62	54	242
	全国	73	56	78	58	265		全国	79	51	67	60	258
	対全国比	95%	95%	98%	95%	96%		対全国比	97%	93%	93%	91%	94%
H27 年度	本市	67	62	73	44	246	H27 年度	本市	74	63	62	38	236
	全国	70	65	75	45	256		全国	76	66	64	42	248
	対全国比	96%	95%	98%	97%	96%		対全国比	97%	96%	96%	91%	95%
H28 年度	本市	70	56	76	45	246	H28 年度	本市	74	64	59	41	237
	全国	73	58	78	47	256		全国	76	67	62	44	248
	対全国比	96%	96%	98%	95%	96%		対全国比	97%	96%	95%	93%	96%
H29 年度	本市	74	57	77	44	252	H29 年度	本市	77	70	62	45	254
	全国	75	58	79	46	257		全国	77	72	65	48	262
	対全国比	98%	99%	98%	97%	98%		対全国比	99%	98%	95%	94%	97%

※ 正答率と対全国比は実際の数値で計算をしていますが、整数値で表記しています。

(4) 各教科の分析結果

小学校国語A（知識に関する問題）

領域・観点・問題形式別平均正答率の状況

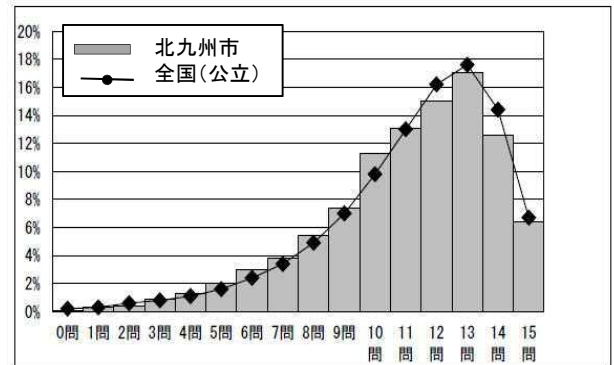


- ◇各領域及び観点別の平均正答率の全国との差は、
-0.4～-0.9と、全国平均と同程度だった。
〈昨年度：-0.5～-3.9〉
- ◇問題形式別の平均正答率の全国との差は、-1.1～
-1.2と、全国平均と同程度だった。
〈昨年度：-1.9～-4.1〉

正答数分布図

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である。

平成29年度 小学校国語A 正答分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



- 全国、北九州市ともに、13問正解の児童の割合が最も多い状況である。
- 正答率40%以下（0～6問正解）の児童の割合は、8%である。
〈昨年度：12.9%〉
- 正答率80%以上（12～15問正解）の児童の割合は51%である。
〈昨年度：42.9%〉

小学校国語Aで成果があった問題

4 一【俳句の情景について考えたこととして適切なものを選択する問題】

【俳句カード】

ア 雪とけてくりくりしたる月夜かな
小林一茶

（調べた内容）
季節：雪とけて 季節：春
この俳句は、「寒い冬が終わり、雪がとけ、春が来た。月もきれいで明るくかがやく夜だなあ。」とよんでいるそうです。

イ ひやひやと月も白しや秋の風
上島鬼貫

（調べた内容）
季節：秋の風 季節：秋
この俳句は、「秋のこころよい風がふく中では、月の色もひんやりと白っぽいなあ。」とよんでいるそうです。

中西さんは、【話し合いの様子】の（A）でどのように発言したでしょうか。
で、その番号を書きましょう。

【話し合いの様子】

- 1 かすんでいる様子 2 まっ白い様子
3 まんまるい様子 4 欠けていく様子

正答 3

北九州市正答率 81.0% 北九州市無解答率 0.1%
全国正答率 79.4% 全国無解答率 0.1%

文語調の俳句や短歌などの音読を通して「言葉の響きやリズムに親しむこと」や、「俳句や短歌に表れている情景や作者の思いについて想像すること」について、成果が見られます。

【さらなる定着を図るための学習活動例】

○全学年において、「音読暗唱ブックひまわり」を繰り返し音読したり、暗唱したりして、言葉の美しい響きや、リズムの楽しさを感覚的に味わうことができるようにしましょう。

古文や漢文、文語調の俳句や短歌の指導に当たっては、中学校の古典を学習を踏まえて、系統的、計画的に指導することが大切です。

小学校国語Aで課題があった問題

7 【漢字を正しく読んだり書いたりする問題】

正答

—— 部の漢字の読みをひらがなで、----- 部のひらがなを漢字で、それぞれでいねいに書きましょう。

(1) 参加たいしょう

正答 対象

北九州市正答率	43.8%	北九州市無解答率	9.5%
全国正答率	42.0%	全国無解答率	10.6%

(5) 箱がおいてあります

正答 置(いて)

北九州市正答率	68.6%	北九州市無解答率	11.9%
全国正答率	76.8%	全国無解答率	11.8%

学習した漢字を、日常生活で使用する文や文章の中で、意図や目的に応じて適切に使うことについて、課題が見られます。

【さらなる定着を図るための学習活動例】

- 学習した漢字について、国語辞典や漢字辞典を使って意味を調べ、主語と述語が整った短文を作る活動
- 既習の漢字の中から同音異義語を探して、カードに整理する活動
- 「平仮名のみで書いた文章」と「漢字を適切に使って書いた文章」を比較し、漢字を適切に使うことのよさについて話し合う活動 など

新学習指導要領では、語彙指導の改善・充実により、語彙を豊かにすることが示されています。他教科等の調べ学習や日常生活の中でも、積極的に国語辞典や漢字辞典を利用し、語彙を広げることができるよう、言語環境を整えておくことが大切です。

課題に対する今後の取組

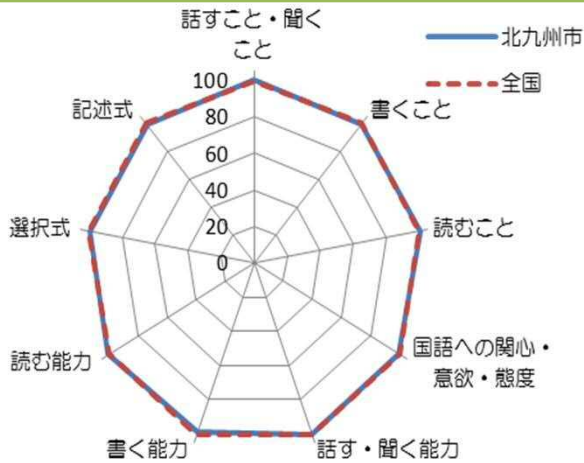
＜古文や漢文、文語調の短歌や俳句などの指導について＞

- ・小学校段階の指導のねらいと、中学校での古典の学習を踏まえて、引き続き、音読暗唱ブック「ひまわり」の活用を推進し、言葉の響きやリズムに親しむことができるようにしましょう。

＜当該学年までに配当されている漢字の確実な習得について＞

- ・各学年において学習した漢字を、各教科等や日常生活で使用する文や文章の中で適切に使うことができるように指導することが大切です。
- ・漢字を学習する際には、字形に注意しながら繰り返し書いて練習するだけにとどまらず、漢字のもつ意味を考えながら文や文章の中で正しく読んだり、書いたりする活動を充実させましょう。
- ・朝自習や補充学習では、「北九州市学力定着サポートシステム」の「基礎・基本定着問題集」の問題を活用し、「診断問題」で定着度を把握しましょう。

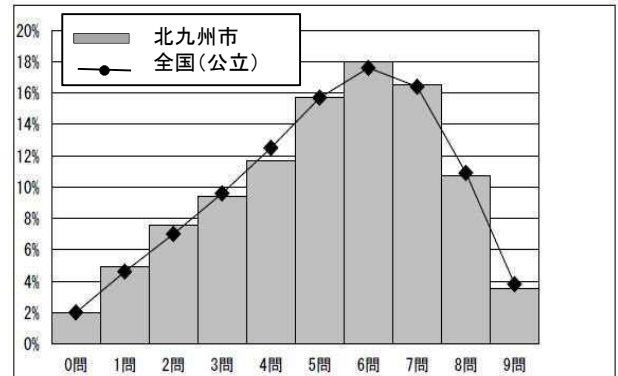
領域・観点・問題形式別平均正答率の状況



- ◇各領域及び各観点別の平均正答率の全国との差は、
-0.2～+0.3と、全国平均と同程度だった。
〈昨年度：-3.6～-1.6〉
- ◇「記述式」の問題の平均正答率の全国との差は、
-0.2と、全国平均と同程度だった。
〈昨年度：-2.7〉

正答数分布図

学力の分布は、正答数の多い側によった山型である。
平成29年度 小学校国語B 正答分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



- 全国、北九州市ともに、6問正解の割合が最も多い状況である。
- 正答率40%以下（0～3問正解）の児童の割合は、23.9%である。〈昨年度33.3%〉
- 正答率80%以上（8～9問正解）の児童の割合は、14.2%である。〈昨年度24.6%〉

小学校国語Bで成果があった問題

1 三【目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す問題】

折り紙のみりよくは、

100字 80字

- 【条件】
- 折り紙のみりよくについて、「スピーチメモ」と「グループの話し合いの様子」で出された意見から、それぞれ取り上げて書くこと。
 - スピーチとしてふさわしい言葉つかいに行すること。
 - 書き出しの言葉に続けて、八十字以上、百字以内にまとめて書くこと。
- なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

設問
石田さんは、友達の助言を受け、「スピーチの練習の様子」の中の「 」について、もう一度考えています。石田さんは、どのように話すと思いますか。その内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

正答例

折り紙のみりよくは、色やようがきれいな紙を折っているいろいろな形を作ることができることや、紙一まいから立体的な形ができること、組み合わせて形をとなげられることだと、私は思います。(95字)

北九州市正答率	49.7%	北九州市無解答率	2.5%
全国正答率	48.4%	全国無解答率	2.6%

目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫することについて改善が見られます。

記述式問題正答率（全国平均との差）
H28年度 -2.7 H29年度 -0.2 ↗

記述式問題

1	≡ 80～100字	+1.3
3	≡ 60～100字	+0.7

【さらなる定着を図るための学習活動例】

- スピーチの構成を個人や全体で見直す活動
- 動画を活用し、スピーチを振り返る活動
- 各教科等で調べたことをまとめて、聞き手に分かりやすく話したり、それらを聞いたりする活動 など

小学校国語Bで課題があった問題

2 三 【目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くことができるかどうかをみる問題】

設問

森さんたちは、緑のカーテンを作ったことのある中学生からの【アドバイス】をもとに、【緑のカーテン作りへの協力をお願い】の の中を書いています。次の の中の ☒ イ に入る内容を、あとの条件に合わせて書きましょう。

【アドバイス】

去年、わたしたちも緑のカーテンを作ったよ。おかげで
すずしい夏が過ごせたんだ。でも、水やりがとっても大変だっ
たなあ。
まず、毎朝水をやらないとすぐにかれてしまうんだ。朝、
水やりをわすれて、昼休みにあわてて見に行ったらしおれ
かけていたこともあったよ。
それから、大きな緑のカーテンを作るためには、たくさんの
植木ばちに水をやる必要があるんだ。植木ばちの数はどの
くらい大きな緑のカーテンを作るかで変わってくるよ。
水やりは大変だったけれど、すずしい夏が過ごせて、みん
なも喜んでくれて本当にうれしかったなあ。
何かこまったことがあったらいつでも相談にのるよ。
がんばって作ってね。



水やり協力してくれる人をぼ集めます

大きな緑のカーテンを作るためには水やりが大切です。
しかし、水やりはとっても大変です。なぜなら、

イ

このように水やりはとっても大変なので、たくさんの
協力が必要です。協力してくれる人はわたしたちに声
かけてください。ぜひいっしょに大きな緑のカーテンを
完成させ、全校ですずしい夏を過ごしましょう。

な ぜ なら、

30字

60字

〇〇〇【条件】
水やりが大変な理由を「アドバイス」から二つ取り上げて書くこと。
「緑のカーテン作りへの協力をお願い」にふさわしい表現で書くこと。
書き出しの言葉に続けて、三十字以上、六十字以内にまとめて書くこと。
なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

正答例

なぜなら、a 毎朝水をやらないといけないし、大きなカー
テンを作るために、b たくさんの植木ばちに水をやる必要が
あるからです。

多く見られた誤答

水やりが大変な理由について、【アドバイス】の中の以下
の水やりが大変な理由 a, b のどちらか一方を取り上げ
て書くことができていない。

＜水やりが大変な理由＞

- a 毎朝水をやること
- b たくさんの植木ばちに水をやること

誤答例

なぜなら、a 毎朝水をやらないと、すぐにかれてしまうからで
す。朝水やりをわすれるとしおれかけることもあるからです。

北九州市正答率	30.4%	北九州市無解答率	2.7%
全国正答率	33.0%	全国無解答率	2.8%

目的や意図に応じて、取材した情報から必要な内
容を整理し、ふさわしい表現で書くことに課題が
見られます。

【さらなる定着を図るための学習活動例】

○新聞やリーフレットなど、文章の種類や特徴を踏
まえ、書く内容や分量などを考えながら、目的や
意図に応じて簡単に書く活動 など

課題に対する今後の取組

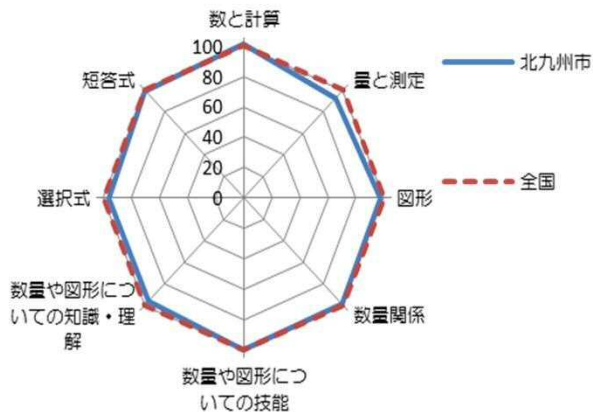


＜目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くことについて＞

読み手に自分の考えが伝わるような文章を書くためには、自分の考えとそのように判断した根拠と理由を
明確に示しながら述べるのが大切です。単元を設定する際は、「説得力を高めたい」などの目的意識を
もたせ、根拠を述べる必要性や効果を実感できるような授業を心がけましょう。また、判断の根拠となる
事実を示すことについて、以下のような学習活動を大切にしましょう。

- ・複数の本や文章から収集した事柄を読み返したり、整理したりしながら、情報と情報との共通点に着目
してまとめたり、見出しを付けたりする活動
- ・目的や意図に応じて、簡単に書くことと、詳しく書くことのどちらが読み手に分かりやすく伝えること
ができるかを考える活動
- ・文や文章の中から引用した部分と、自分の考えとの関係などを明確にする活動

領域・観点・問題形式別平均正答率の状況

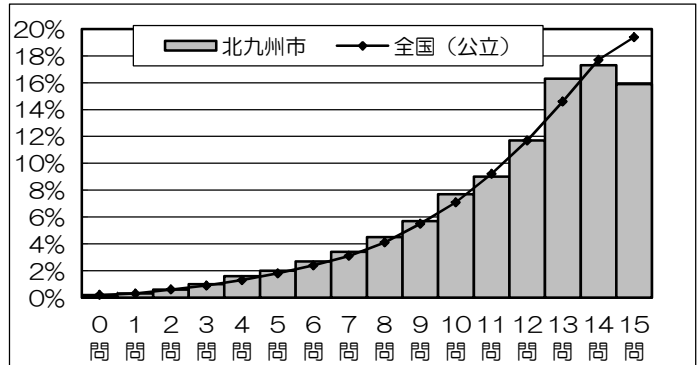


- ◇「数と計算」の平均正答率の全国との差は+0.6で、全国平均と同程度だった。 <昨年度：-0.1>
- ◆「量と測定」の平均正答率の全国との差は-4.8で、全国平均を若干下回った。 <昨年度：-5.0>
- ◆「数量や図形についての知識・理解」の平均正答率の全国との差は-2.8で、全国平均と同程度だった。 <昨年度：-2.5>

正答数分布図

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である。

平成29年度 小学校算数A 正答分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



- 全国は15問正解の児童の割合が最も多いが、北九州市は14問正解の割合が最も多い状況である。
- 正答率40%以下（0～6問正解）の児童の割合は、8.4%である。 <昨年度：8.8%>
- 正答率80%以上（12～15問正解）の児童の割合は、61.2%である。 <昨年度：56.1%>

小学校算数Aで成果があった問題

【小数を含むたし算とかけ算の混ざった計算問題】

②

次の計算をしましょう。

$$(3) \quad 6 + 0.5 \times 2$$

正答 7

北九州市正答率	74.3%	北九州市無解答率	0.4%
全国正答率	66.6%	全国無解答率	0.6%

+ , - , × , ÷ が混ざった計算の順序についての理解が進んでいます。

【さらなる定着を図るための学習活動例】

- 先に計算をする場所に下線をひく活動
- 間違った計算例の誤りを指摘し、修正する活動
- 整数と小数が混ざった計算で、小数点がどこかを意識できるようにする活動
- 数直線等を用いて6を「6.0」や「0.1の60こ分」などに見たりする活動

数の仕組みと計算の仕方を関連付ける活動を設定しましょう。

小学校算数Aで課題があった問題

【資料から二次元表の合計欄に入る数を求める問題】

⑨

家でイヌやネコを飼っているかどうかを、13人に聞いて、下のように記録しました。

飼っている動物調べ		
出席番号	イヌ	ネコ
1	○	×
2	×	×
3	○	×
4	○	○
5	○	×
6	×	×
7	○	×
8	×	×
9	○	○
10	×	○
11	○	×
12	×	×
13	○	×

○…飼っている
×…飼っていない

左の記録を下の表にまとめます。

飼っている動物調べ (人)				
		ネコ		合計
		○	×	
イヌ	○	ア	イ	
	×	ウ	エ	
合計				オ

○…飼っている
×…飼っていない

(2) 上の表の オ にあてはまる数を書きましょう。

正答 13

北九州市正答率 54.1% 北九州市無解答率 5.3%
全国正答率 62.8% 全国無解答率 5.1%

調査人数を2回たし、合計を26とする誤答が多く見られました。表の見方の理解が必要です。

【さらなる定着を図るための学習活動例】

○実際に資料を集め、そこから二次元表を作成する活動

○表の合計欄の数と、集めた資料の数を比べる活動

表やグラフの作成の仕方だけでなく、見方も理解できるようにすることが大切です。

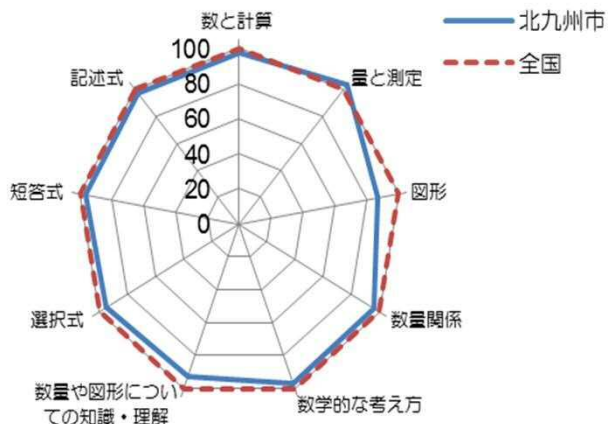
課題に対する今後の取組

＜基礎的・基本的な内容の確実な定着について＞

- ・「北九州市学力定着サポートシステム」の「診断問題」を活用し、どの問題でつまずきが見られるかを把握し、「基礎・基本定着問題集」「web問題チャレンジシート」等、本市で過去に発行されたプリント等を繰り返し活用し、確実な定着を図ることが大切です。
- ・その際、公式や用語等の暗記だけにとどまらず、図などに対応させながら用語の意味を理解できるようにすることが大切です。

(例) 三角形の面積を求める公式（底辺×高さ÷2）の例でいえば、「三角形の底辺は必ず下にあるわけではない。」「三角形の高さが図形の外に位置することもある。」といったことを、図と対応させながら実感できるようにする授業を行うなど。

領域・観点・問題形式別平均正答率の状況

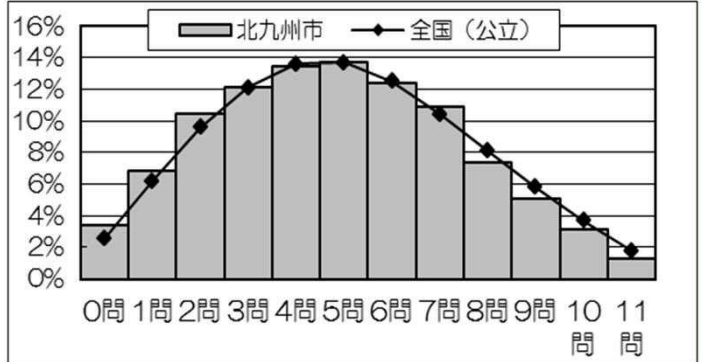


- ◇「量と測定」の平均正答率の全国との差は+1.6で、全国平均と同程度だった。 <昨年度：-1.6>
- ◆「図形」の平均正答率の全国との差は-1.7で、全国平均と同程度であった。 <昨年度：-1.9>
- ◆「数量や図形についての知識・理解」の平均正答率の全国との差は-3.5で、全国平均を若干下回った。 <昨年度：-2.1>

正答数分布図

学力の分布は、正答数の少ない側によった山型である。

平成29年度 小学校算数B 正答分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



- 全国、北九州市ともに5問正解の児童の割合が最も多い状況である。
- 正答率40%以下（0～4問正解）の児童の割合は、46.1 %である。 <昨年度：45.7%>
- 正答率80%以上（9～11問正解）の児童の割合は、9.5%である。 <昨年度：3.6%>

小学校算数Bで成果があった問題

【仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める問題】

③

かずやさんたちは、ゴムで動く車を作りました。

下の図のように車と発射台を輪ゴムでつなぎ、車を引いて輪ゴムのばしてから放すと、車が進みます。車の先頭が、図の㊦の位置に来るまで輪ゴムのばした場合と、㊧の位置に来るまで輪ゴムのばした場合に、どれだけ車が進むのかを調べます。

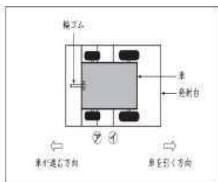


表2 ㊦の位置に来るまで輪ゴムのばした場合の記録

回数	車が進んだきり
1	7 m 52 cm
2	7 m 31 cm
3	7 m 54 cm
4	7 m 20 cm
5	7 m 43 cm

かずやさんは、平均を求める計算を簡単にするために、7 m をこえた部分に着目し、次のように平均を求めました。

【かずやさんの平均の求め方】

7 m をこえた部分の平均を求めます。
 $(52 + 31 + 54 + 20 + 43) \div 5 = 40$
 7 m に、求めた平均の 40 cm をたします。
 車が進んだきりの平均は、7 m 40 cm です。

【かずやさんの平均の求め方】を聞いたはるなさんは、次のように考えました。



7 m のかわりに、7 m 20 cm をこえた部分に着目しても、平均を求めることができます。

(2) 7 m 20 cm をこえた部分に着目した平均の求め方を、言葉や式を使って書きましょう。

正答 7 m 20 cm をこえた部分の平均を求めます。
 $(32 + 11 + 34 + 0 + 23) \div 5 = 20$
 もとにした 7 m 20 cm に、求めた平均の 20 cm をたします。
 車が進んだきりの平均は、7 m 40 cm です。

北九州市正答率	31.8%	北九州市無解答率	11.6%
全国正答率	26.1%	全国無解答率	12.7%

仮の平均の考えを使った平均の求め方について、説明することができつつあります。

【さらなる定着を図るための学習活動例】

○平均がどれくらいかを見積もる活動

○仮の平均と、実際の数値が表す意味を、グラフと式、言葉などで説明する活動

平均の学習だけでなく、計算のきまりを活用する場面など、他の学習においても、工夫して能率的に計算するよさについて実感できるようにすることが大切です。

小学校算数Bで課題があった問題

【示された式の数の意味を書き、その数が表のどこに入るかを選ぶ問題】

4

学校で、4年生以上の学年について、ハンカチとティッシュペーパーを持ってきているかどうかについて調べました。
ゆうじさんは、調べた結果を次のようにまとめました。

ハンカチ・ティッシュペーパーを持ってきた人数（人）				
学年	ハンカチを持ってきた	ティッシュペーパーを持ってきた	両方持ってこなかった	学年の人数
4年	40	47	2	52
5年	62	61	1	70
6年	52	57	1	60



ゆうじさんが作った表には、ハンカチとティッシュペーパーを両方持ってきた人数が書いてありません。

さくらさんは、ハンカチとティッシュペーパーを両方持ってきた人数を求めるために、表をまとめ直すことにしました。

5年生のハンカチ・ティッシュペーパー調べの結果（人）				
		ティッシュペーパー		合計
		持ってきた	持ってこなかった	
ハンカチ	持ってきた	ア	イ	62
	持ってこなかった	ウ	1	エ
合計		61	オ	70

さくらさんは、表をもとに次の式をつくり、ハンカチとティッシュペーパーを両方持ってきた5年生の人数を54人と求めました。

【さくらさんの式】

$$\begin{aligned} 70 - 61 &= 9 \\ 9 - 1 &= 8 \\ 62 - 8 &= 54 \end{aligned}$$

【さくらさんの式】の中の、「9」は、ティッシュペーパーを持てこなかった人数の合計を表しています。この「9」は表のオにあてはまります。

- (1) 【さくらさんの式】の中の、「8」はどのような人数を表していますか。言葉を使って書きましょう。
また、この「8」は、表のどこにあてはまりますか。アからエまでの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

正答 8はハンカチを持てきて、ティッシュペーパーを持てこなかった人数です。
【記号】イ

北九州市正答率 33.5% 北九州市無解答率 4.9%
全国正答率 39.8% 全国無解答率 4.8%

表のエに当てはまる数も8であることから、エを選択するという誤答が多いです。

【さらなる定着を図るための学習活動例】

- 目的に合わせて、表を作り直す活動
 - 二次元表の枠だけを示し、資料を基に表に当てはまる数を考える活動
- 二次元表以外にも、様々な表やグラフがあります。それらの「見方」や「よさ」について、理解できるようにすることが大切です。

課題に対する今後の取組

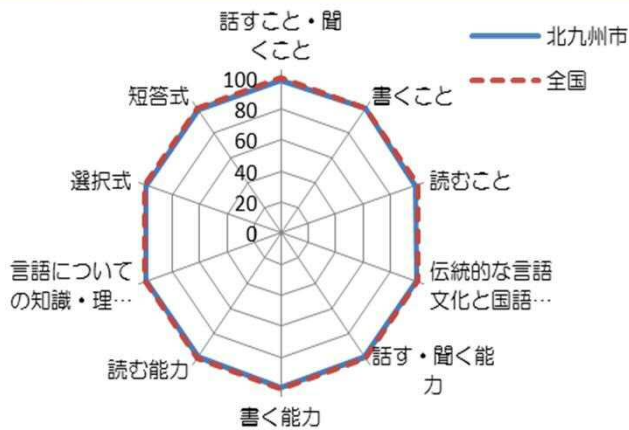
＜データの活用について＞

- ・新学習指導要領では、小学校の新領域として「データの活用」が設けられます。この内容は、中学校でも引き続き、「データの活用」の領域において学習していきます。
- ・中学校との学習の円滑な接続を図るためにも、実際に資料を集め、目的を意識して表・グラフを作る活動を充実させ、表やグラフにどんな特徴があるかを理解できるようにすることが大切です。
- ・作成後は「目的は何か。」「なぜその表・グラフを選んだか。」「表の項目やグラフの目盛りの取り方は適切か。」等、表やグラフを批判的に考察する活動を取り入れた授業を行いましょう。

＜単元末テストの活用について＞

- ・単元末テストに、思考力・判断力・表現力等を問う問題が掲載されています。テストの問題を解くことができるような力を、授業で意識して育てることが大切です。

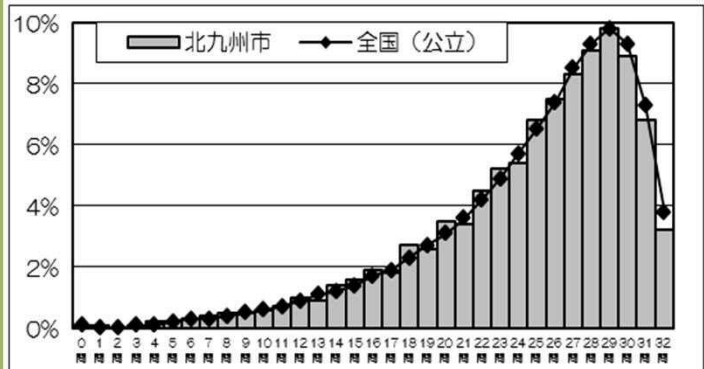
領域・観点・問題形式別平均正答率の状況



- ◇各領域および各観点別の平均正答率の全国との差は、 $-0.4 \sim -1.2$ と、全国平均と同程度だった。
 <昨年度： $-1.1 \sim -2.5$ >
 ◇問題形式別の平均正答率の全国との差は、 $-0.4 \sim -1.2$ と、全国平均と同程度だった。
 <昨年度： $-1.2 \sim -2.4$ >

正答数分布図

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である。
 平成29年度 中学校国語A 正答分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）

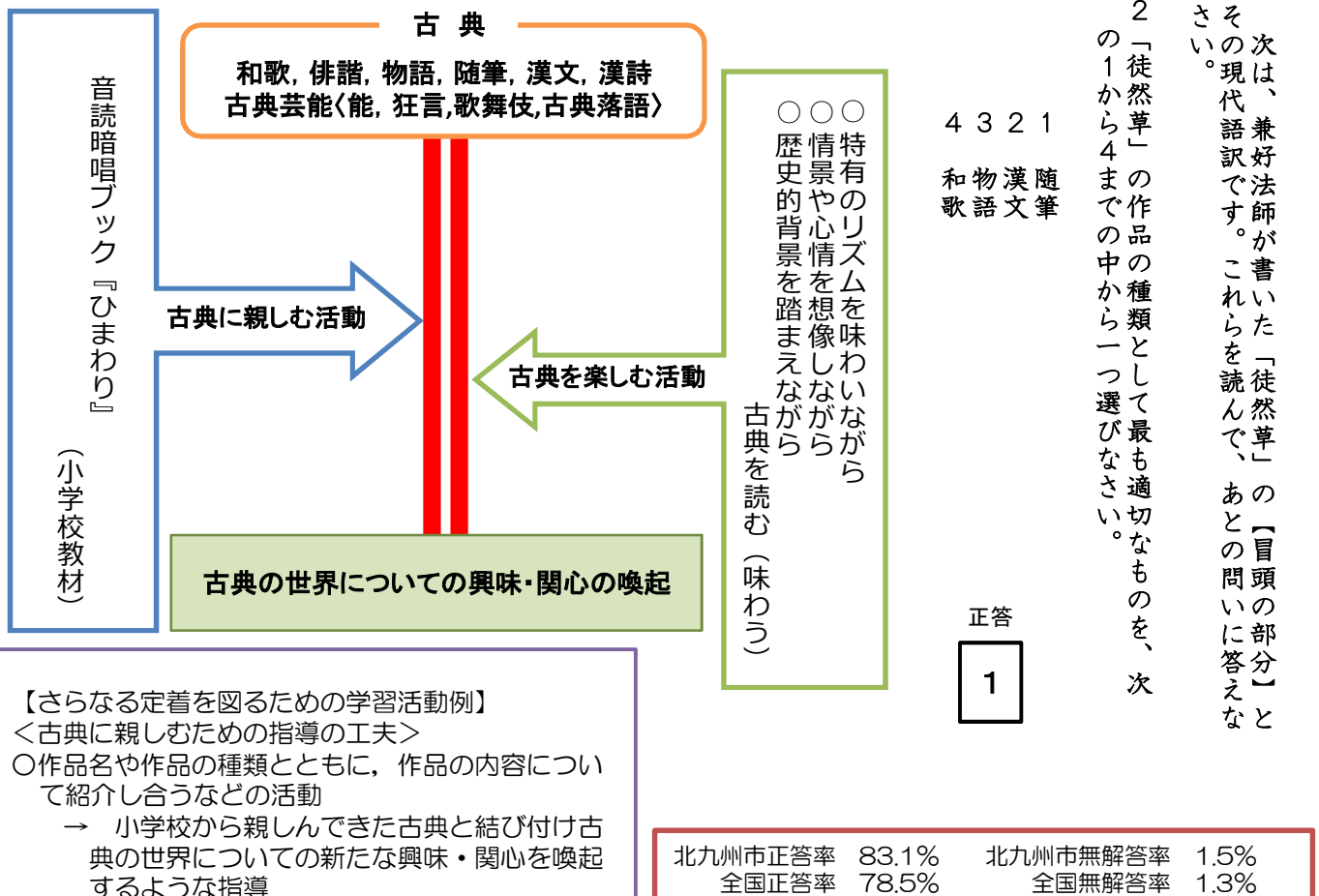


- 全国は28問正解の生徒の割合が最も多いが、北九州市は27問正解の割合が最も多い状況である。
 ○正答率40%以下（0～12問正解）の生徒の割合は、4.7%である。 <昨年度：4.8%>
 ○正答率80%以上（26～32問正解）の生徒の割合は、53.6%である。 <昨年度：41.1%>

中学校国語Aで成果があった問題



9 七2 【古典には様々な種類の作品があることを知っているかどうかをみる問題】



中学校国語Aで課題があった問題



9 五 【事象や行為などを表す多様な語句について理解しているかどうかをみる問題】

次は、校内でのあいさつを活発にするための取り組みについての【話し合いの記録】です。「活動内容案」の「2」については、今回は結論が出なかったので、あとでもう一度話し合うことになりました。 に当てはまる言葉を、漢字三字以内で書きなさい。

【話し合いの記録】

校内でのあいさつを活発にするための取り組み	
活動内容案	結果
1 標語やポスターの募集と掲示を行う。	可決
2 登校時間に校門の前であいさつや呼びかけを行う。	
3 下校時間に校門の前であいさつや呼びかけを行う。	否決

「結論が出ていない」
「あとでもう一度話し合う」
という状況を表す言葉を、
結果の欄に書かれている
「可決」「否決」
という言葉を参考にして考え、

（正答例）

“再検討” “保留”

という語句を連想できるか。

付けたい力

- 日常生活や社会生活における事象や行為などを表す多様な語句について理解を深める
- 話や文章で用いる語彙を豊かにする

【さらなる定着を図るための学習活動例】

＜多様な語句・語彙指導の工夫＞

- その場の状況に応じた「適切な」言葉について考える活動（考えさせる指導）
→目的や場面を踏まえて考えさせる
（短い言葉で表す方がよいのか、文や文章を用いて丁寧に表す方がよいのか）

北九州市正答率 32.2%	北九州市無解答率 14.1%
全国正答率 35.8%	全国無解答率 13.1%

課題に対する今後の取組

＜小中連携の視点に立った体系的・継続的な指導＞

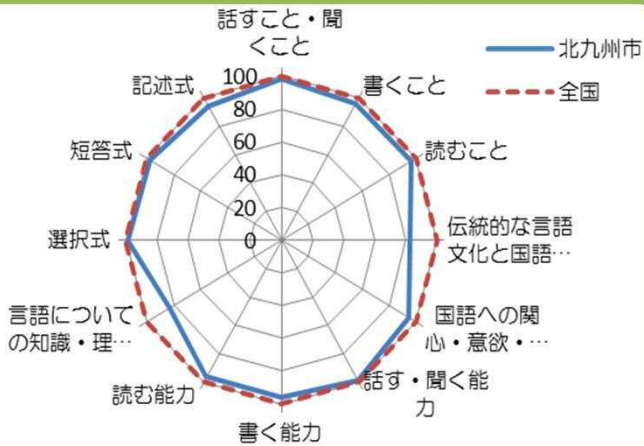
- ・小学校での、「音読暗唱ブックひまわり」による「古典に親しむ活動（指導）」や中学校での情景や心情を想像しながら読み味わう「古典を楽しむ活動（指導）」が、生徒の古典の世界についての興味・関心を高め、着実に成果として表れています。小中連携の視点に立った体系的・継続的な指導を継続していきましょう。

＜多様な語句を、場面や状況に応じて適切に使い分ける力の育成＞

- ・学校生活の中での話し合いなど具体的な場面を取り上げ、その場の状況に応じた適切な言葉について考えたり、調べたりするなどの学習活動（授業）を通して、事象や行為などを表す多様な語句を、場面や状況に応じて適切に使い分ける力を養うことが大切です。
- ・国語科の授業のみならず、学校生活におけるあらゆる場面において、その場の状況に応じた「適切な」言葉について考える活動（考えさせる指導）を充実させましょう。

◇思考力等の育成においては、「何を理解しているか（知識・技能の習得）」が重要です。「北九州市学力定着サポートシステム」の「基礎・基本定着問題集」「診断問題」を活用し、言語に関する知識・理解・技能の定着を図りましょう。

領域・観点・問題形式別平均正答率の状況



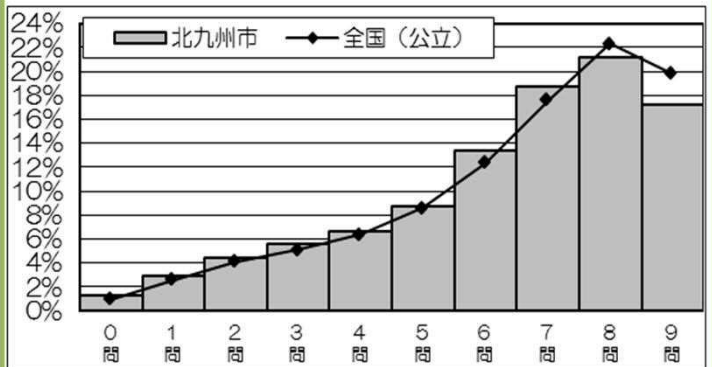
◇出題形式別の平均正答率の全国との差は、-1.0～-3.0と、全国平均と同程度である。

＜昨年度：-2.2～3.3＞

◆「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」及び「言語についての知識・理解・技能」の領域・観点における平均正答率の全国との差は、-7.1と、全国平均を下回った。

正答数分布図

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である。
平成29年度 中学校国語B 正答分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



○全国と北九州市は、ともに8問正解の割合が最も多い状況である。

○正答率40%以下（0～3問正解）の生徒の割合は、14.2%である。
＜昨年度：19.4%＞

○正答率80%以上（8～9問正解）の生徒の割合は、38.4%である。
＜昨年度：28.6%＞

中学校国語Bで成果があった問題

3 二 【目的に応じて必要な情報を読み取る問題】

2 松本さんは、【下書き】にある「『走れメロス』の作者 太宰治」の書き直した部分を、【資料1】と【資料2】を参考にして、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1 井伏鱒二を師としていた。友人に芥川龍之介、壇一雄がいる。
2 壇一雄を師としていた。友人に井伏鱒二、芥川龍之介がいる。
3 芥川龍之介を尊敬していた。師は、井伏鱒二。友人に壇一雄がいる。
4 壇一雄を尊敬していた。師は芥川龍之介。友人に井伏鱒二がいる。

私のおすすめ「走れメロス」

私が選んだ「走れメロス」の中の表現

「走れメロス」の作者 太宰治

「走れメロス」を他の人たちはどのように読んだ

「走れメロス」と「人質」

複数の資料の内容を吟味し、書かれた内容についての真偽や適否を見極めながら必要な情報を取り出す。

【さらなる定着を図るための学習活動例】
各教科等との連携を図りながら、グラフや年表など、様々な資料から情報を読み取り、活用していく活動

3 松本さんの学級では、国語の時間に、様々な文学作品に興味をもつことを目的として、一人一ページを使ってそれぞれの文学作品介绍を紹介し合う冊子を作成しています。松本さんは、太宰治の「走れメロス」を取り上げています。次は、松本さんが読んだ資料の一部である【資料1】、【資料2】と、松本さんが書いている【下書き】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

正答

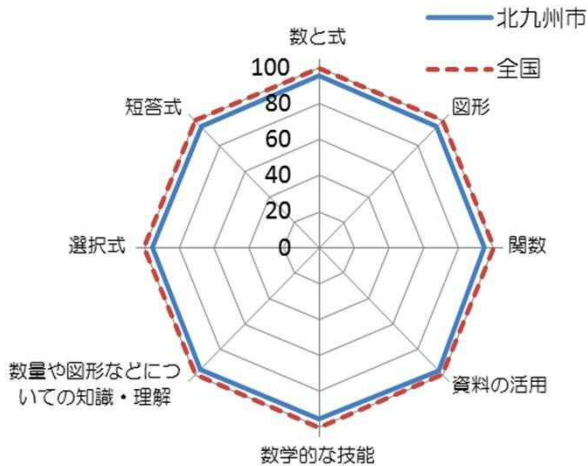
3

北九州市正答率 78.3% 北九州市無解答率 0.7% 全国正答率 78.7% 全国無解答率 0.5%

◇「複数の資料から目的に応じて必要な情報を読み取る問題」における全国平均正答率との差が年々減少している。
＜H26＞B2三：-4.7% → ＜H28＞B3二：-2.4% → ＜H29＞B3二：-0.4%

-19-

領域・観点・問題形式別平均正答率の状況

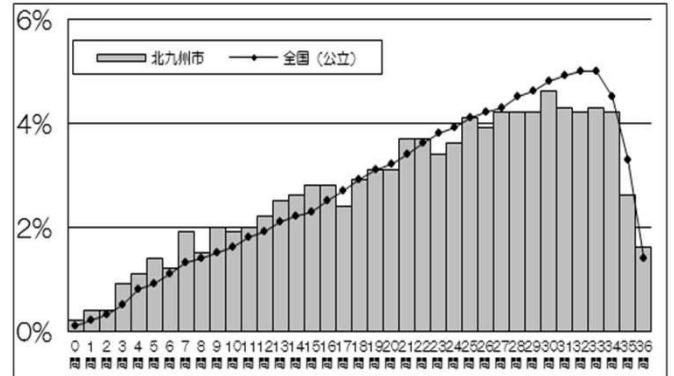


- ◆「図形」の領域の平均正答率の全国との差は－3.3で、全国平均を若干下回った。 <昨年度：－3.7>
- ◆「数学的な技能」の観点の平均正答率の全国との差は－3.3で、全国平均を若干下回った。 <昨年度：－3.6>
- ◆「選択式」の平均正答率の全国との差は－3.1で、全国平均を若干下回った。 <昨年度：－2.8>

正答数分布図

学力の分布は低位層が多く、二つの山で分布している。

平成29年度 中学校数学A 正答分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



- 全国は32問正解の生徒の割合が最も多いが、北九州市は30問正解の割合が最も多い状況である。
- 正答率40%以下（0～14問正解）の生徒の割合は、22.2%である。 <昨年度：24.9%>
- 正答率80%以上（29～36問正解）の生徒の割合は、30.0%である。 <昨年度：25.3%>

中学校数学Aで成果があった問題

【反復横とびの記録の範囲を求める問題】

- 14 (1) 次の記録は、ある中学校の生徒7人が反復横とびを20秒間行ったときの結果を、回数の少ない方から順に並べたものです。

記録

40	46	47	48	53	53	56
----	----	----	----	----	----	----

（単位：回）

反復横とびの記録の範囲を求めなさい。

正答 16

北九州市正答率	32.2%	北九州市無解答率	10.1%
全国正答率	28.6%	全国無解答率	9.6%

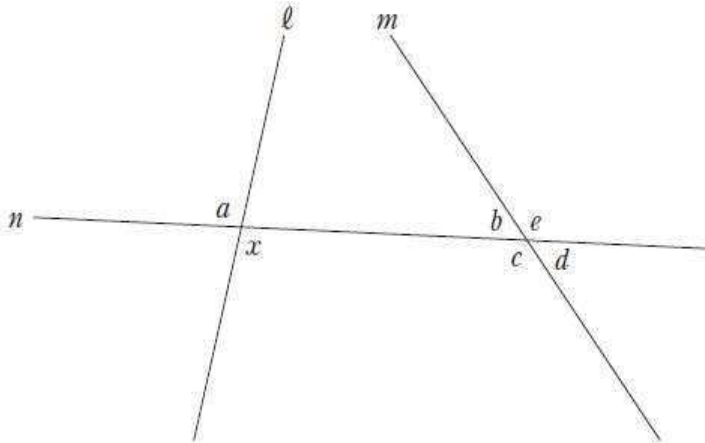
【さらなる定着を図るための学習活動例】

平成24年度【中学校】数学B ③「スキージャンプ」の資料を取り上げ、2人の選手の記録を基に、「次の1回でより遠くへ飛びそうな選手」を考えるための視点として、範囲の値の大小を比較することで、それぞれの選手を比べたときの記録の安定性の違いを捉えることができます。どちらの選手を選んだのかを話し合う活動や書く活動を通じて、範囲のよさを感じることができる場面を設定しましょう。

中学校数学Aで課題があった問題

【錯角の位置にある角について正しい記述を選ぶ問題】

- 6 (1) 次の図で、2つの直線 ℓ 、 m に1つの直線 n が交わっています。
 このとき、 $\angle x$ の錯角について、下のアからカまでのの中から正しいものを1つ選びなさい。



解答類型では **カ** の錯角はない、**ア** の対頂角の順に選択している生徒が多かったことから、「大きさが等しくなければ、錯角ではない」と勘違いをしていると思われます。

- ア $\angle x$ の錯角は、 $\angle a$ である。
 イ $\angle x$ の錯角は、 $\angle b$ である。
 ウ $\angle x$ の錯角は、 $\angle c$ である。
 エ $\angle x$ の錯角は、 $\angle d$ である。
 オ $\angle x$ の錯角は、 $\angle e$ である。
 カ $\angle x$ の錯角は、 $\angle a$ から $\angle e$ までの中にはない。

【さらなる定着を図るための学習活動例】
 平行線の性質を用いた適用問題を解いた後、この問題を用いてグループでの話し合う活動や書く活動で理由を説明させ、錯角の定義と「2つの直線が平行ならば、錯角が等しい」ことに気付くことができる場面を設定しましょう。

正答 イ

北九州市正答率	36.2%	北九州市無解答率	0.7%
全国正答率	43.1%	全国無解答率	0.6%

課題に対する今後の取組

<定理や性質の意味の理解について>

- 基礎的、基本的な計算などの技能の習得だけでなく、話し合い活動や書く活動で計算に用いた定理や性質の意味を考えて説明する習慣をつけましょう。
- 朝自習や補充学習では「北九州市学力定着サポートシステム」の「基礎・基本定着問題集」の選択式の問題を活用し、「診断問題」で生徒の学力の定着度を把握しましょう。
- 診断問題の結果は「集計ファイル」に入力して、生徒の学力の定着度を客観的に把握・分析を行うことで補充学習や授業での指導に役立てましょう。

中学校数学Bで課題があった問題

【与えられた式から、 a の変域に対応する b の変域を求める問題】

3

(3) 康平さんは調べたことをきっかけに、水を大切にしようと思いました。そこで、家でできる節水の方法を調べて表にまとめ、それをもとに毎日の取り組みを決めました。



節水の方法と節水量

節水の方法	節水量
シャワーを流しっぱなしにしている時間を、短くする。	1分あたり12L
歯磨きで、口をゆすぐときに、水を流しっぱなしにせずに、コップに水をためる。	1回あたり5L

康平さんの取り組み

- シャワーを流しっぱなしにしている時間を、3分から5分間くらい短くする。
- 1日2回の歯磨きで、2回ともコップに水をためる。

シャワーを流しっぱなしにしている時間を a 分間短くしたときの、1日あたりの節水量を b Lとすると、康平さんの取り組みによる1日あたりの節水量は、次の式で表すことができます。

$$b = 12a + 5 \times 2$$

康平さんの取り組みを行うとしたら、1日あたりの節水量がどのくらいになるかを、上の式をもとに考えます。

a の変域を $3 \leq a \leq 5$ とすると、 b の変域を求めなさい。

正答 $46 \leq b \leq 70$

北九州市正答率	33.6%	北九州市無解答率	23.3%
全国正答率	43.2%	全国無解答率	17.5%

【さらなる定着を図るための学習活動例】

我々の生活の場面では、考える値の範囲が限定されている場合が多いです。数学的な結果を事象に即してどのように解釈し、説明するかということについて、話し合う活動や書く活動を設定することで、関数の変域や方程式の解を吟味するよさを感じとらせましょう。また、中学卒業後のためにも、変数が x 、 y だけでなく、 a と b 、 s と t となるような関数もあることを確認しましょう。

課題に対する今後の取組

<理由や手順を説明することについて>

- ・授業の中でも、不足している条件や問題の条件を変えて考えること、結果からさらに分かることなどを生徒に聞き、そのように考える習慣をつけましょう。また、理由を説明する際は、理由と結論を書くことなど、説明の基本的な仕方を教え、授業の中で活用する場を設けましょう。
- ・定期考査においても、理由や手順を説明するなど、思考力・判断力・表現力等を問う問題を出題しましょう。

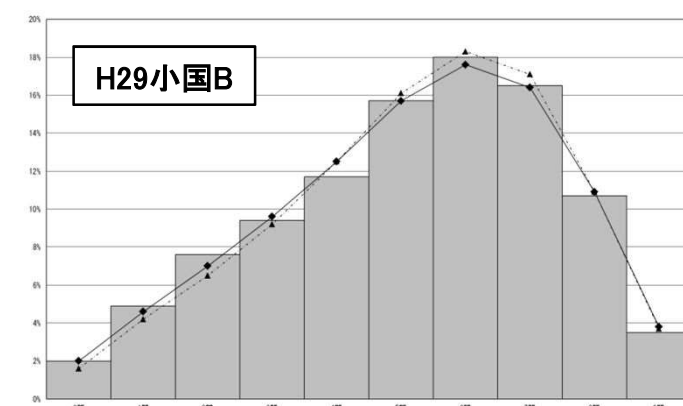
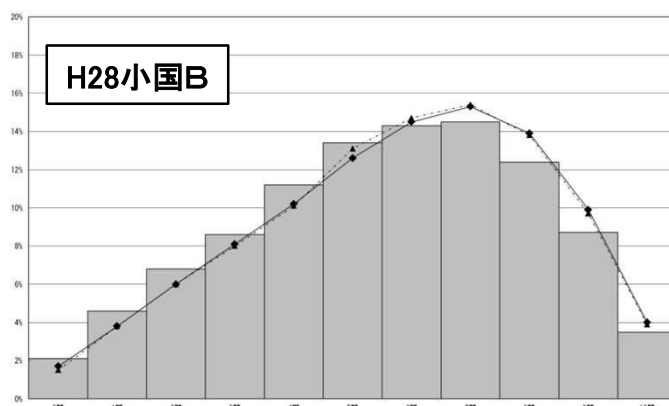
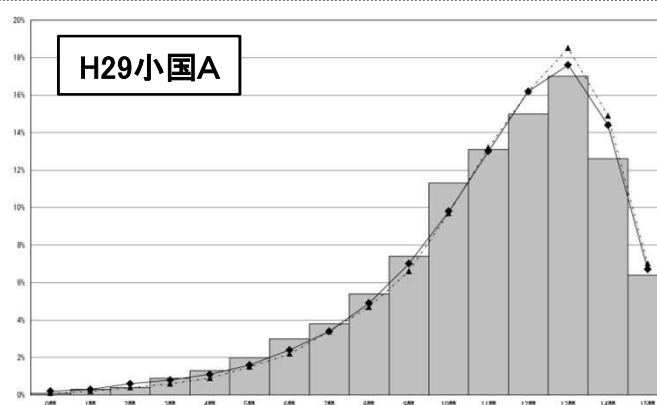
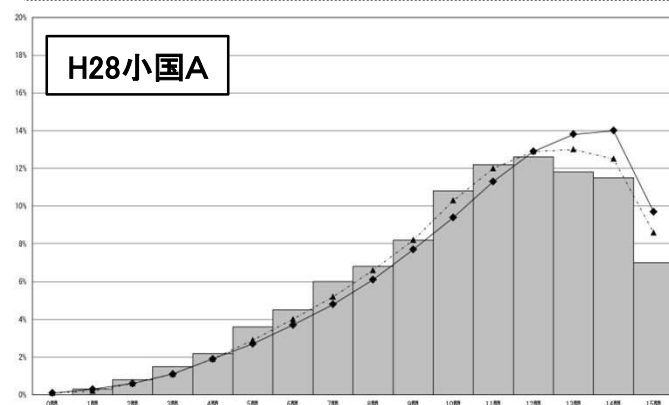
(5) H28－H29正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:割合)【小学校調査】

北九州市立小学校

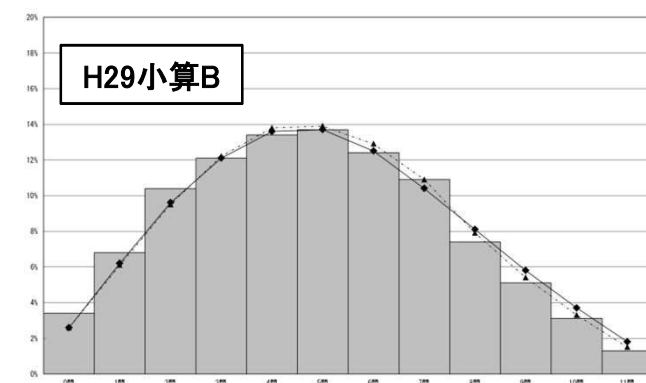
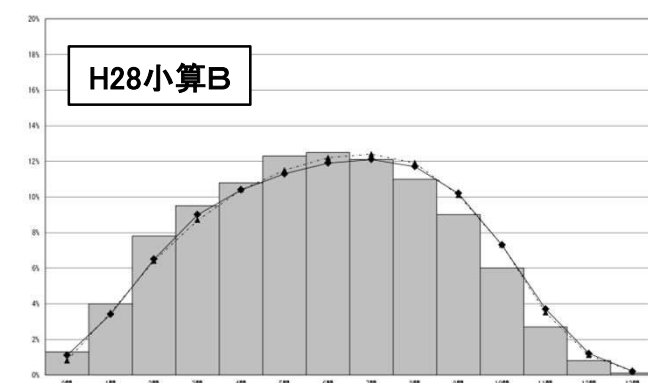
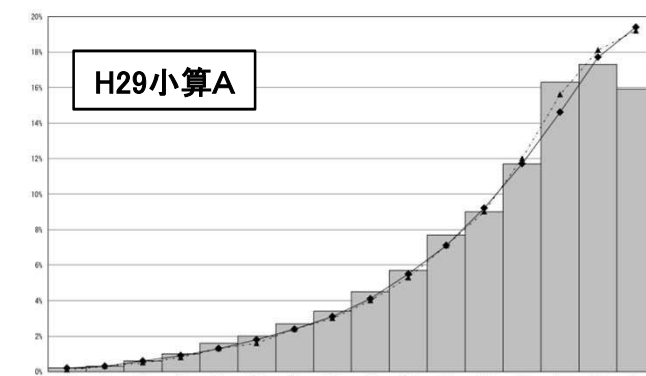
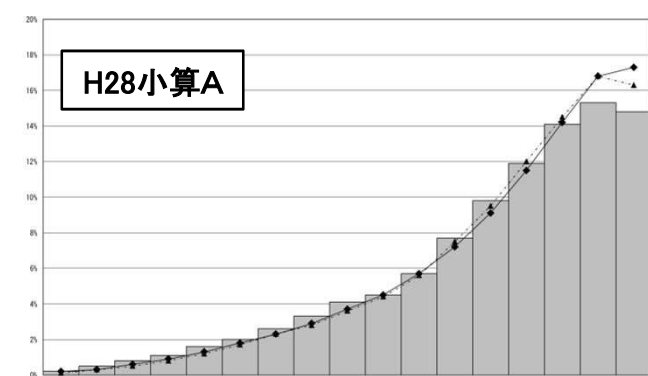
福岡県(公立)

全国(公立)

小学校国語では、低位層が減少し、高位層が増加している。分布図も全国平均に近づいている。



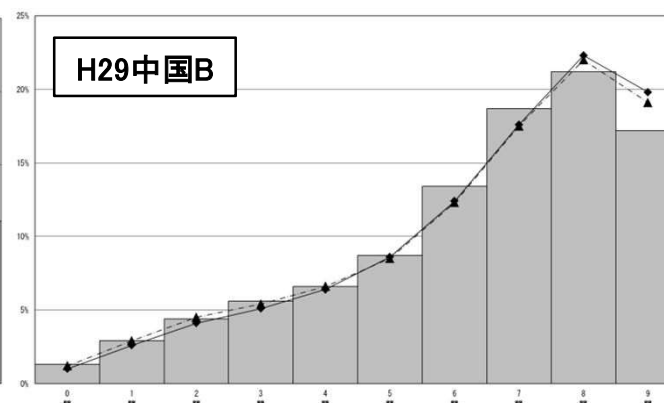
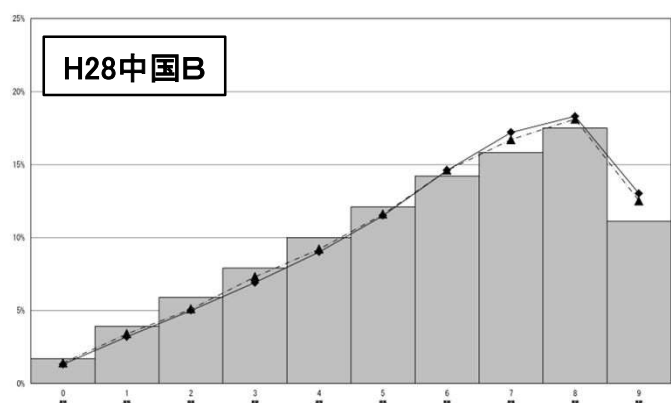
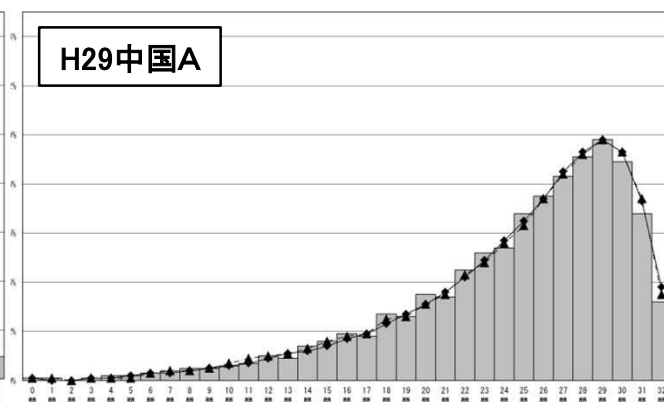
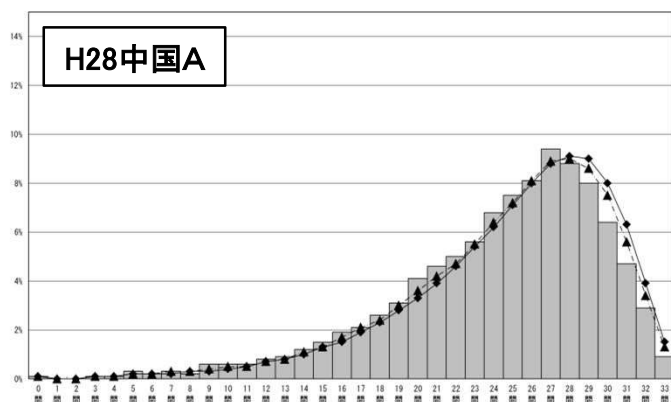
小学校算数では、低位層が減少し、高位層が増加している。分布図も全国平均に近づいている。



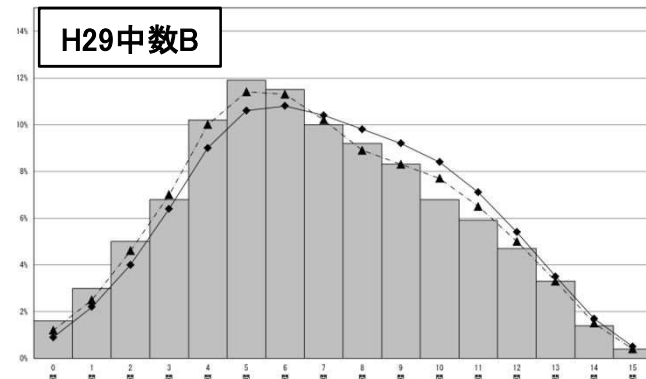
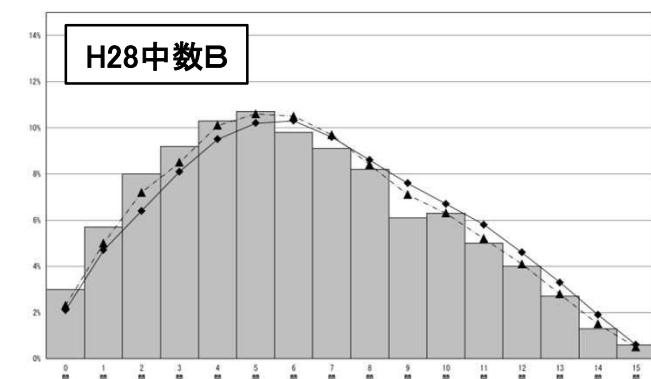
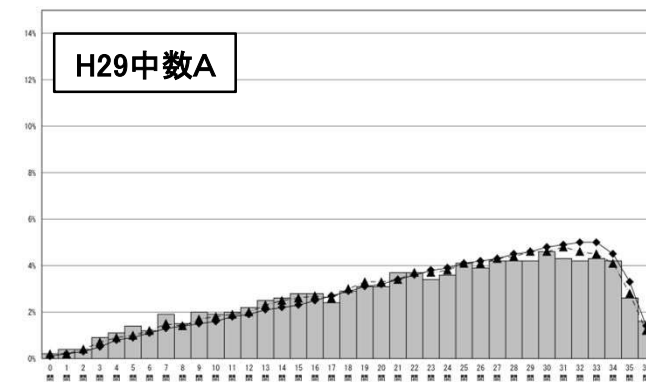
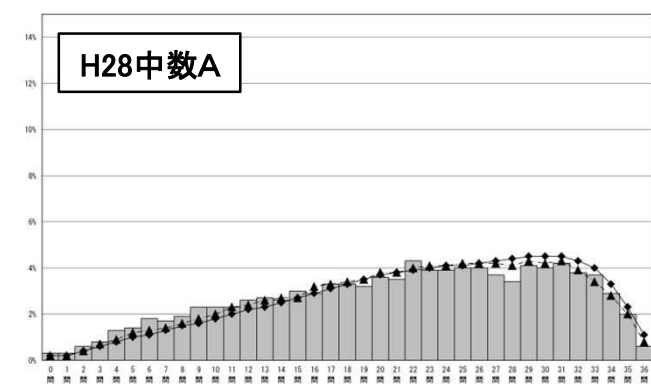
H28－H29正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:割合)【中学校調査】

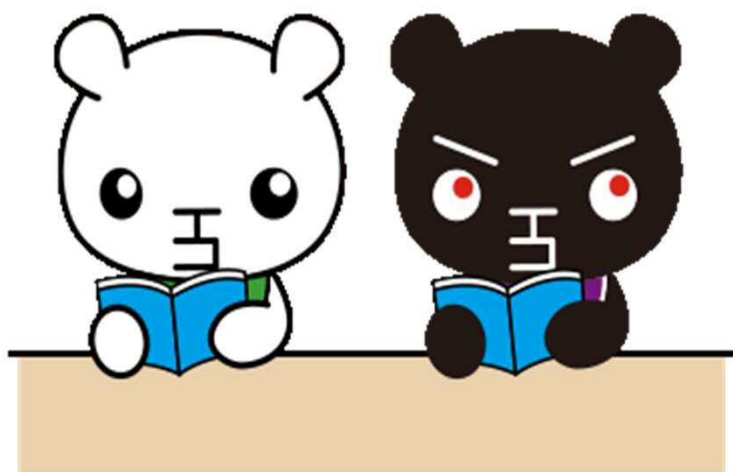
北九州市立中学校
福岡県（公立）
全国（公立）

中学校国語では、低位層が減少し、高位層が増加している。分布図も全国平均に近づいている。



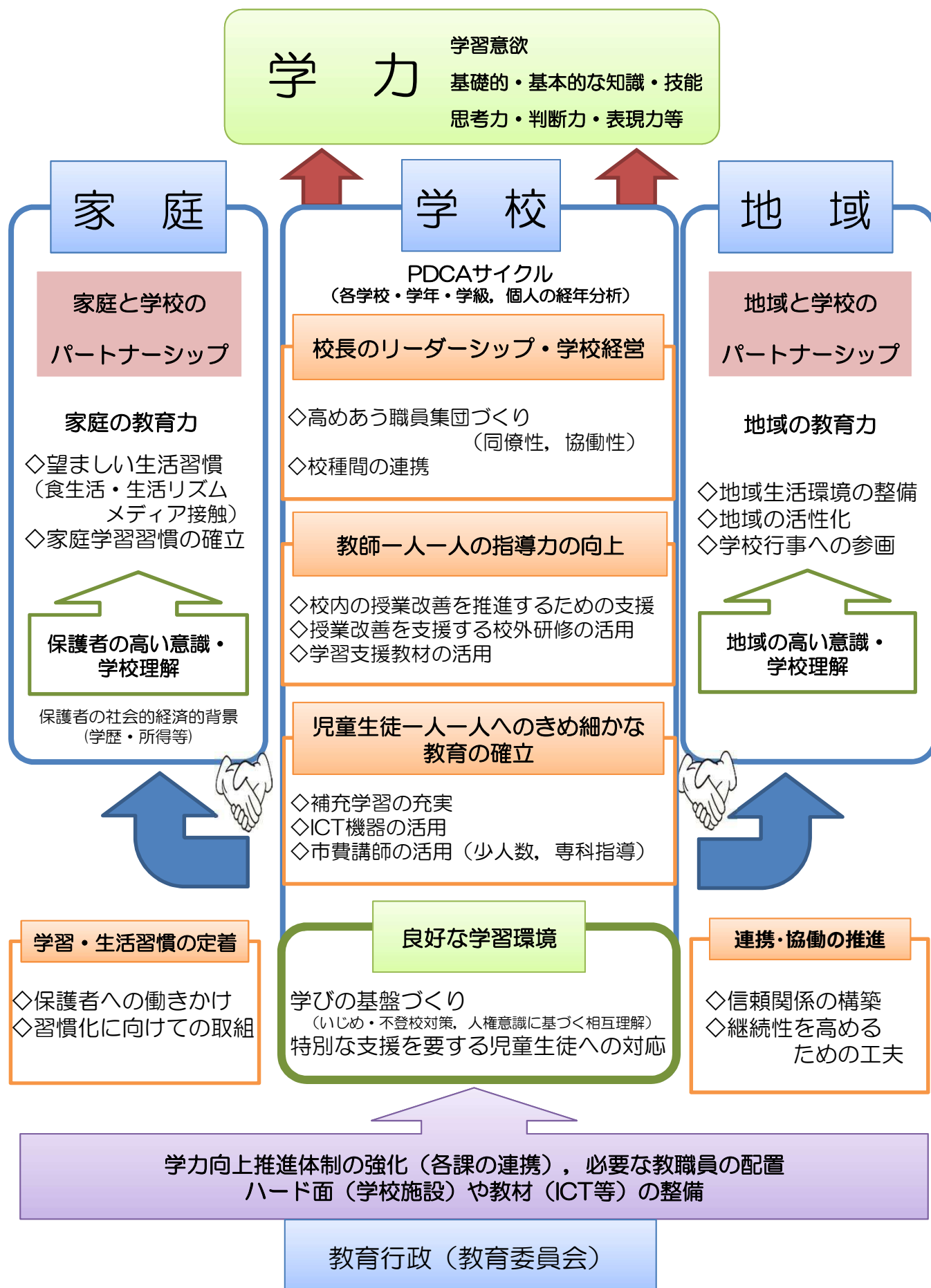
中学校数学では、低位層が減少し、高位層が増加している。分布図も全国平均に近づいている。





北九州市環境マスコットキャラクター ていたん&ブラックていたん
©ていたん&ブラックていたん, 北九州市

(6) 学力に影響を与える要因



(7) 学習状況調査結果

～ 「学びの育ち」と「心の育ち」の更なる成長に向けて ～

児童生徒質問紙から、「学びの育ち」と「心の育ち」に関係の深い質問項目を選び、子どもたちの質問に対する回答状況を数値化し、指標としています。

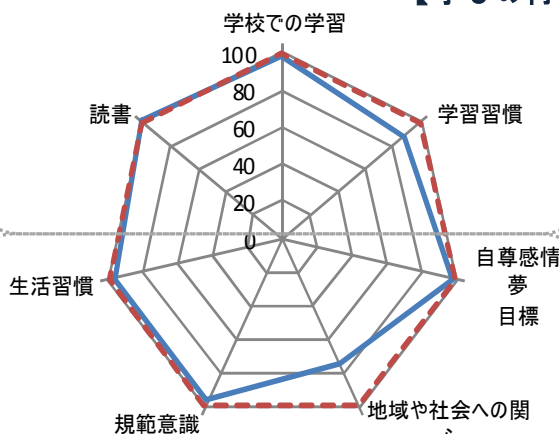
		質 問 項 目
学びの育ち	学習習慣	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。
		家で、学校の宿題をしていますか。
		学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日），1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
	学校での学習	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか。
		「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。
		授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。
		授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。
		授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか。
		授業では、学級の友達（生徒）との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。
		学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。
		学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。
	読 書	読書は好きですか。
心の育ち	生活習慣	朝食を毎日食べていますか。
		毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。
		普段（月～金曜日），1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）
	規範意識	学校のきまり（規則）を守っていますか。
	地域や社会への関心	今住んでいる地域の行事に参加していますか。
		地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。
	自尊感情 夢 目標	自分には、よいところがあると思いますか。
		将来の夢や目標を持っていますか。
		人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



平成29年度 本市と全国との比較

【小学校】

【学びの育ち】

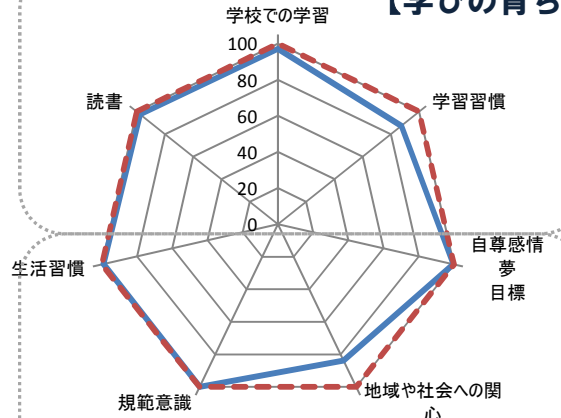


【心の育ち】

— 北九州市
- - - 全国

【中学校】

【学びの育ち】



【心の育ち】

「学びの育ち」について

＜学校での学習について＞

○「授業のはじめに目標(めあて・ねらい)を示したり、授業の最後に学習内容の振り返りを行ったりする」活動が小中学校ともに全国平均を上回っている。授業改善に向けた取組が進んでいる。

◎今後は、「めあて」や「振り返り」の内容や質の向上に向けた研修会を実施する等、授業改善に向けた取組を進めていく必要がある。

＜学習習慣について＞

●「学校の宿題をしていますか」については、小6 中3ともに全国平均と同程度となっているが、「自分で計画を立てて勉強をしていますか」については全国平均を下回っている。

◎今後、「基礎・基本定着問題」を週末課題として配布する等、家庭学習の充実に向けた取組を一層進めていく必要がある。また、「家庭学習チャレンジハンドブック」「活用編」の活用を促す等、家庭との連携を図りながら取組を進めていきたい。

「心の育ち」について

＜自尊感情・夢・目標について＞

○「自分には、よいところがある」については、H26年度の取組状況と比べると、小6中3ともに肯定的な回答が増え、全国と同程度となっている。

◎今後、学校・家庭・地域での様々な活動を通して、児童生徒が自己有用感を実感したり、達成感を味わうことができたりする機会を意図的・計画的に設定していく必要がある。

＜地域や社会への関心について＞

●「地域や社会への関心」については、肯定的な回答の割合が、小6中3ともに依然として全国平均を下回っている。

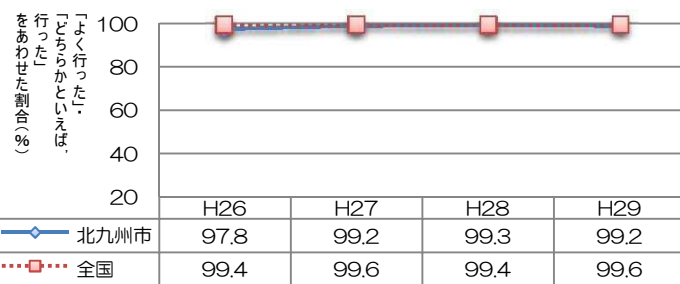
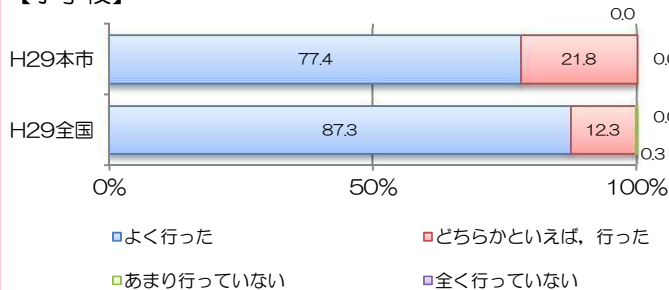
◎今後一層地域との連携を図っていく必要がある。地域の祭りや伝統行事、市民センターや公民館の行事等に進んで参加できる環境を整えるとともに、すでに地域行事に参加している自覚も促していきたい。

学習状況調査結果 ① 学びの育ち【宿題について】 ～ 学校質問紙より ～

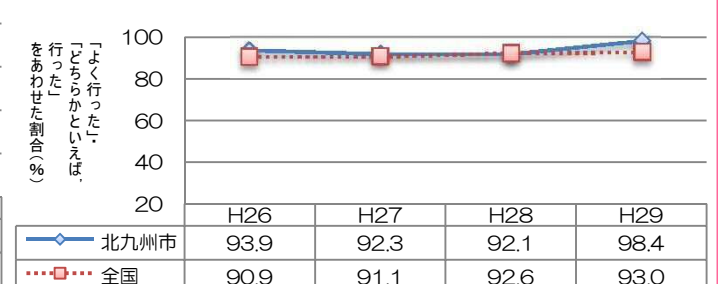
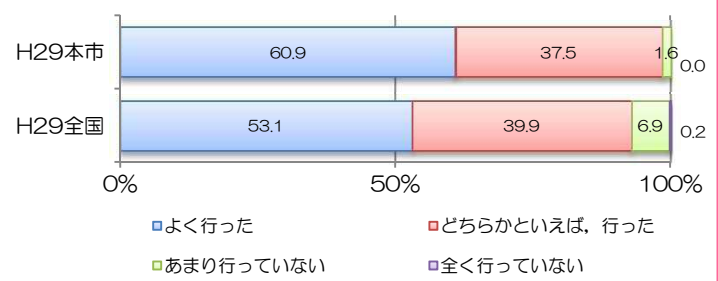
学校質問紙から、「学びの育ち」に關係の深いデータを示しています。(無回答、その他を除く。)

質問番号 小90・中88 【調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか】

【小学校】



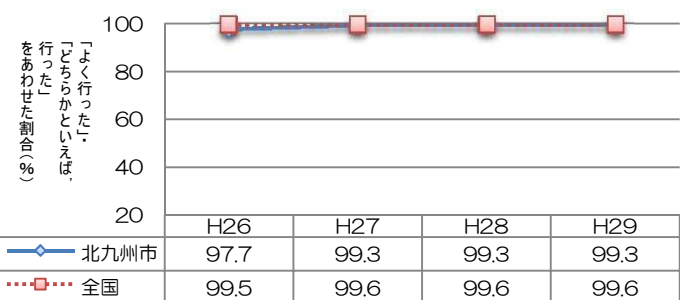
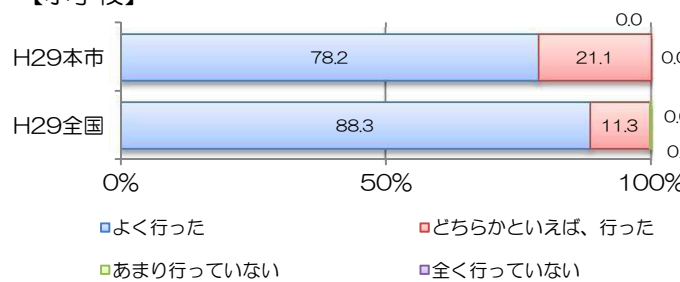
【中学校】



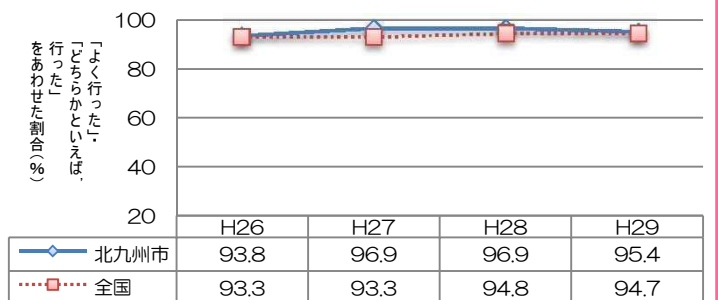
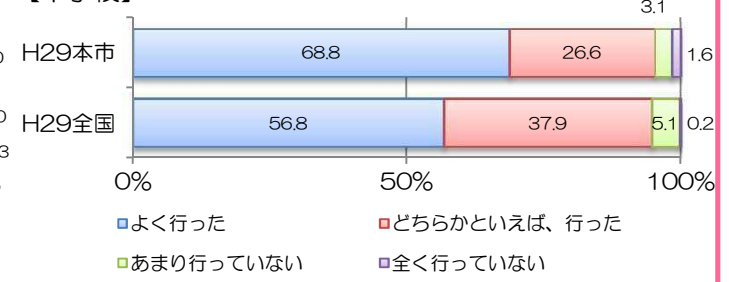
「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか」について肯定的な回答をした学校の割合は、小学校では全国平均と同程度であるが、中学校では6ポイント以上増加し、全国平均を上回っている。

質問番号 小92・中90 【調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、算数・数学の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか】

【小学校】



【中学校】

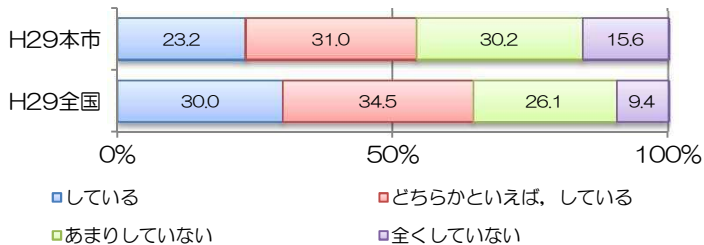


「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、算数の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか」について、肯定的な回答をした学校の割合は、小、中学校ともに全国平均と同程度である。

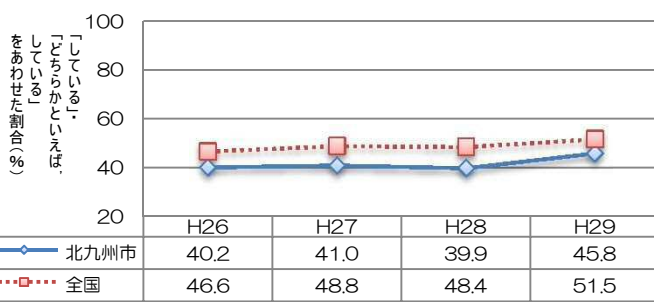
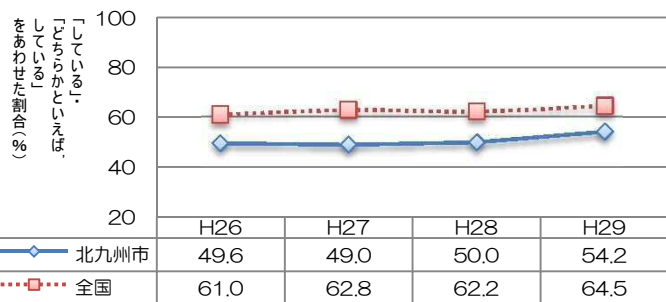
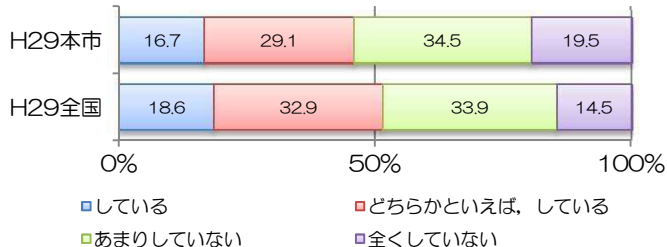
児童生徒質問紙から、「学びの育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答，その他を除く。）

質問番号 小29・中31 【家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか】

【小学校】



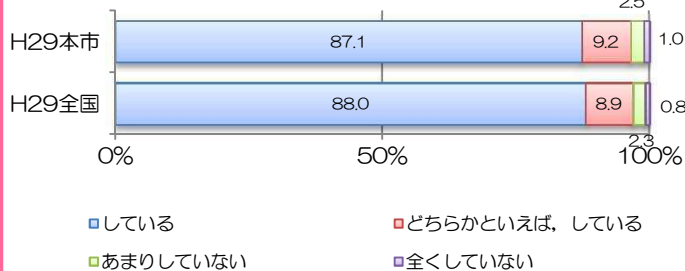
【中学校】



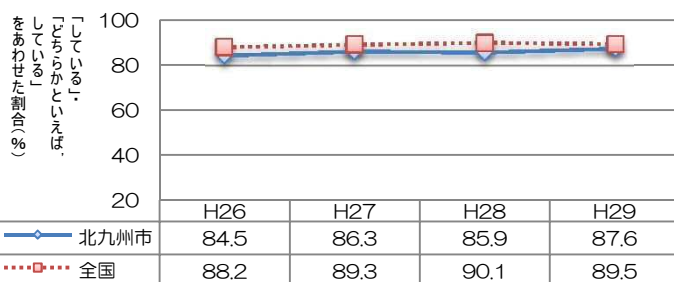
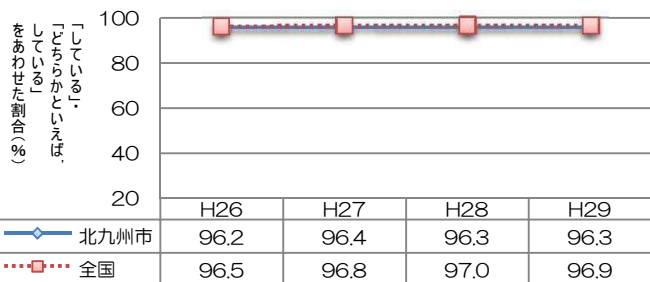
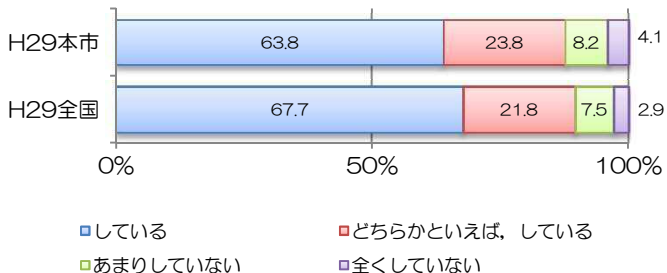
「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」について、肯定的な回答をした割合は、小6，中3ともに全国平均を下回っているが、小6では4ポイント以上、中3では5ポイント以上増加している。

質問番号 小30・中32 【家で、学校の宿題をしていますか】

【小学校】



【中学校】

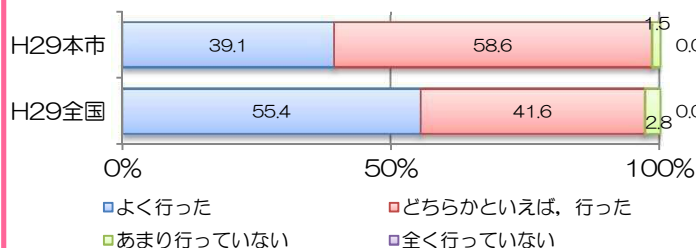


「家で、学校の宿題をしていますか」について肯定的な回答をした割合は、小6，中3ともに全国平均と同程度である。

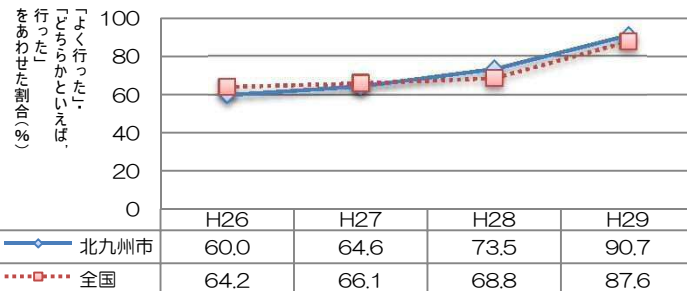
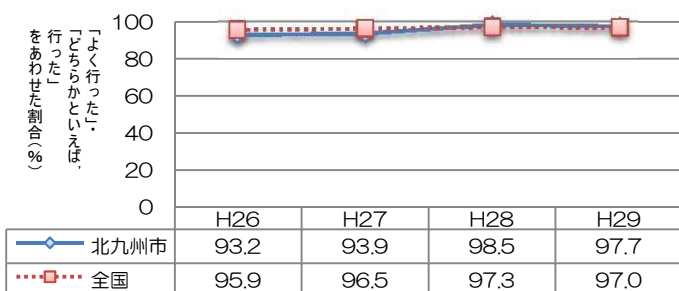
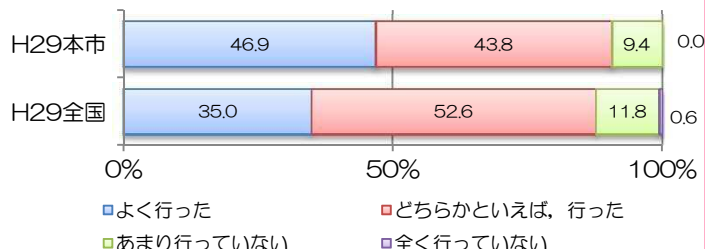
学校質問紙から、「学びの育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答、その他を除く。）

質問番号 小94・中92 【調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか(国語／算数・数学共通)】

【小学校】



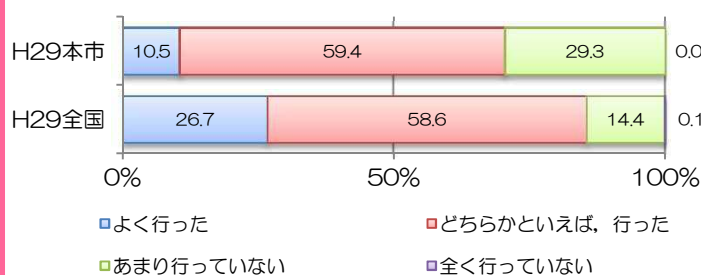
【中学校】



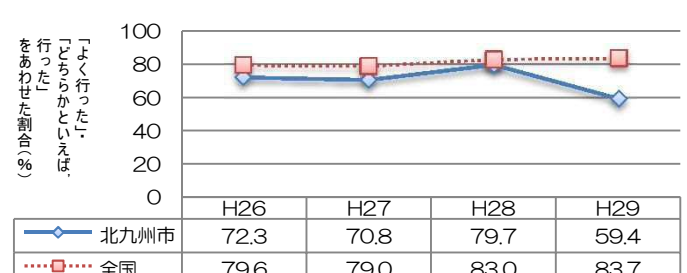
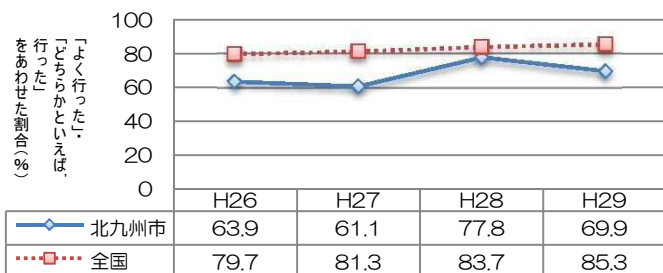
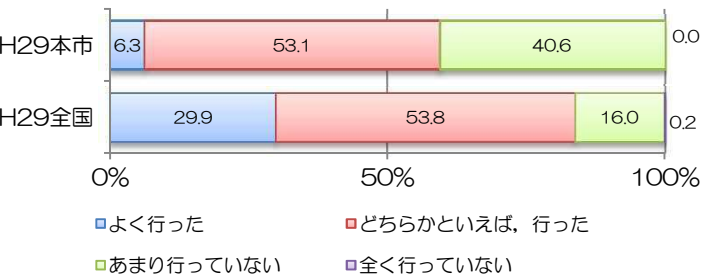
「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか(国語／算数・数学共通)」について、肯定的な回答をした学校の割合は、小学校では全国平均と同程度、中学校では、全国平均を若干上回っている。

質問番号 小・中40 【調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか】

【小学校】



【中学校】



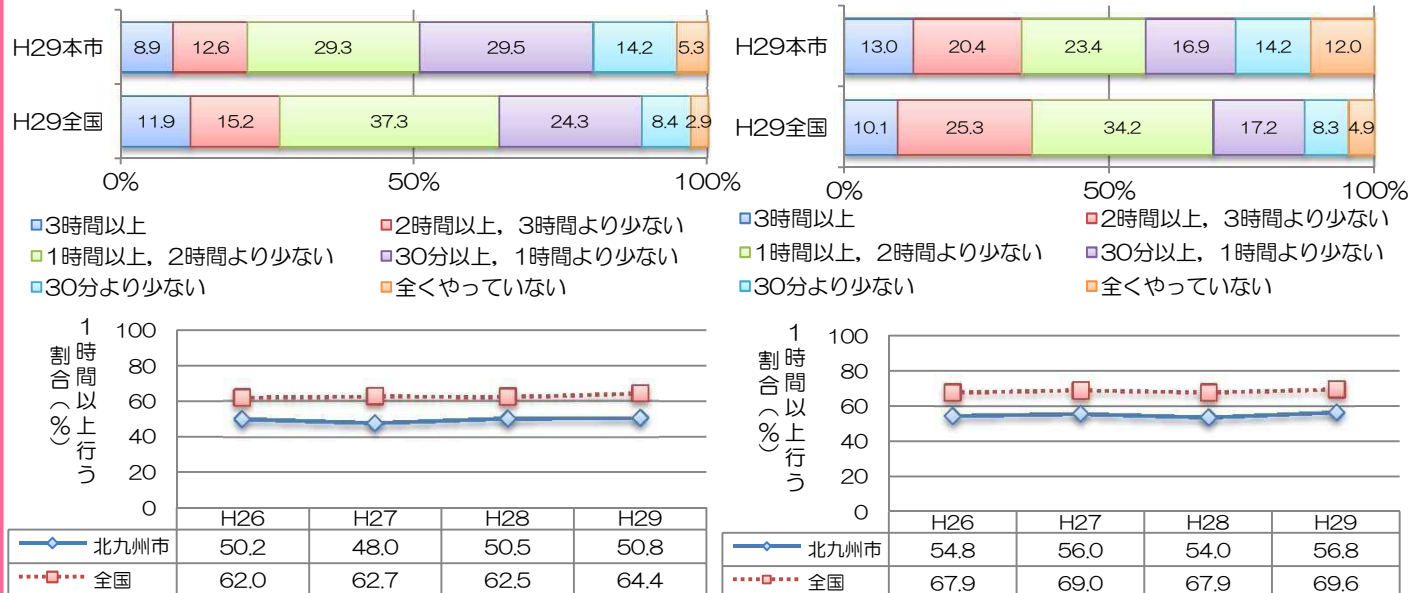
「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか」について、肯定的な回答をした学校の割合は、全国平均を下回っている。

児童生徒質問紙から、「学びの育ち」に關係の深いデータを示しています。(無回答, その他を除く。)

質問番号 小・中15 【学校の授業時間以外に, 普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)】

【小学校】

【中学校】

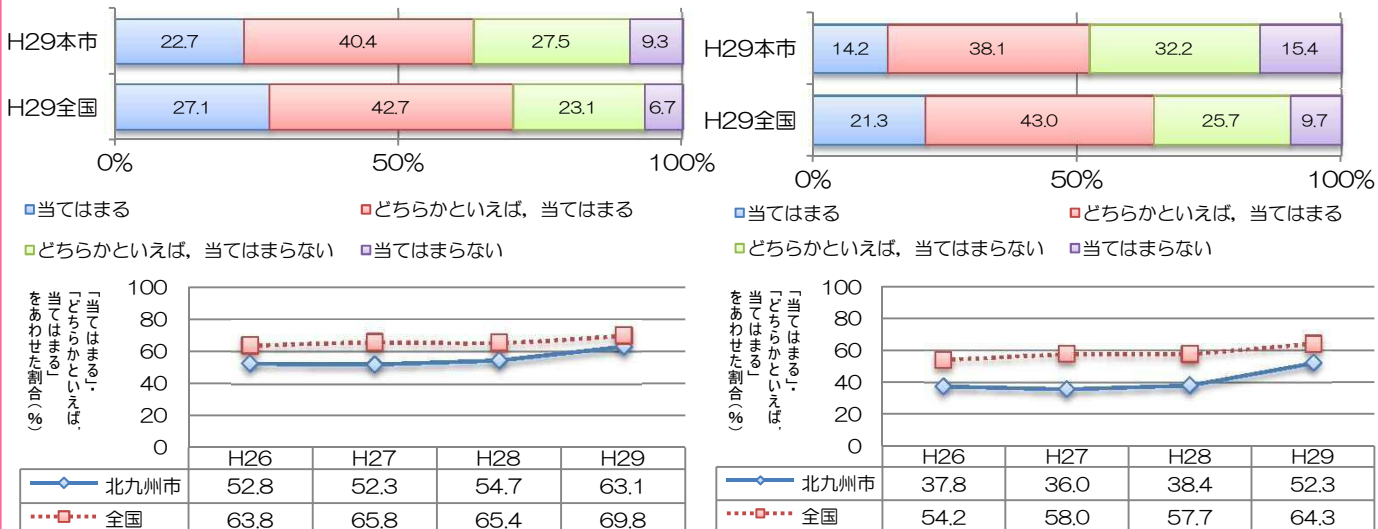


「学校の授業時間以外に, 普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)」について「1時間以上勉強している」と回答した割合は, 小6, 中3ともに全国平均を下回っている。

質問番号 小54・中56 【『総合的な学習の時間』では, 自分で課題を立てて情報を集め整理して, 調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか】

【小学校】

【中学校】

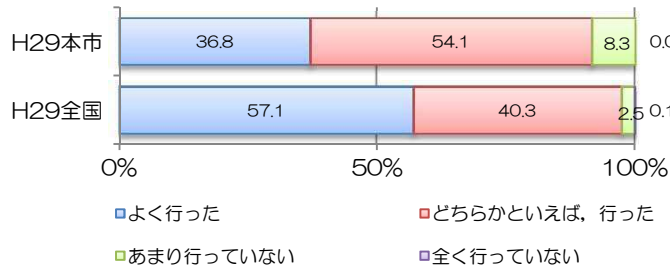


『総合的な学習の時間』では, 自分で課題を立てて情報を集め整理して, 調べたことを発表する等の学習活動に取り組んでいますかについて, 肯定的な回答をした割合は, 全国平均を下回っているが, 昨年度より小6では8ポイント以上, 中3では13ポイント以上増加している。

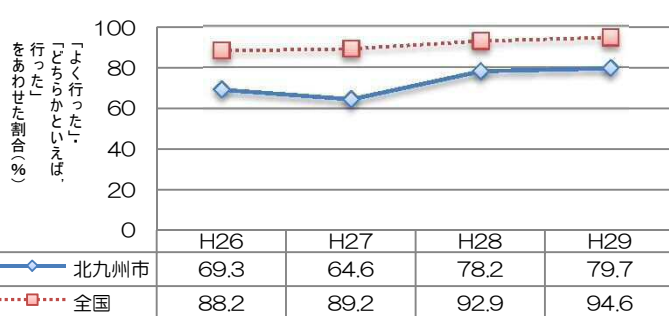
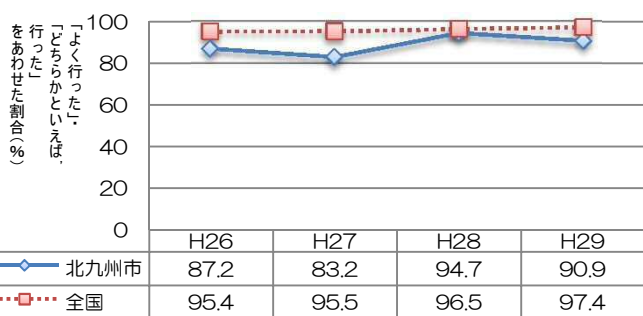
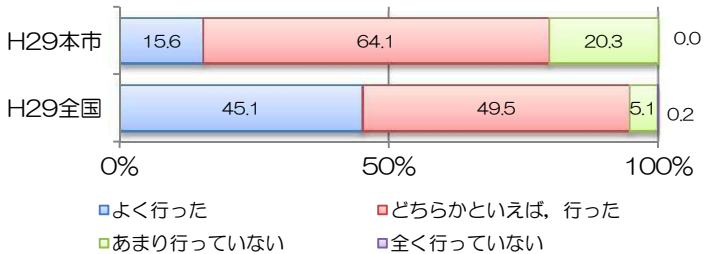
学校質問紙から、「学びの育ち」に關係の深いデータを示しています。(無回答, その他を除く。)

質問番号 小・中39 【調査対象学年の児童生徒に対して, 前年度までに, 学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか】

【小学校】



【中学校】



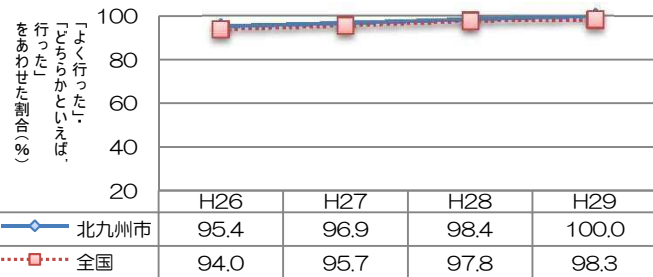
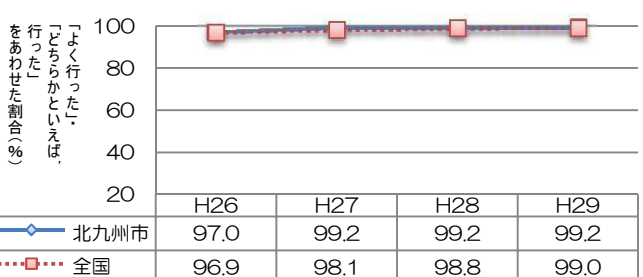
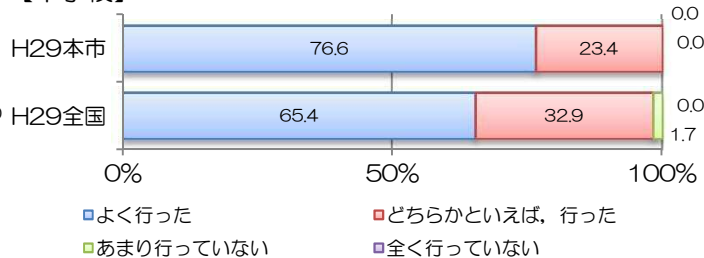
「調査対象学年の児童生徒に対して, 前年度までに, 学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか」について, 肯定的な回答をした学校の割合は, 小学校, 中学校ともに, 全国平均を下回っている。

質問番号 小・中33 【調査対象学年の児童生徒に対して, 前年度までに, 授業の中で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れましたか】

【小学校】



【中学校】

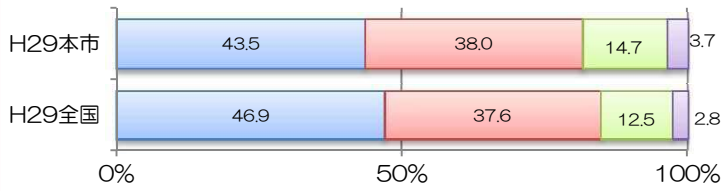


「調査対象学年の児童生徒に対して, 前年度までに, 授業の中で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れましたか」について, 肯定的な回答をした学校の割合は, 小学校, 中学校ともに全国平均と同程度である。

児童生徒質問紙から、「学びの育ち」に関係の深いデータを示しています。(無回答, その他を除く。)

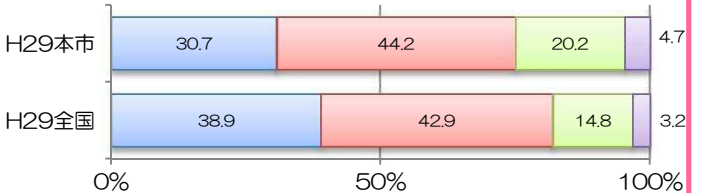
質問番号 小57・中59 【授業では、学級の友達(生徒)との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか】

【小学校】

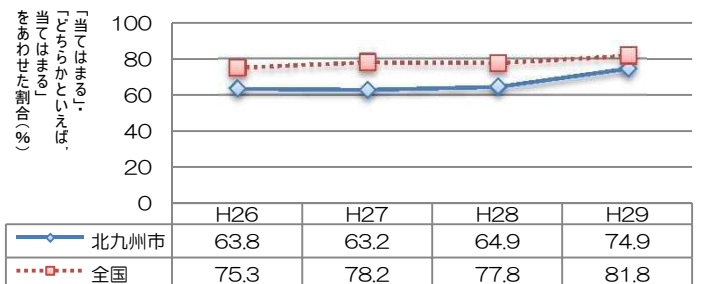
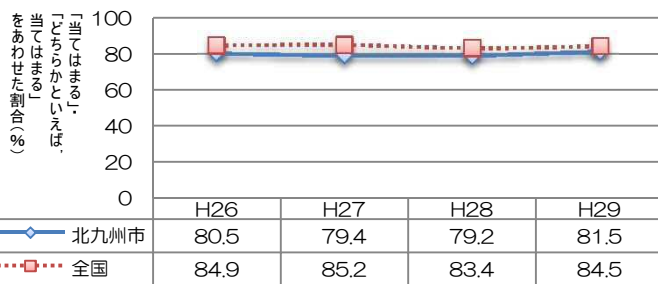


■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる
■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

【中学校】



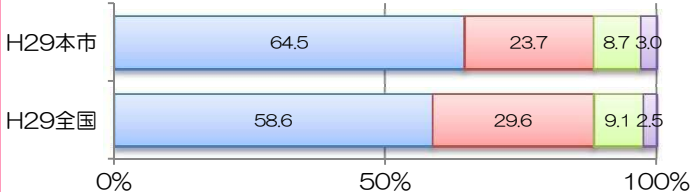
■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる
■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



「授業では、学級の友達の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」について、肯定的な回答をした割合は、小6では全国平均を若干下回り、中3では全国平均を下回っているが、小6では、2ポイント以上、中3では10ポイント増加している。

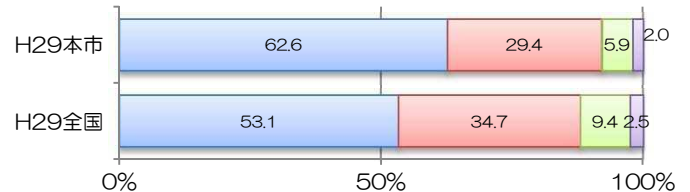
質問番号 小61・中63 【授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか】

【小学校】

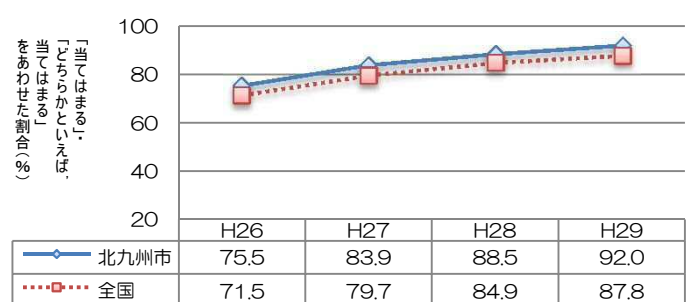
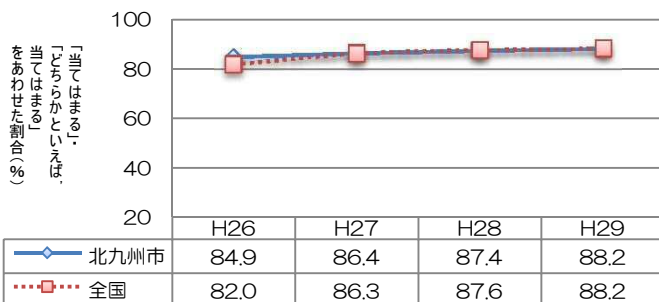


■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる
■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

【中学校】



■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる
■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

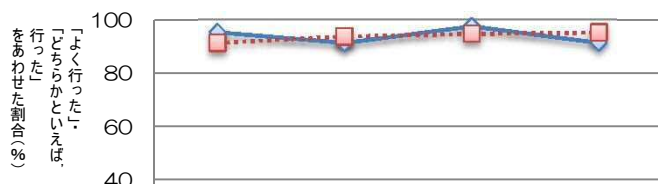
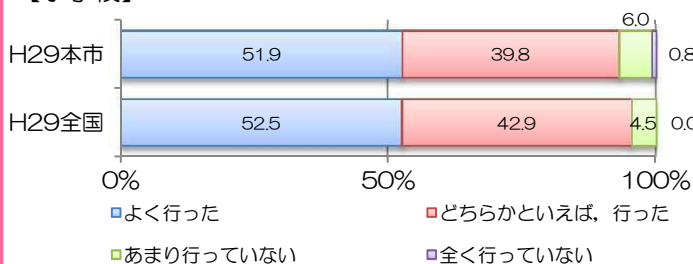


「授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか」について、小6、中3ともに「当てはまる」と回答した割合は、小6では全国平均と同程度で、中3では全国平均を若干上回っている。

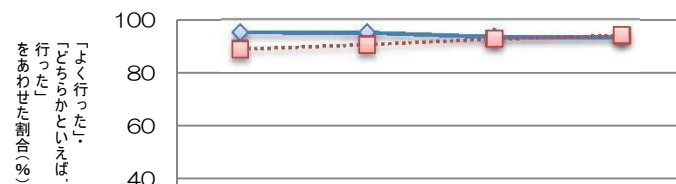
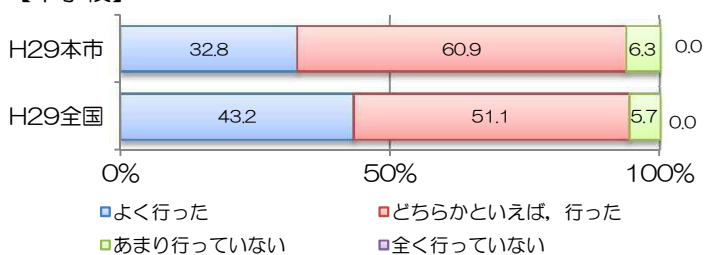
学校質問紙から、「学びの育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答、その他を除く。）

質問番号 小・中34 【調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか】

【小学校】



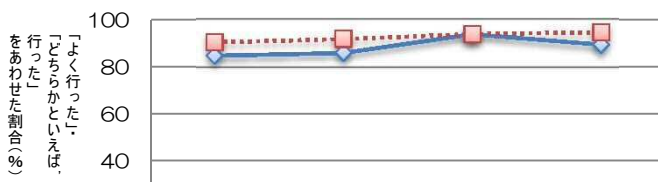
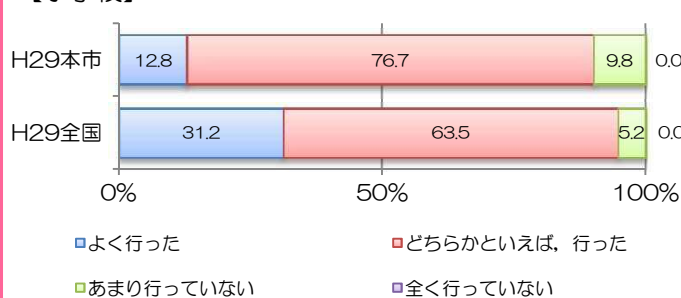
【中学校】



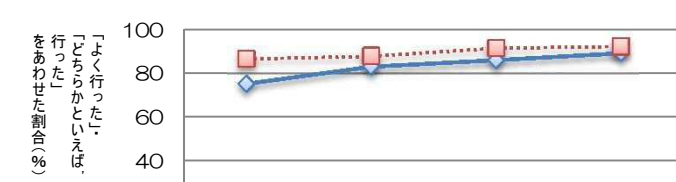
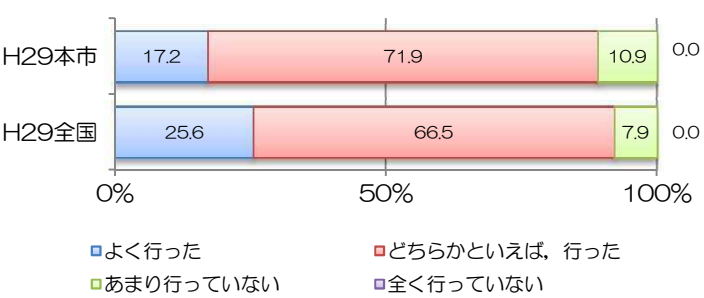
「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか」について、肯定的な回答をした学校の割合は、小学校では全国平均を若干下回っており、中学校では全国平均と同程度である。

質問番号 小・中44 【調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか】

【小学校】



【中学校】

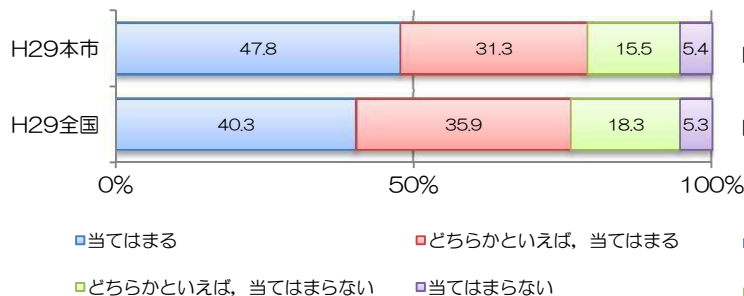


「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか」について、肯定的な回答をした学校の割合は、小学校では全国平均を下回っている。中学校では全国平均を若干下回っているものの、年々増加している。

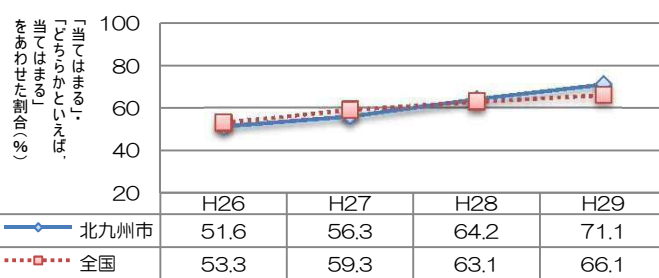
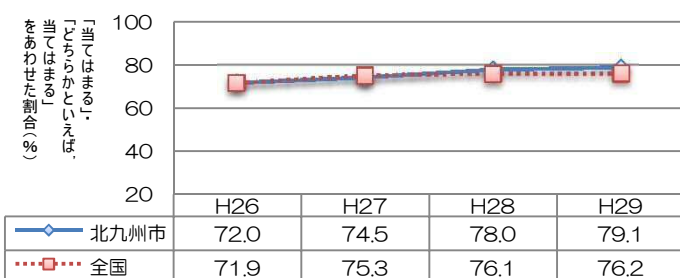
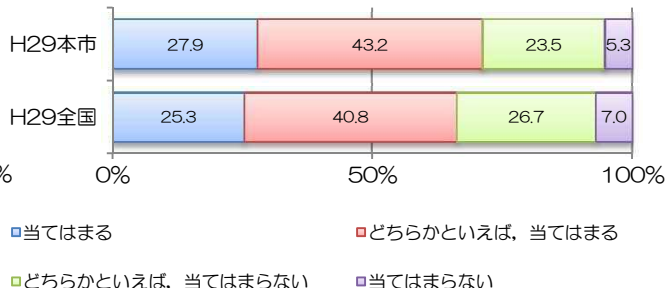
児童生徒質問紙から、「学びの育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答，その他を除く。）

質問番号 小62・中64 【授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか】

【小学校】



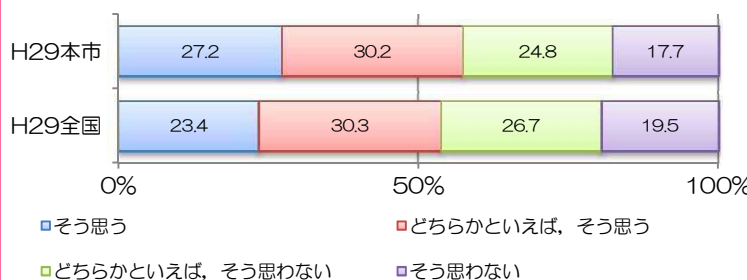
【中学校】



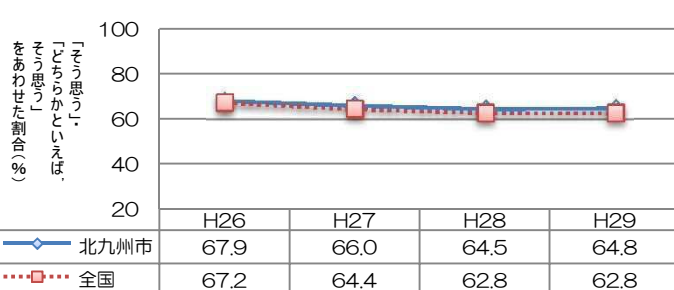
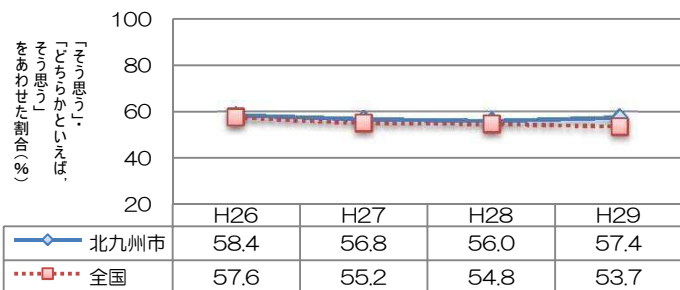
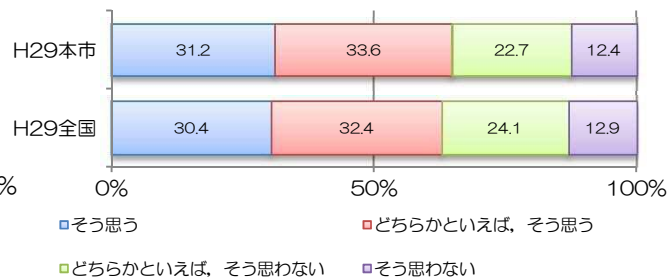
「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」について、肯定的な回答をした割合は、小6では全国平均と同程度、中3では全国平均を上回っており、年々増加している。

質問番号 小67・中69 【学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか】

【小学校】



【中学校】

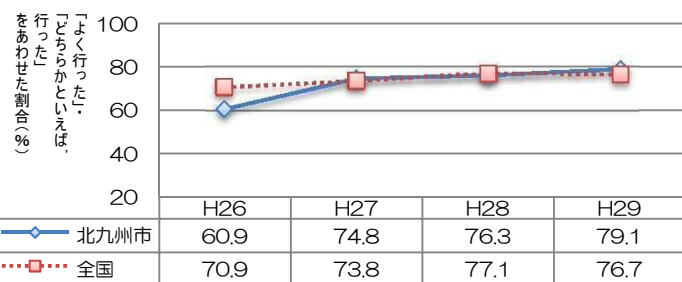
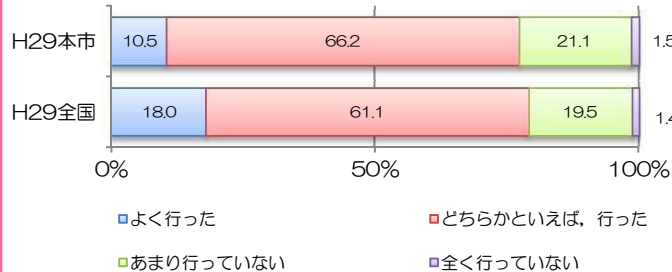


「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか」について、否定的な回答をした割合は、小6は全国平均を若干上回っており、中3では全国平均と同程度である。

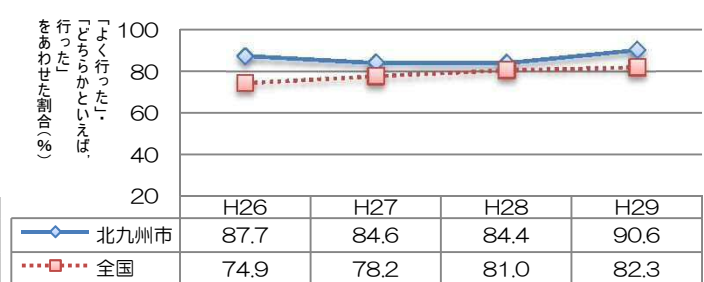
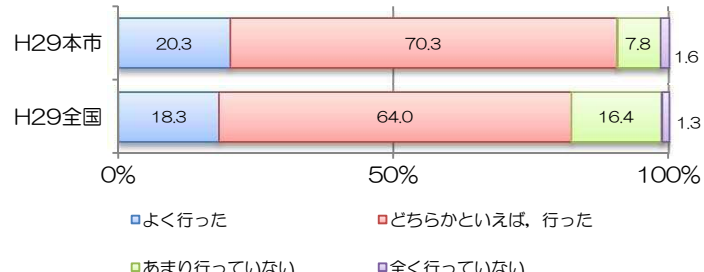
学校質問紙から、「学びの育ち」に關係の深いデータを示しています。(無回答、その他を除く。)

質問番号 小・中64 【国語の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか】

【小学校】



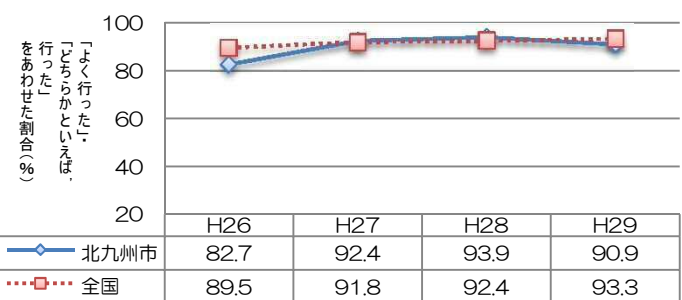
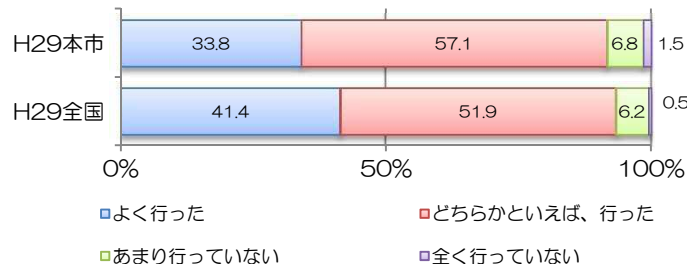
【中学校】



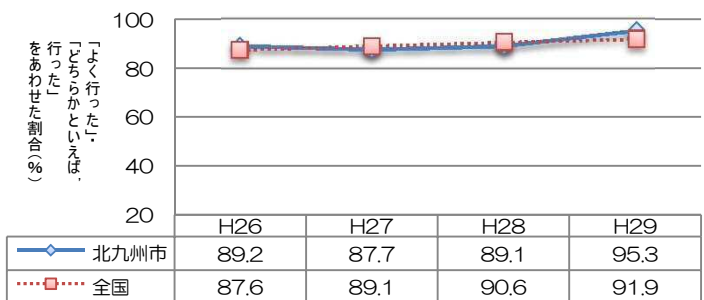
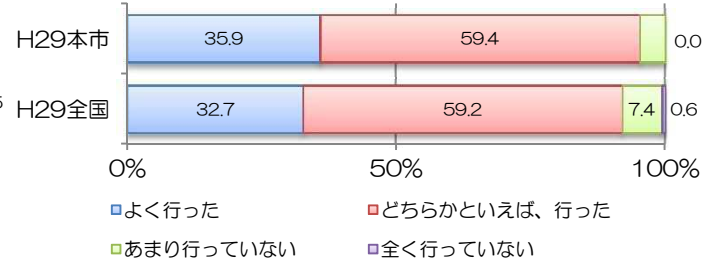
「国語の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか」について肯定的な回答をした学校の割合は、小学校では全国平均と同程度であるが年々増加しており、中学校では全国平均を上回っている。

質問番号 小・中70 【算数・数学の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか】

【小学校】



【中学校】

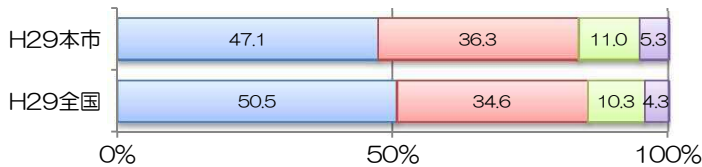


「算数・数学の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか」について、肯定的な回答をした学校の割合は、小学校では全国平均と同程度で、中学校では全校平均を若干上回っている。

児童生徒質問紙から、「学びの育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答，その他を除く。）

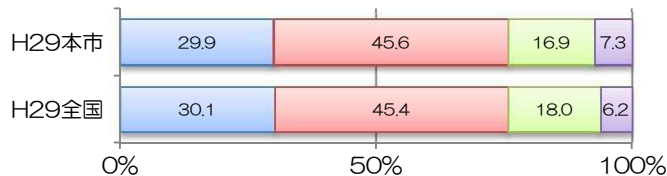
質問番号 小39・中41 【先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくださいか】

【小学校】

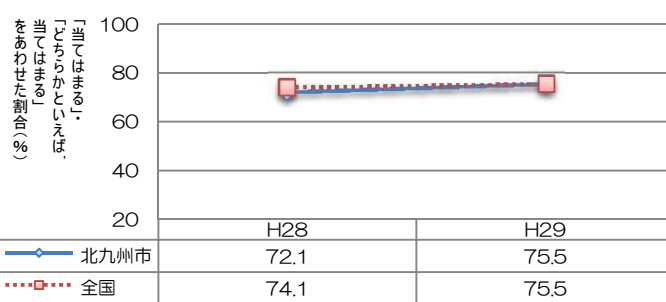
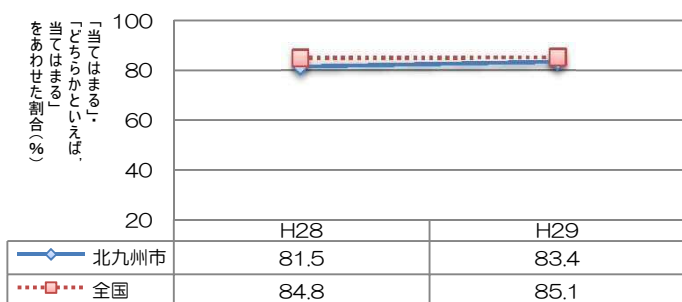


■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる
■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

【中学校】



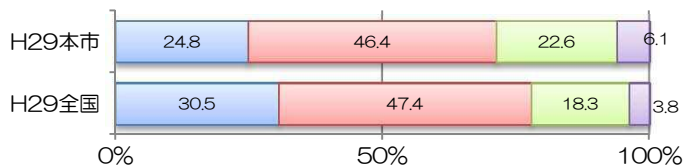
■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる
■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



「先生は、分かるまで教えてくださいか」について、肯定的な回答をした割合は、小6、中3ともに全国平均と同程度である。

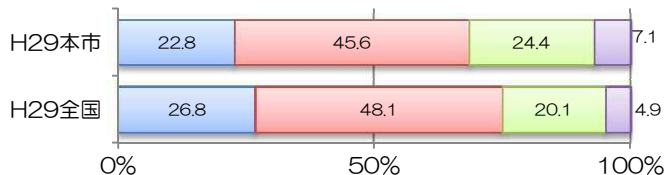
質問番号 小55・中57 【授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか】

【小学校】

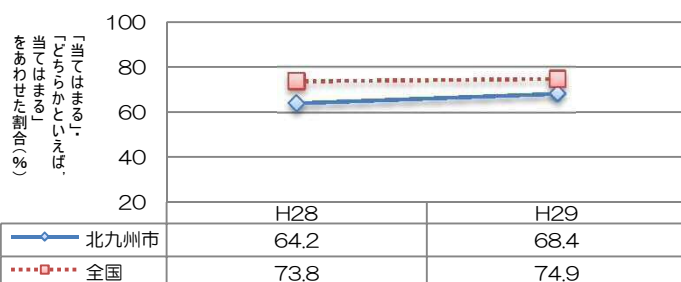
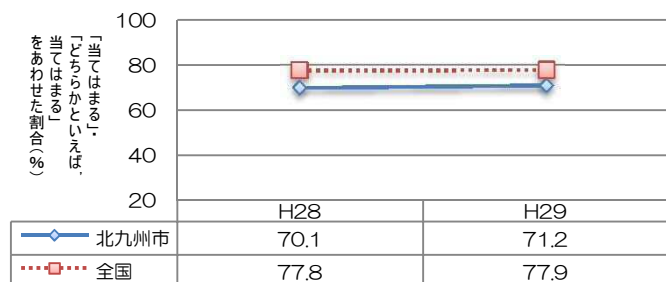


■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる
■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

【中学校】



■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる
■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

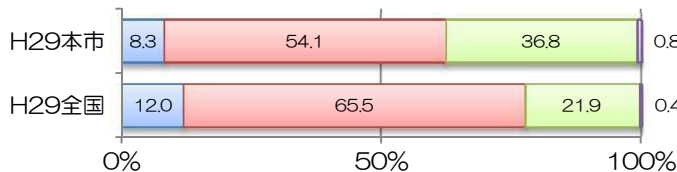


「授業では、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか」について肯定的な回答をした割合は、全国平均を下回っているが、小6、中3ともに増加している。

学校質問紙から、「学びの育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答、その他を除く。）

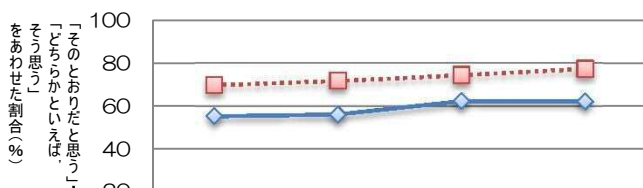
質問番号 小・中15 【調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか】

【小学校】



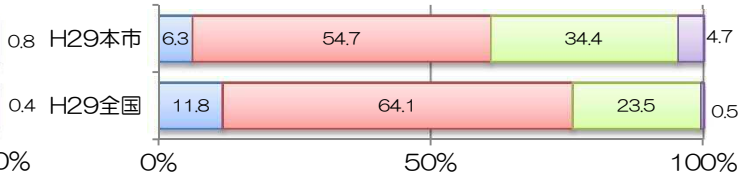
■そのとおりだと思う ■どちらかといえば、そう思う

■どちらかといえば、そう思わない ■そう思わない



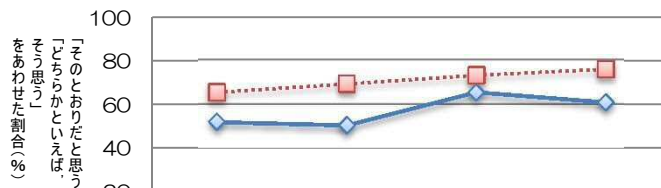
	H26	H27	H28	H29
北九州市	55.6	56.4	62.6	62.4
全国	70.0	71.9	74.6	77.5

【中学校】



■そのとおりだと思う ■どちらかといえば、そう思う

■どちらかといえば、そう思わない ■そう思わない

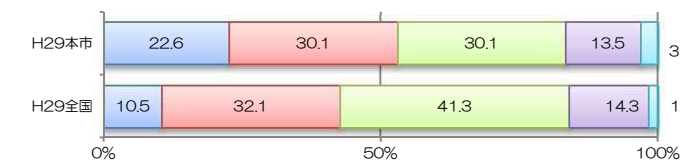


	H26	H27	H28	H29
北九州市	52.3	50.8	65.6	61.0
全国	65.6	69.3	73.2	75.9

「調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか」について、肯定的な回答をした学校の割合は、小学校、中学校ともに、全国平均を下回っている。

質問番号 小・中22 【調査対象学年の児童生徒に対して、前年度に、図書館資料を活用した授業を計画的に行いましたか】

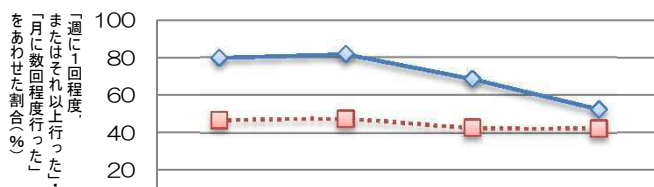
【小学校】



■週に1回程度、またはそれ以上行った ■月に数回程度行った

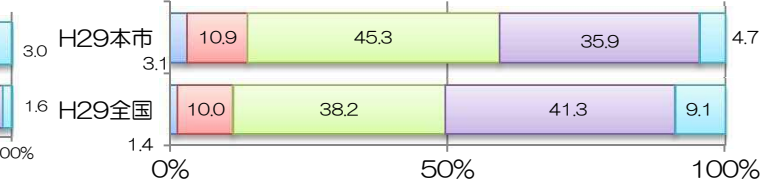
■学期に数回程度行った ■年に数回程度行った

■行っていない



	H26	H27	H28	H29
北九州市	79.7	81.7	68.7	52.7
全国	47.0	47.6	43.1	42.6

【中学校】



■週に1回程度、またはそれ以上行った ■月に数回程度行った

■学期に数回程度行った ■年に数回程度行った

■行っていない



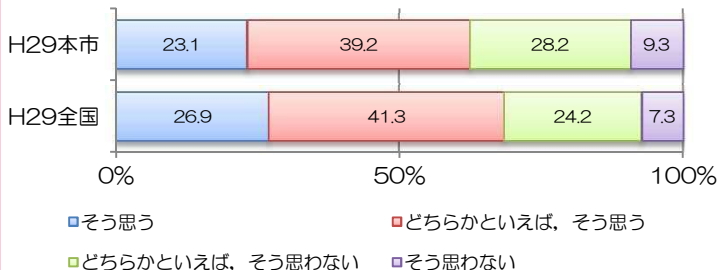
	H26	H27	H28	H29
北九州市	23.1	12.3	18.8	14.0
全国	9.6	10.4	11.7	11.4

「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度に、図書館資料を活用した授業を計画的に行いましたか」について、肯定的な回答をした割合は、小学校で全国平均を上回っている。中学校では、全国平均と同程度である。

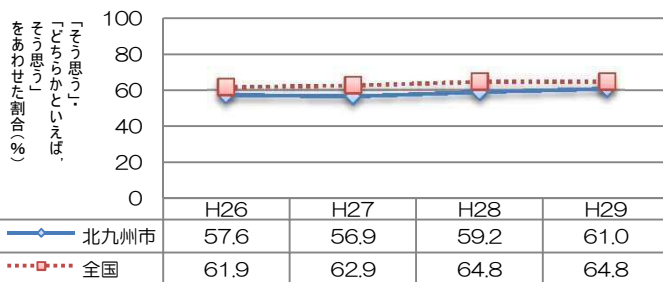
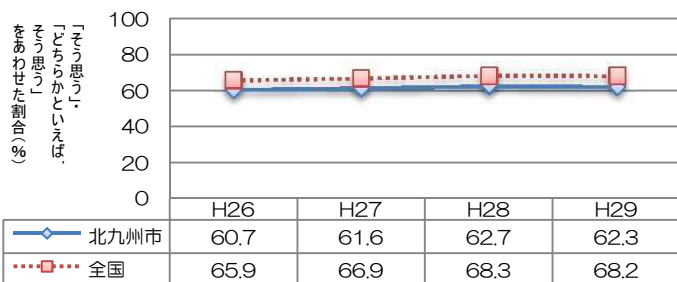
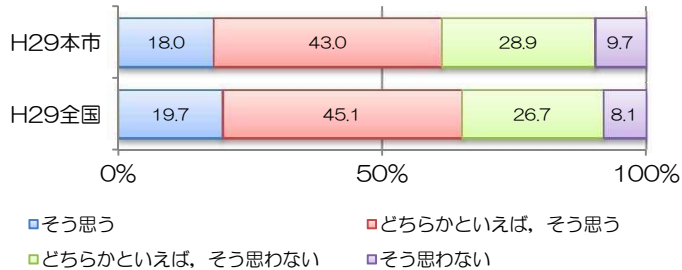
児童生徒質問紙から、「学びの育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答、その他を除く。）

質問番号 小68・中70 【学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか】

【小学校】



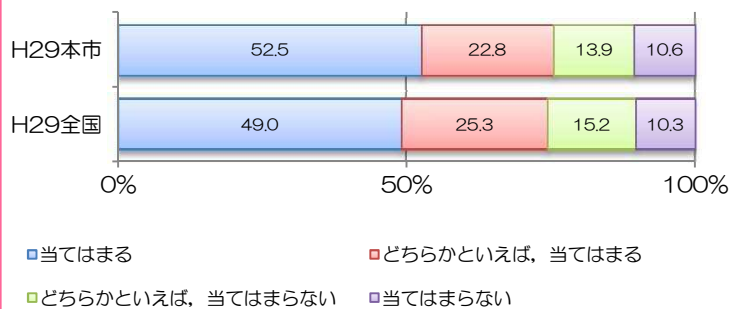
【中学校】



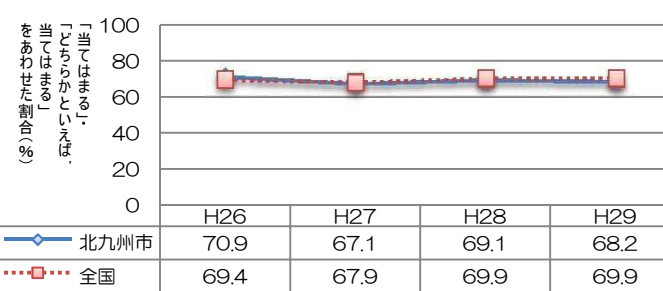
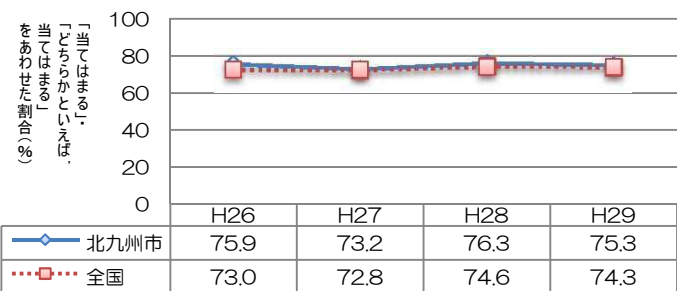
「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」について、肯定的な回答をした割合は、小6では全国平均を下回っている。中3では全国平均を若干下回っている。

質問番号 小72・中74 【読書は好きですか】

【小学校】



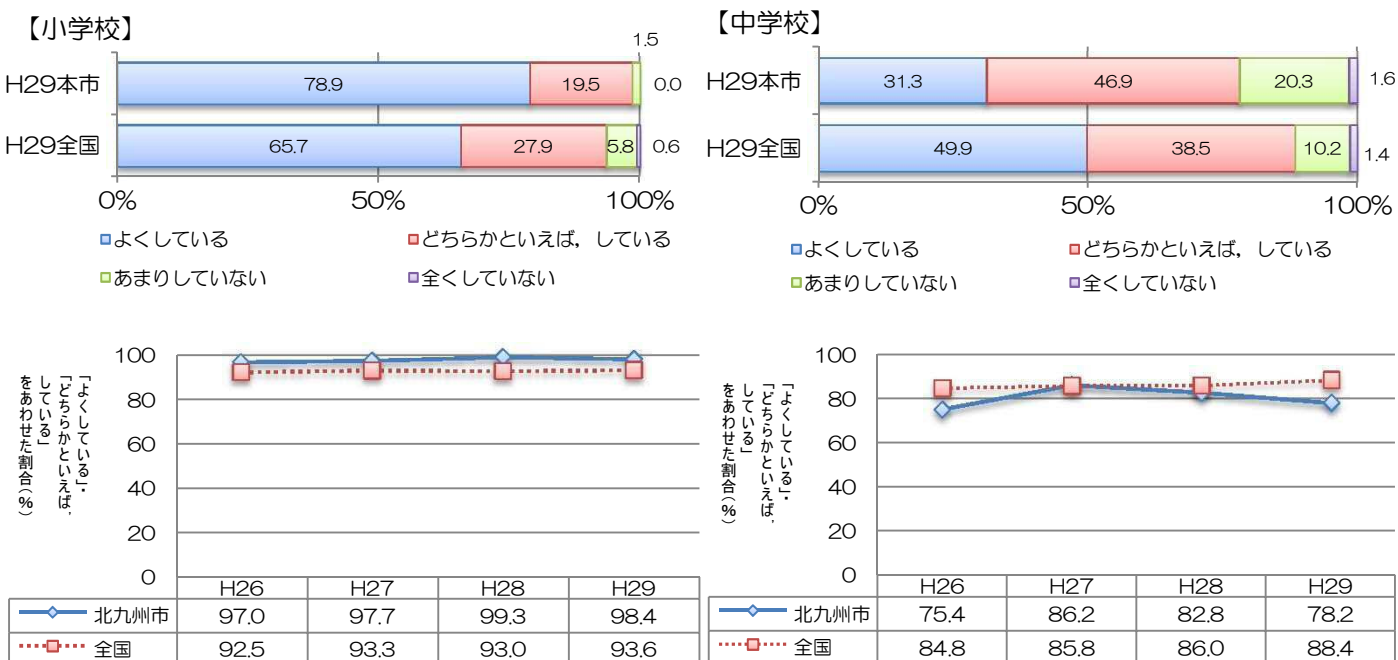
【中学校】



「読書は好きですか」について、肯定的な回答をした割合は、小6、中3ともに、全国平均と同程度である。

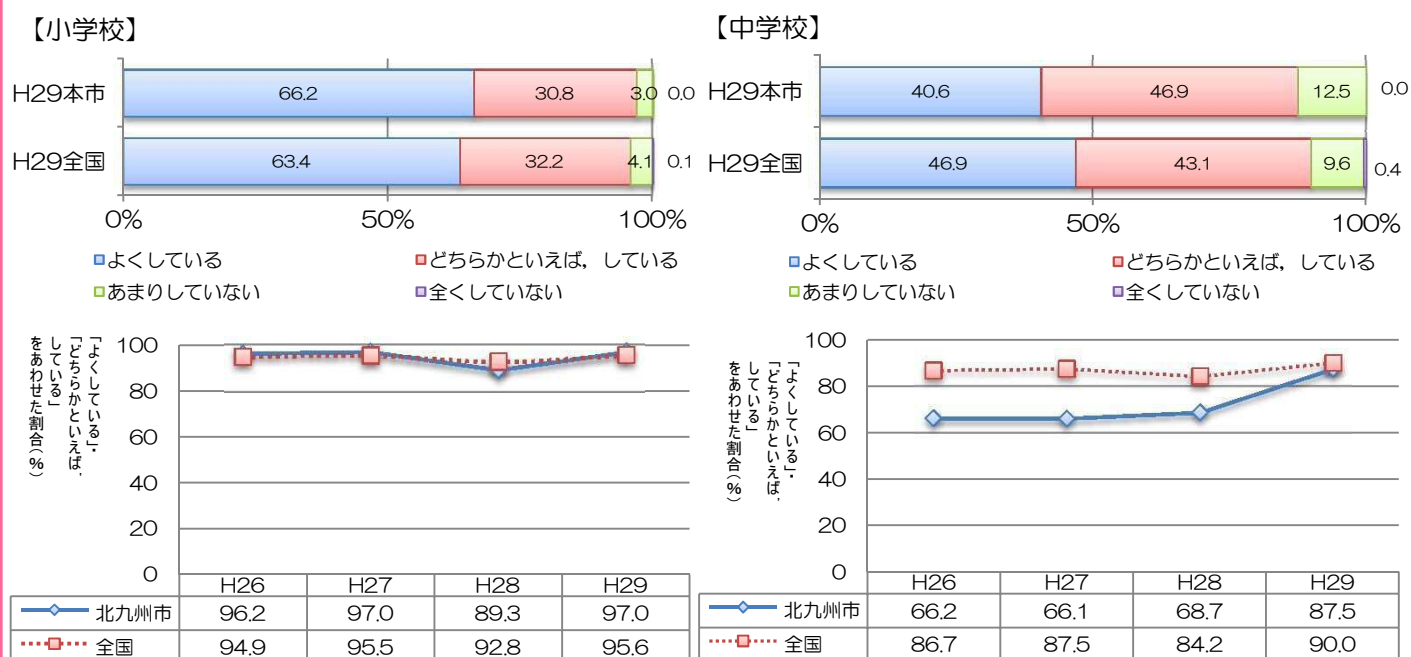
学校質問紙から、「学びの育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答，その他を除く。）

質問番号 小99・中97 【学校でテーマを決め，講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか】



「学校でテーマを決め，講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか」について，肯定的な回答をした学校の割合は，小学校では全国平均を若干上回っている。中学校では全国平均を下回っている。

質問番号 小100・中98 【模擬授業や事例研究など，実践的な研修を行っていますか】



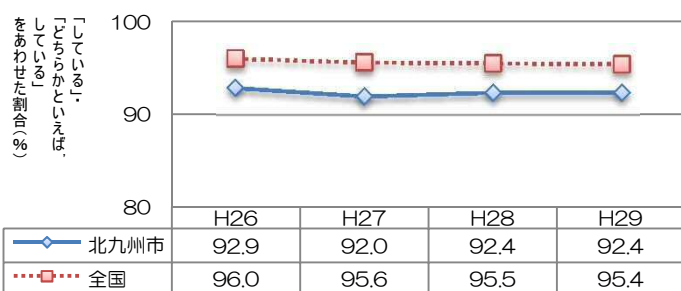
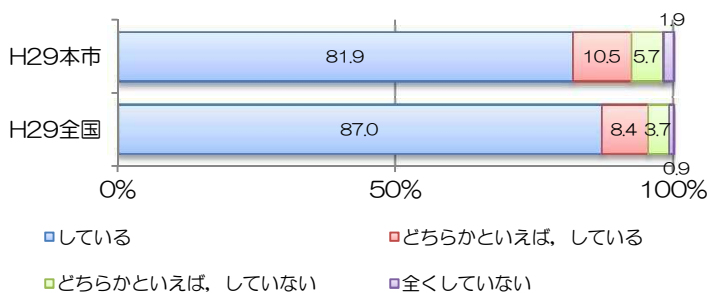
「模擬授業や事例研究など，実践的な研修を行っていますか」について，肯定的な回答をした学校の割合は，小学校では，昨年度より7ポイント以上増加し，全国平均と同程度である。中学校でも，昨年度より18ポイント以上増加し，全国平均と同程度である。

学習状況調査結果 ② 心の育ち【生活習慣について】 ～ 児童生徒質問紙より ～

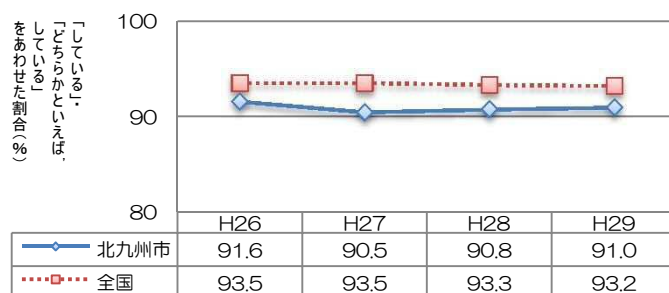
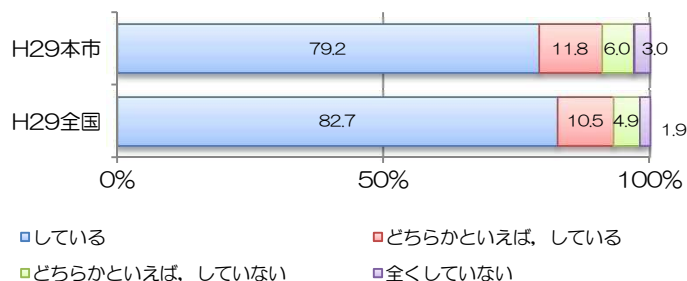
児童生徒質問紙から、「心の育ち」に関係の深いデータを示しています。(無回答, その他を除く。)

質問番号 小・中 1 【朝食を毎日食べていますか】

【小学校】



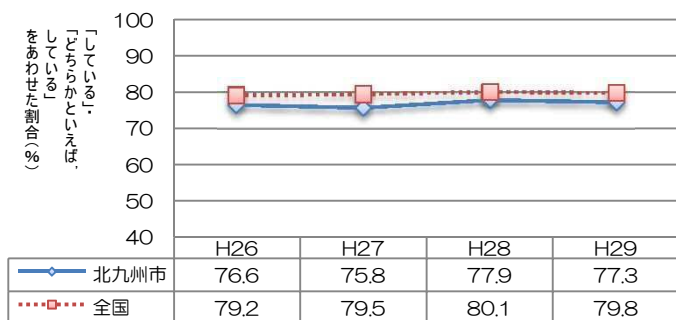
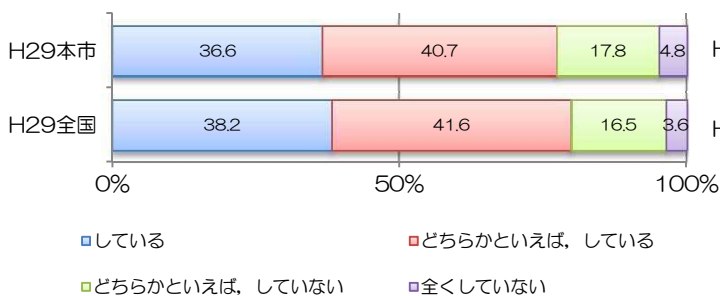
【中学校】



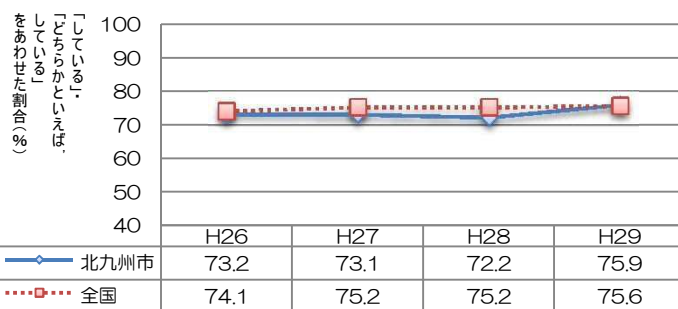
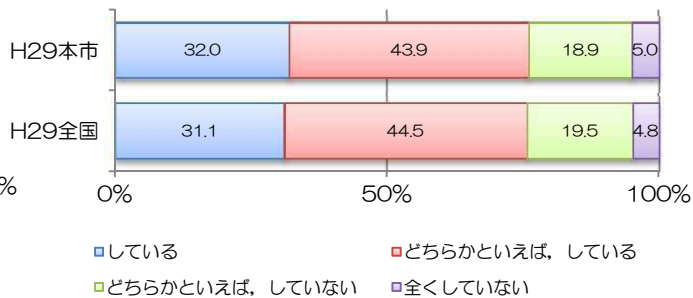
「朝食を毎日食べていますか」について、肯定的な回答をした割合は、小6は、全国平均を若干下回り、中3は、全国平均と同程度である。

質問番号 小・中 2 【毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか】

【小学校】



【中学校】



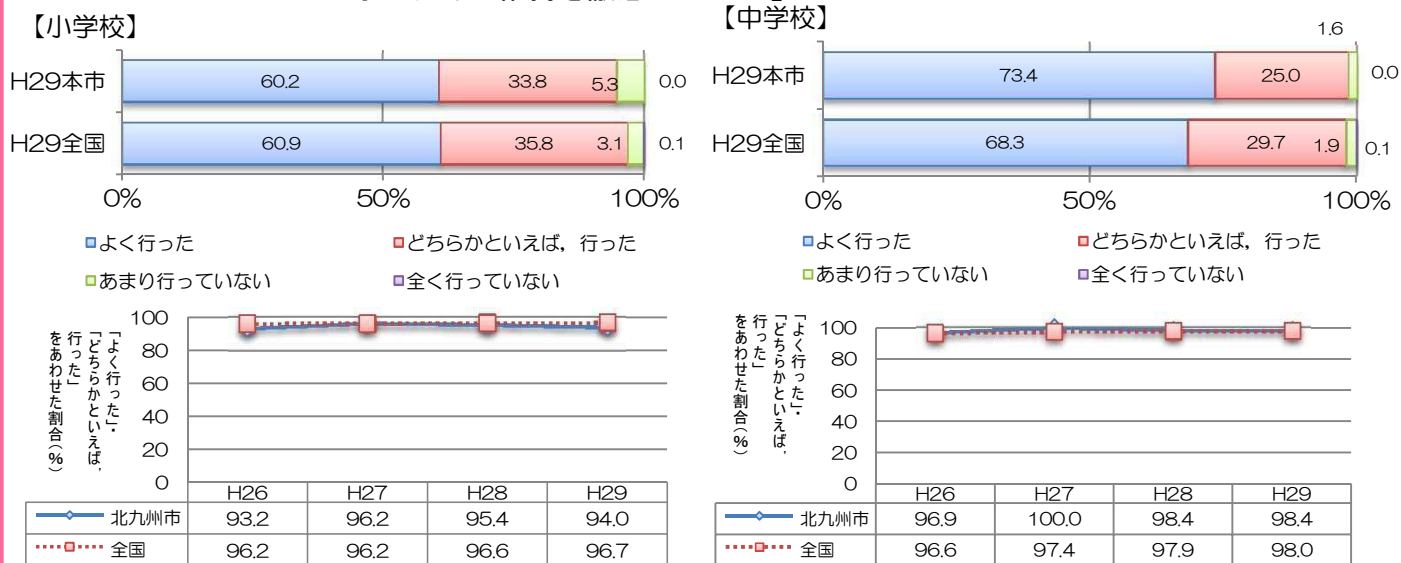
「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」について、肯定的な回答をした割合は、小6は、全国平均と同程度である。中3は、昨年度より3ポイント以上増加し、全国平均と同程度である。

【学習規律について】

～ 学校質問紙より ～

学校質問紙から、「心の育ち」に関係の深いデータを示しています。(無回答, その他を除く。)

質問番号 小・中48 【調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習規律(私語をしない, 話をしている人の方を向いて聞く, 聞き手に向かって話をする, 授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか】



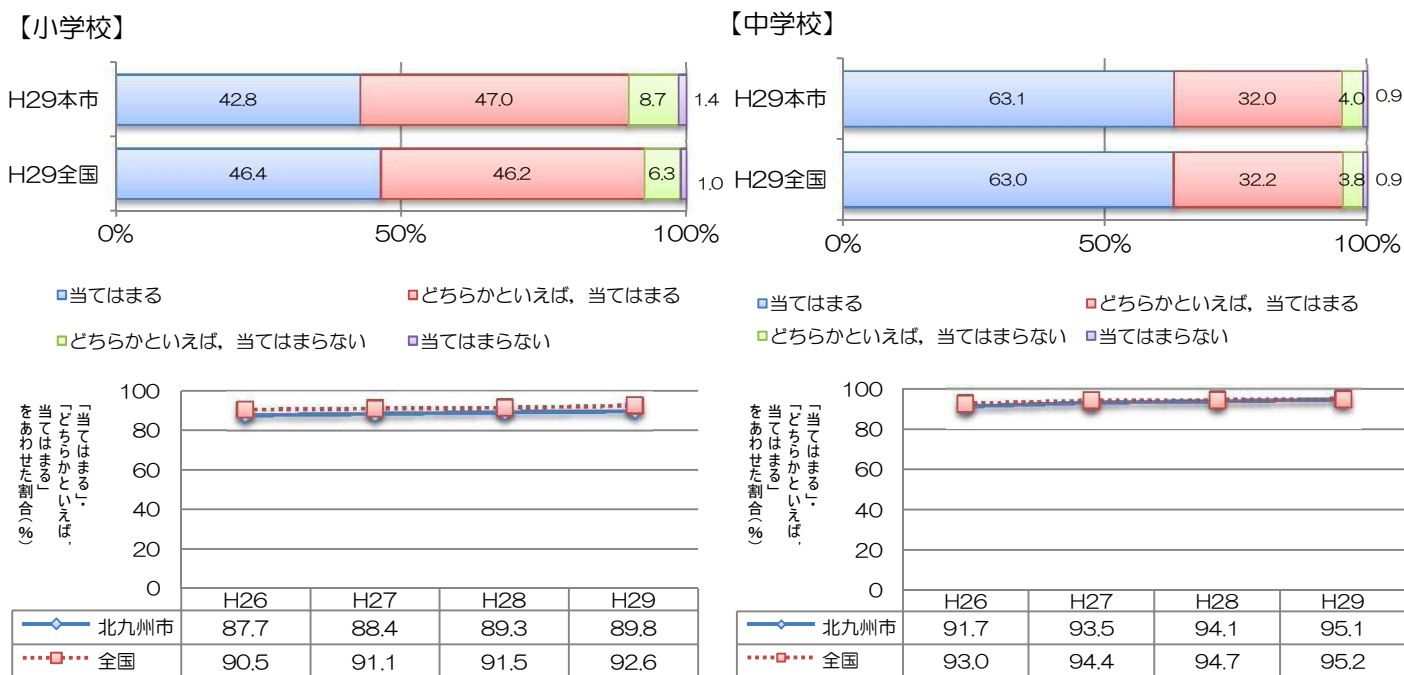
「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習規律(私語をしない, 話をしている人の方を向いて聞く, 聞き手に向かって話をする, 授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか」について、肯定的な回答をした学校の割合は、小6, 中3とも、全国平均と同程度である。

【学校のきまり(規則)について】

～ 児童生徒質問紙より ～

児童生徒質問紙から、「心の育ち」に関係の深いデータを示しています。(無回答, その他を除く。)

質問番号 小49・中51 【学校のきまり(規則)を守っていますか】



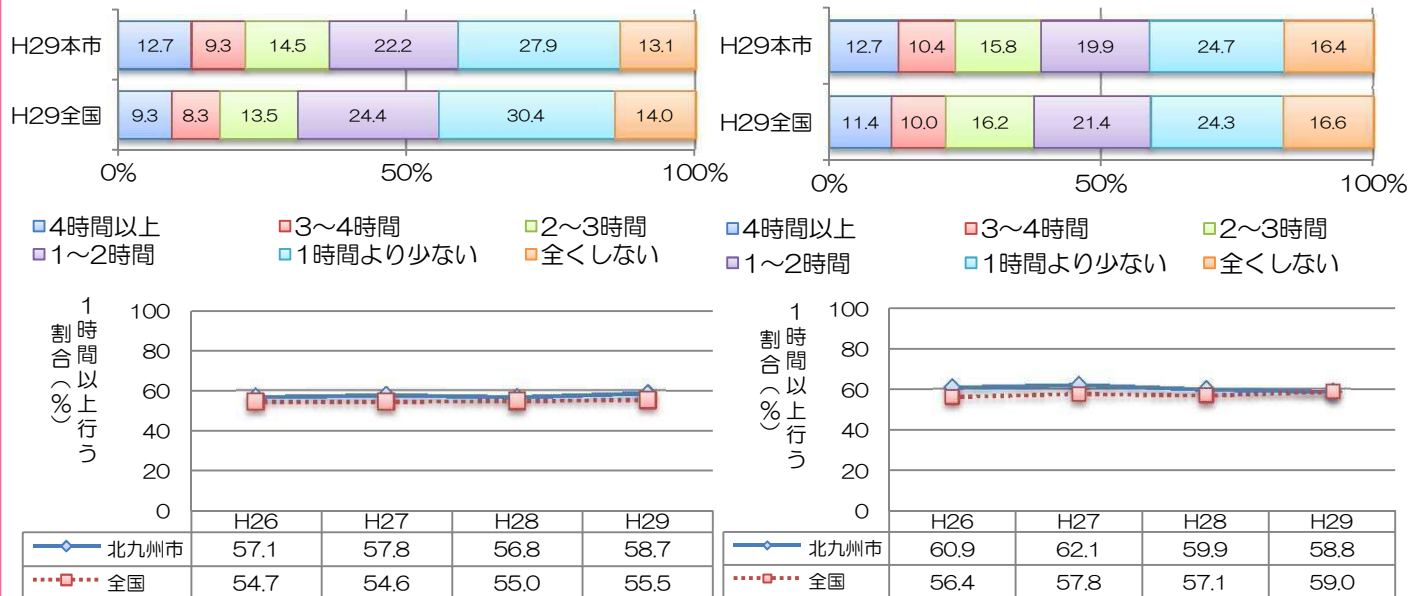
「学校のきまり(規則)を守っていますか」について、肯定的な回答をした割合は、小6, 中3とも、全国平均と同程度で、年々増加している。

児童生徒質問紙から、「心の育ち」に関係の深いデータを示しています。(無回答, その他を除く。)

質問番号 小・中13 【普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか】

【小学校】

【中学校】

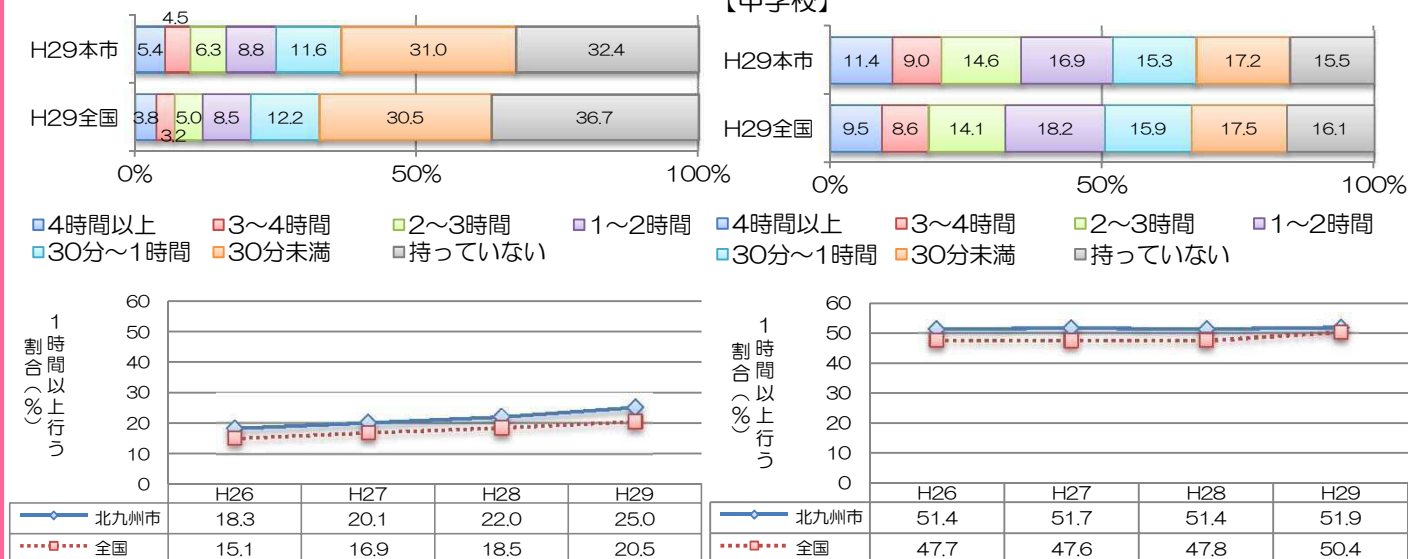


「普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」について, 「1時間以上行う」と回答した割合は, 小6では全国平均を若干上回り, 中3では全国平均と同程度である。

質問番号 小・中14 【普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンで通話やメール, インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)】

【小学校】

【中学校】

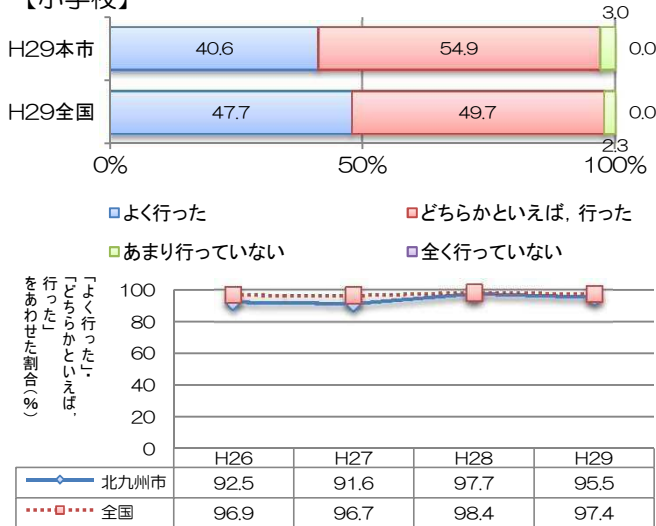


「普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンで通話やメール, インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)」について, 「1時間以上行う」と回答した割合は, 小6は全国平均を若干上回り, 中3では全国平均と同程度である。

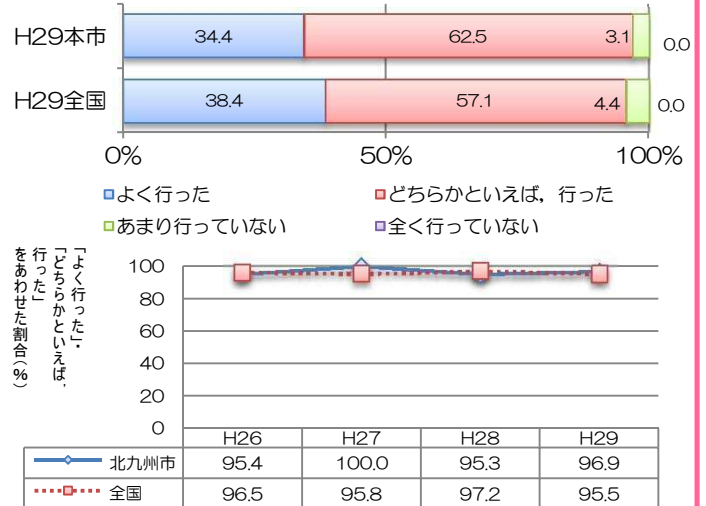
学校質問紙から、「心の育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答、その他を除く。）

質問番号 小・中51 【調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け、児童生徒に伝えるなど積極的に評価しましたか】

【小学校】



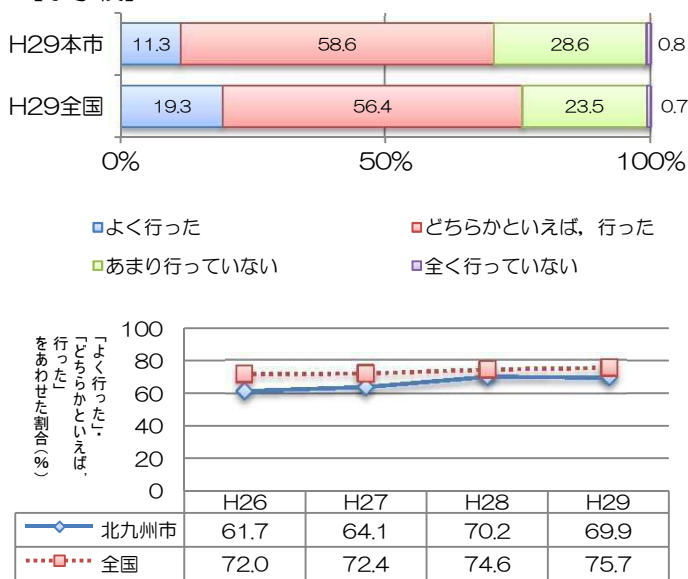
【中学校】



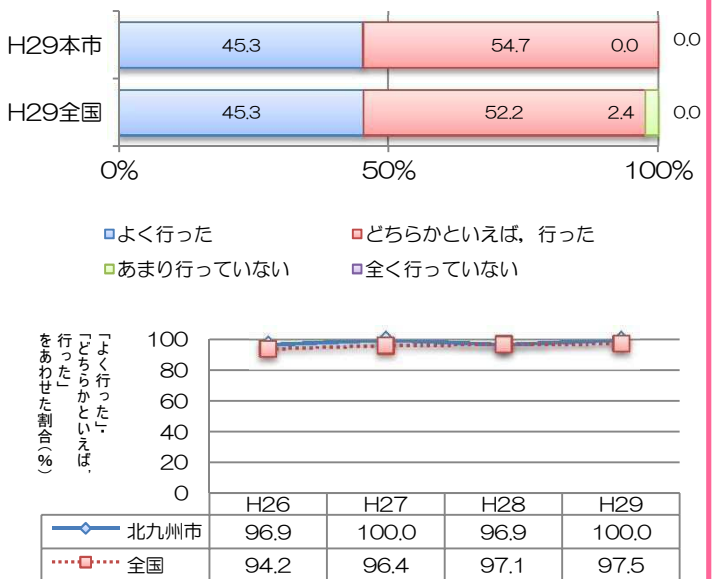
「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ、児童生徒に伝えるなど積極的に評価しましたか」について、肯定的な回答をした学校の割合は、小学校、中学校ともに、全国平均と同程度である。

質問番号 小・中45 【調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか】

【小学校】



【中学校】

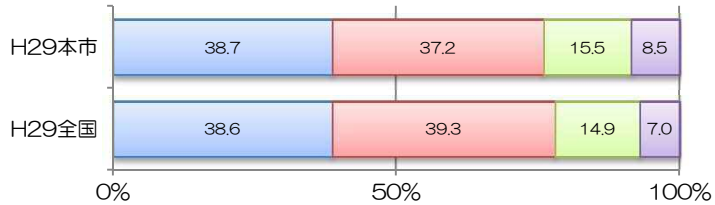


「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか」について、肯定的な回答をした学校の割合は、小学校では全国平均を下回っている。中学校では、全国平均と同程度である。

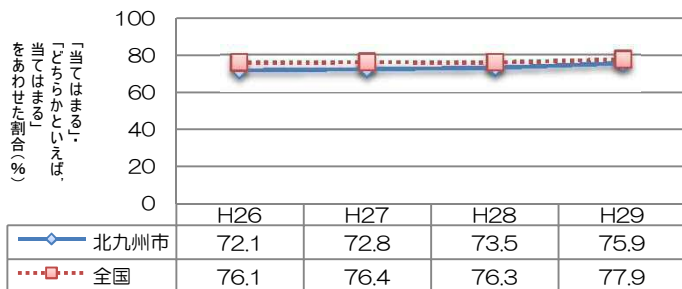
児童生徒質問紙から、「心の育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答、その他を除く。）

質問番号 小・中 6 【自分には、よいところがあると思いますか】

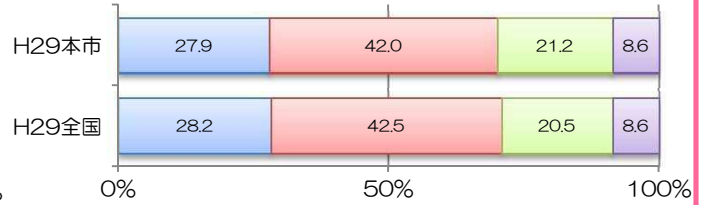
【小学校】



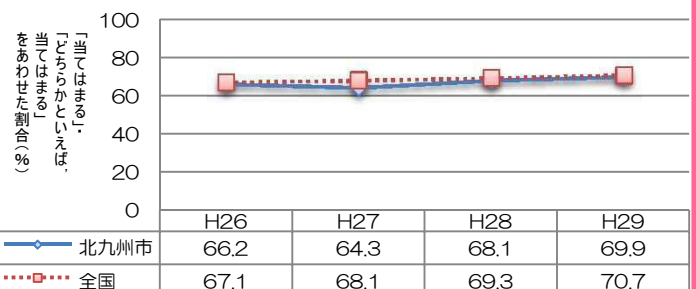
■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる
■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



【中学校】



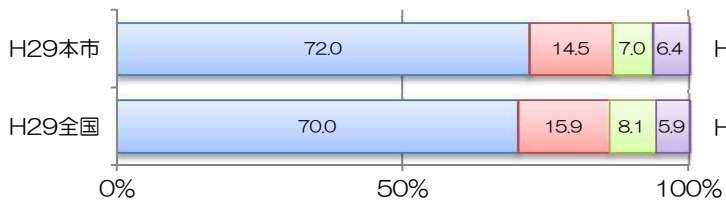
■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる
■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



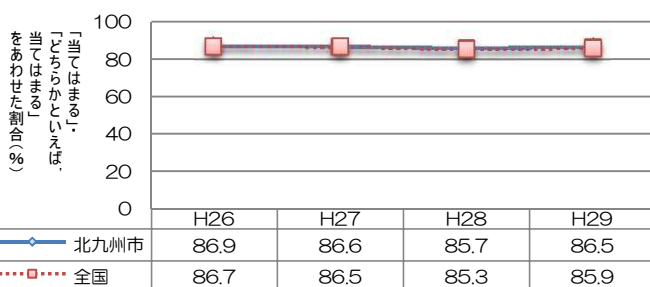
「自分には、よいところがあると思いますか」について、肯定的な回答をした割合は、小6、中3ともに、全国平均と同程度である。

質問番号 小・中10 【将来の夢や目標を持っていますか】

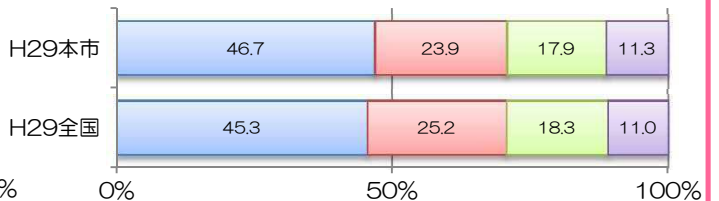
【小学校】



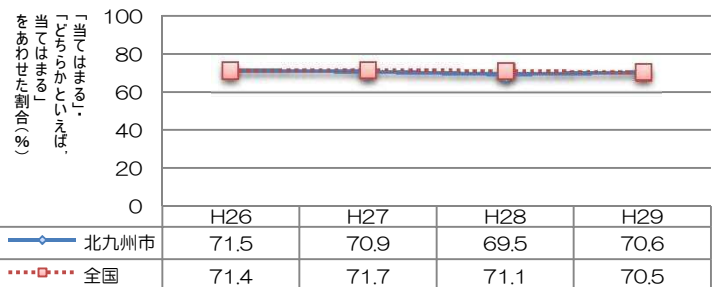
■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる
■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



【中学校】



■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる
■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



「将来の夢や目標を持っていますか」について、「当てはまる」と回答した割合は、小6、中3ともに全国平均と同程度である。

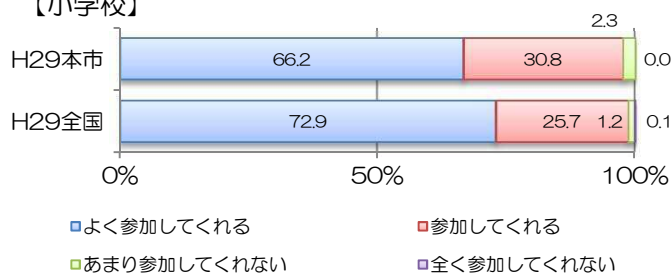
【地域や社会への関心について】

～ 学校質問紙より ～

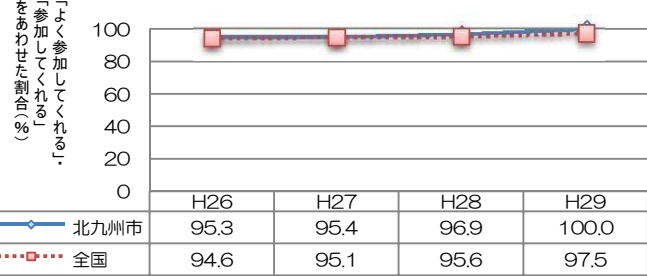
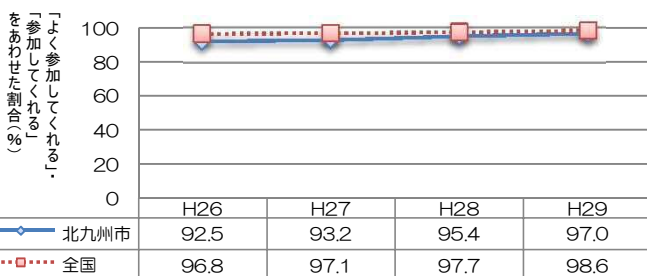
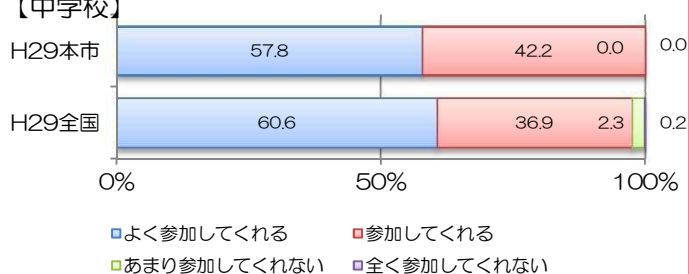
学校質問紙から、「心の育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答，その他を除く。）

質問番号 小87・中85 【PTAや地域の人が学校の諸活動（学校の美化など）にボランティアとして参加してくれますか】

【小学校】



【中学校】



「PTAや地域の人が学校の諸活動（学校の美化など）にボランティアとして参加してくれますか」について、肯定的な回答をした学校の割合は、小学校、中学校ともに、全国平均と同程度である。

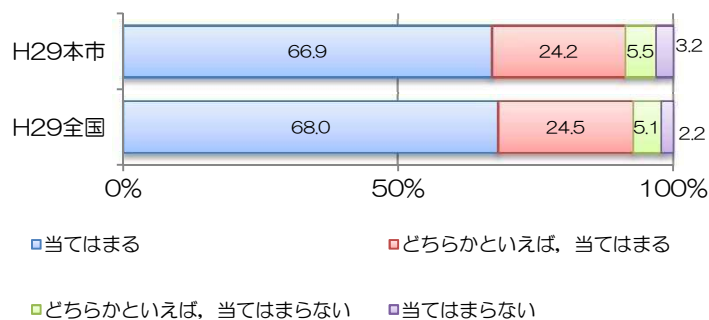
【自己肯定感・将来の夢や目標について】

～ 児童生徒質問紙より ～

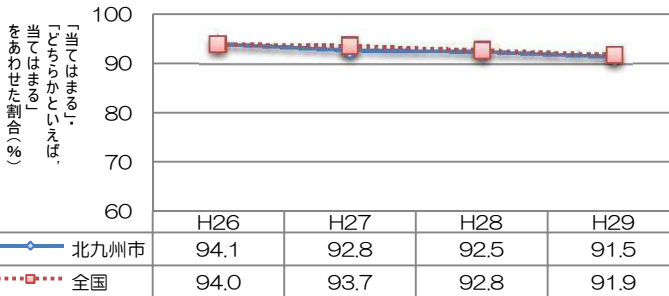
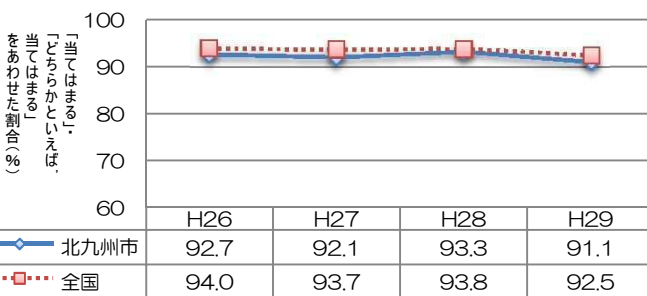
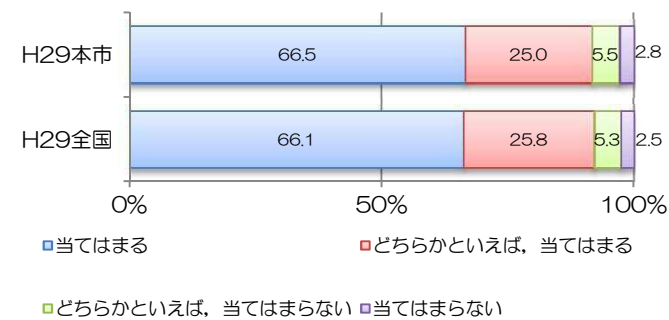
児童生徒質問紙から、「心の育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答，その他を除く。）

質問番号 小53・中55 【人の役に立つ人間になりたいと思いますか】

【小学校】



【中学校】



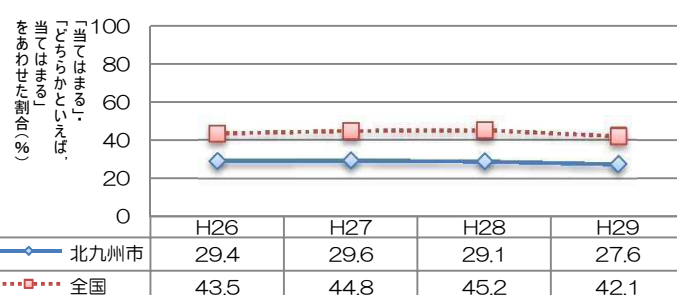
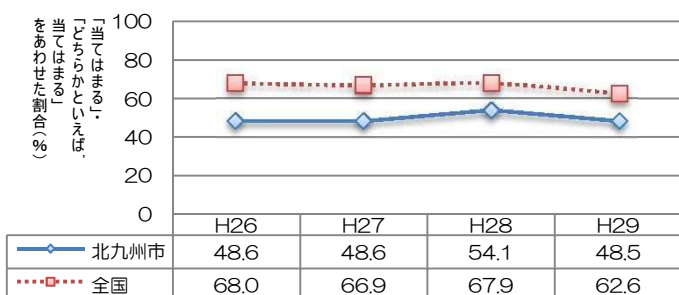
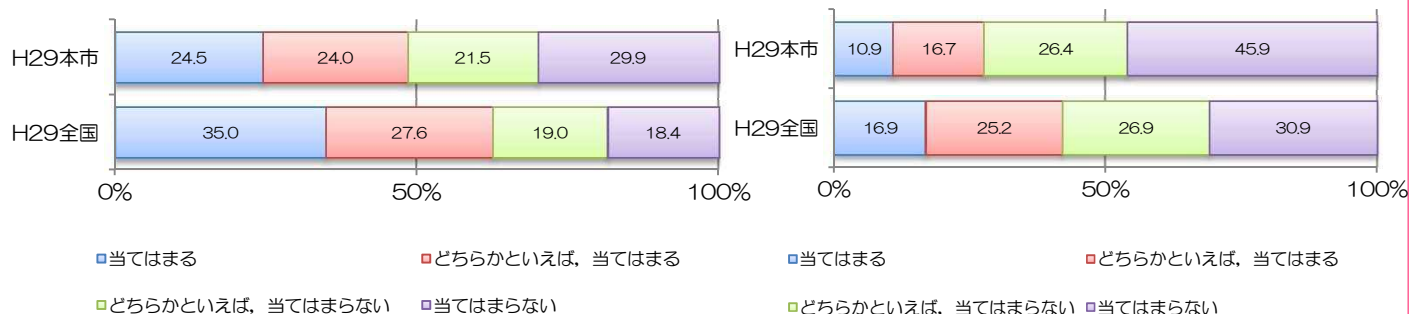
「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」について、肯定的な回答をした割合は、小6，中3ともに全国平均と同程度である。

児童生徒質問紙から、「心の育ち」に関係の深いデータを示しています。（無回答，その他を除く。）

質問番号 小40・中42 【今住んでいる地域の行事に参加していますか】

【小学校】

【中学校】

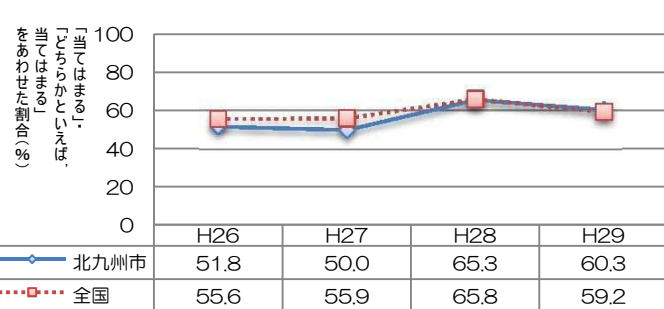
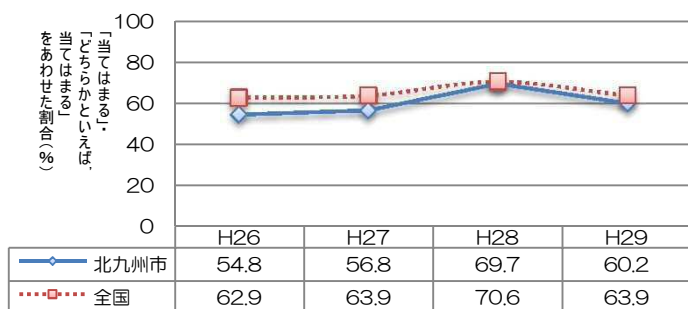
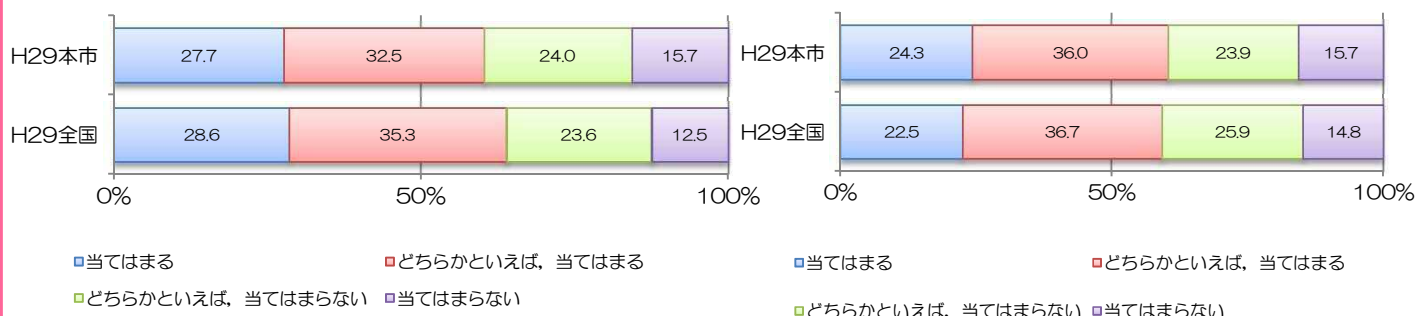


「今住んでいる地域の行事に参加していますか」について、肯定的な回答をした割合は、小6、中3ともに全国平均を下回っている。

質問番号 小41・中43 【地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか】

【小学校】

【中学校】



「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」について、肯定的な回答をした割合は、小6では全国平均を若干下回っているが、中3では全国平均と同程度である。

【学力向上アクションプランの成果】



北九州市環境マスコットキャラクター ていたん&ブラックていたん
©ていたん&ブラックていたん 北九州市

(1) 学力向上アクションプラン(概要)

北九州市学力・体力向上アクションプランの概要(学力向上)

【目標】加速度的に変化していくこれからの社会において、子どもたちが社会的・職業的に自立して生きていくために必要な力を身に付けさせていくことが必要です。「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」の実現を目指して、以下の3つの柱を実施し、教員の指導力向上や家庭での生活習慣・家庭学習習慣の充実などを図り、子どもたち一人一人の学力向上につなげていきます。



【今後3年間で取り組む、学校、家庭・地域での具体的取組】

【柱1】全校体制でのPDCAサイクルの確立

- PDCAサイクルに基づく学校の組織的な取組の推進
 - ・各学校における全校体制の確立
 - ・学力調査等の実施と児童生徒への指導の充実
 - ・調査結果等に基づく「スクールプラン」の策定・実施・検証・改善
- 〈教育委員会の支援〉
 - ・学力向上学校訪問の充実
 - ・学力向上講習会の充実
 - ・教育センター研修の充実
 - ・「北九州市学力向上だより」による情報提供
 - ・シンポジウム・懇談会等の開催
- 学力・体力向上策をつなぐ教育委員会の体制の確立

【柱2】指導力向上のための日々の継続的な取組

- よい授業イメージの共有と授業を「行う・見る・語り合う・振り返る」活動の日々継続的な実践
 - ・全員研修会及び学校大好きオンリーワン校の公開授業の活用
 - ・動画を活用したWebによる研修の活用
 - ・「『わかる授業』づくり5つのポイント」のリーフレット及び点検シートの活用
 - ・「教師のしおり」の活用
 - ・総合的な学習の時間、特別活動、道徳教育の充実やアクティブ・ラーニング等を推進するための資料等の活用
 - ・授業力向上ステップアップ事業の実施
(学力向上推進教員の配置・派遣、評価問題の改善・充実、校内研修の改善・充実)
 - ・教育研究論文の部門等の見直し・授業づくり共同研究の見直し
- 教育活動の一層の充実のための取組の推進
 - ・学校図書館教育の充実
 - ・ICTの活用と英語教育の充実

【柱3】学力定着に向けた協働的な取組

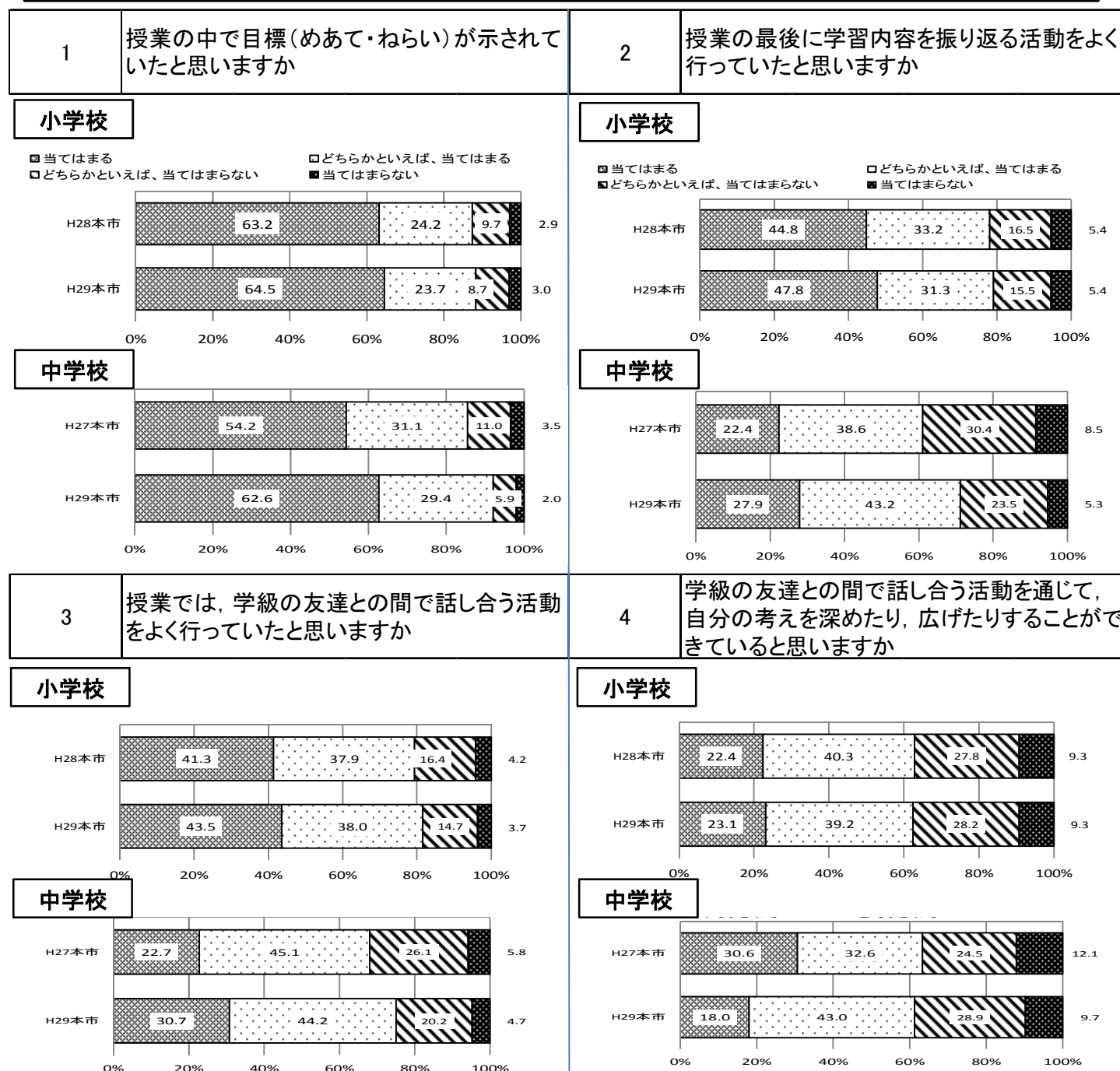
- 児童生徒一人一人へのきめ細かな教育の確立
 - ・学力定着のための学校独自の取組の組織的实施
 - ・学校との連携等による子どもひまわり学習塾の充実
 - ・指導方法工夫改善加配教員等の効果的活用のための工夫
- 学力向上につながる家庭・地域との連携
 - ・家庭学習の指導の充実
 - ・乳幼児期からの望ましい生活習慣づくりなど学びの基盤づくりの取組
- 確かな学力を育む校種間の連携
 - ・小中連携の充実
 - ・保幼小連携の充実

(2)授業力向上 ①「わかる授業」づくり5つのポイントに関する質問

小学校 H28北九学調－H29全国学調
中学校 H27北九学調－H29全国学調

<「わかる授業」づくり5つのポイント>

- 1 「学び合いの基盤」
- 2 板書には、必ず「めあて」、「まとめ」と「振り返り」
- 3 子どもの思考を深める「発問」の工夫
- 4 1単位時間の中に「話し合う活動」と「書く活動」
- 5 「まとめ」と「振り返り」終わりの5分の確保



<成果・課題>

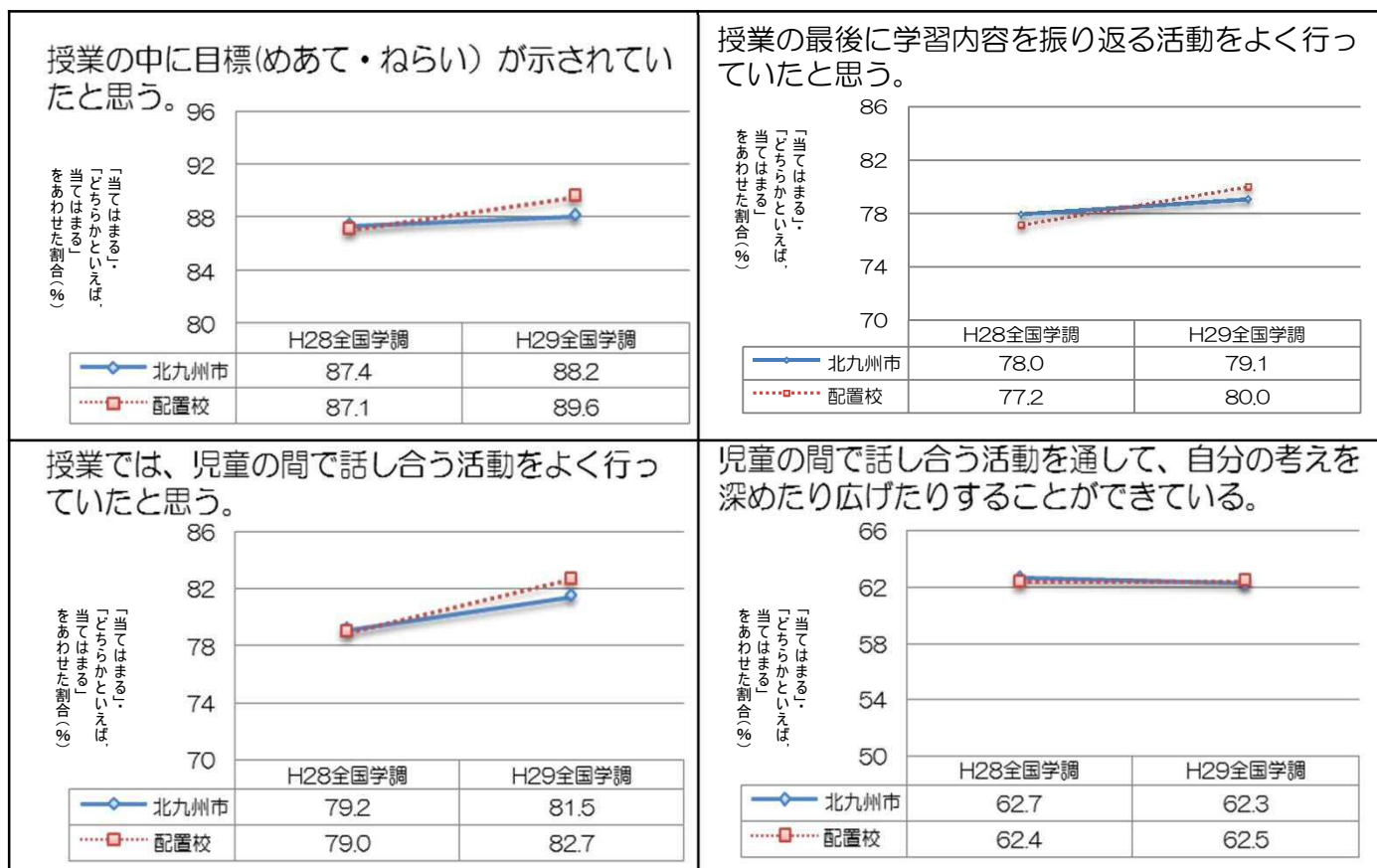
- 全体的に授業改善が進んでいる。めあての提示や振り返る活動、話し合う活動については、小・中学校ともに改善傾向にある。
- 今後は、めあてや振り返り、話し合う活動の内容や質の向上に向けた取組が必要である。
- 自分の考えを深めたり、広げたりすることについては、依然課題が見られる。今後は、児童生徒の思考を深めたり、広げたりする教師の発問の吟味や、話し合う活動の場作りの工夫等について検討する必要がある。

(2)授業力向上 ②学力向上推進教員の効果(小学校)

小学校

児童質問紙から、「わかる授業」づくり5つのポイントに関係の深いデータを示しています。

平成28年度全国学力・学習状況調査と平成29年度全国学力・学習状況調査との異集団における児童質問紙の肯定的な回答の割合



「わかる授業」づくり5つのポイントに関する質問項目について、肯定的な回答をした割合は、学力向上推進教員配置校において、伸び率が大きくなっている。

学力向上推進教員の効果

<配置校への聞き取り>

【モデル授業※の実施】

- ・「よい授業」のイメージを共有し、授業のスタンダード化への意識が高まった。
- ・主体的・対話的で深い学びについて、児童の具体的な姿を校内で共有できた。
- ・考えさせる発問や構造的な板書の具体が示されることで、教員の授業スタイルが変わってきた。
- ・振り返り活動をいろいろな教科で行うようになった。

【授業づくりの支援】

- ・授業中の手だて(めあて・まとめ・振り返り・発問など)について、推進教員へ積極的に相談する職員が増え、同僚と授業に関して語り合う場面が多く見られるようになった。
- ・若年教員を中心に、教材研究の仕方、個別指導のポイントなどを具体的に助言してもらうことができた。

【校内研修の充実】

- ・モデル授業をもとに、5つのポイントについて、どのように各学級で徹底していくかを協議し、学校のベクトルをそろえるための話し合いができた。さらに「自校スタンダード」の共有につながった。
- ・他校の取組や授業内容の好事例を紹介してもらうことで、自校の取組に生かすことができた。

※モデル授業・・・学力向上推進教員配置校において、推進教員が主たる指導者として、実施する公開授業のこと。
小学校では国語科、算数科を中心に、中学校では推進教員の担当教科を中心に実施している。

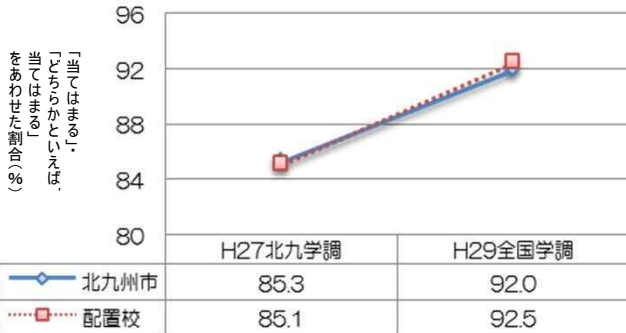
(2) 授業力向上 ②学力向上推進教員の効果(中学校)

中学校

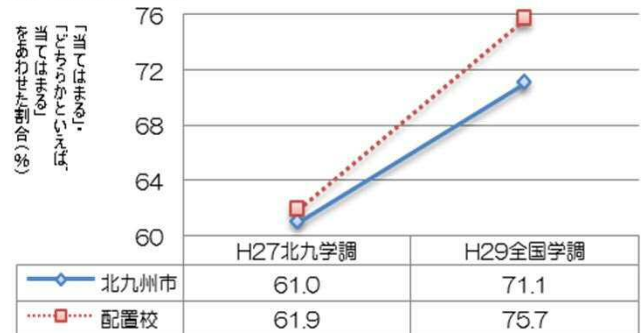
生徒質問紙から、「わかる授業」づくり5つのポイントに関係の深いデータを示しています。

平成27年度北九州市学力状況調査(中1)と平成29年度全国学力・学習状況調査(中3)との同一集団における生徒質問紙の肯定的な回答の割合

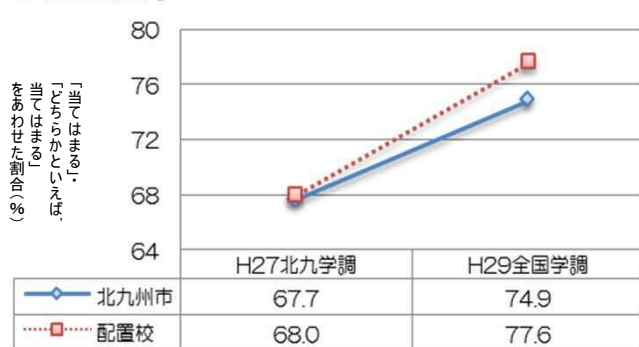
授業の中に目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う。



授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。



授業では、生徒の間に話し合う活動をよく行っていたと思う。



生徒の間に話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができている。



「わかる授業」づくり5つのポイントに関する質問項目について、肯定的な回答をした割合は、学力向上推進教員配置校において、伸び率が大きくなっている。

学力向上推進教員の効果

＜配置校への聞き取り＞

【モデル授業の実施】

- ・ 「めあて」「まとめ」「振り返り」の設定方法を学ぶことができ、すぐに実践へ移すことができた。
- ・ 学習ツール(タイマー、ホワイトボード等)を使って、「話し合う活動」の具体を示すことができ、話し合いを設定する授業が増えた。

【授業づくりの支援】

- ・ 推進教員に授業を見てもらい、自分の授業を改善していこうとする意識の高い職員が増えた。
- ・ 全教科に関わることで、統一した指導(学びの基盤、タイマーの活用など)が行われるようになった。
- ・ 授業後の研修に、授業者だけでなく、参観した教員も一緒に参加し、授業改善の手だてを共有することができた。

【校内研修の充実】

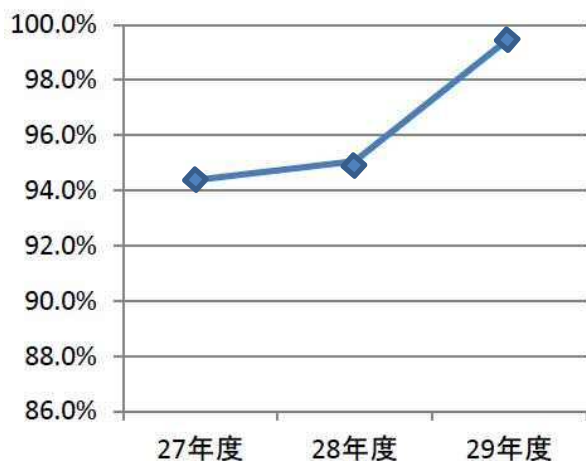
- ・ 教科の枠を越えて授業を見合うことで、「共通の学び」についての理解が高まった。
- ・ 他校の取組や授業内容の好事例を紹介してもらうことで、自校の取組に生かすことができた。
- ・ 推進教員だけでなく、複数の教員が授業参観し、お互いに見合う習慣が根付いてきた。
- ・ 推進教員が授業を参観する際に気付く点が、管理職や他の職員と異なることで、授業改善に対する視野が広がり、授業者のみならず、全職員の授業力向上につながっている。

(2) 授業力向上 ③記述式問題 平均正答率の全国比の推移 平成27年度～平成29年度

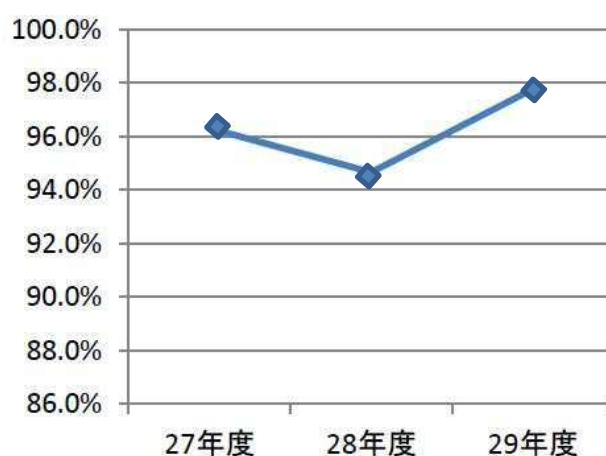
全国学力・学習状況調査の記述式問題の全国平均正答率と本市の正答率とを比較したもの。いずれも、改善が見られている。

平成27年度～29年度 平均正答率全国比（記述式問題）

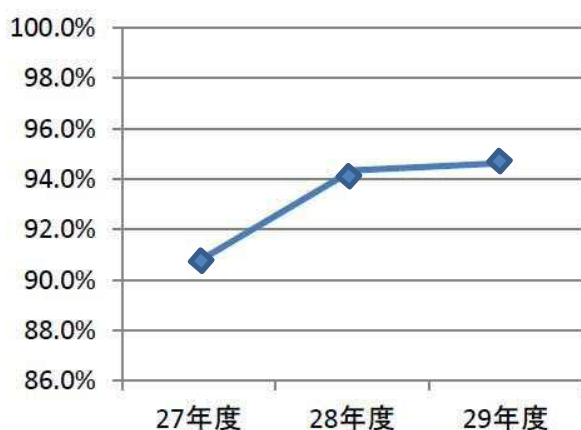
【小学校国語】



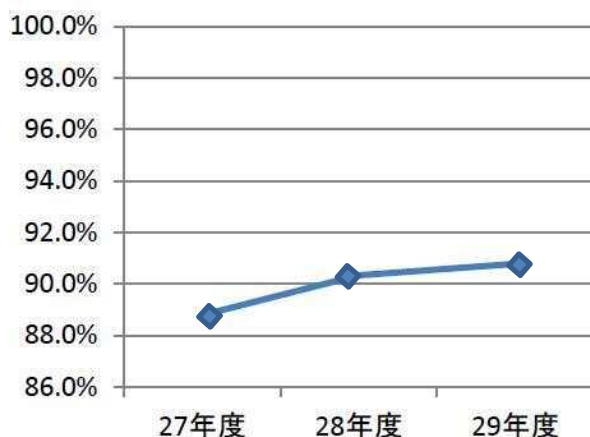
【小学校算数】



【中学校国語】



【中学校数学】



<授業力向上（記述式問題向上の要因）を目指した本市の施策について>

○小・中学校 「『わかる授業づくり』の5つのポイント」の普及

（考えを書く時間の位置付け，学んだことを「振り返り」に書く時間の位置付け 等）

○小学校 本市独自の単元末テストの実施

（考えを説明する等，条件に合わせた記述式の問題から授業改善を目指したもの）

○中学校 定期考査の内容検討と改善

（思考力等を問う問題と位置付け，授業改善を目指したもの）

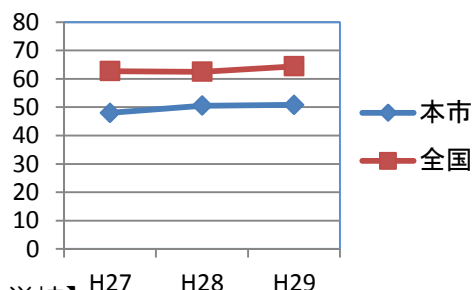
(3) 家庭・地域との連携

～ 児童生徒質問紙より ～

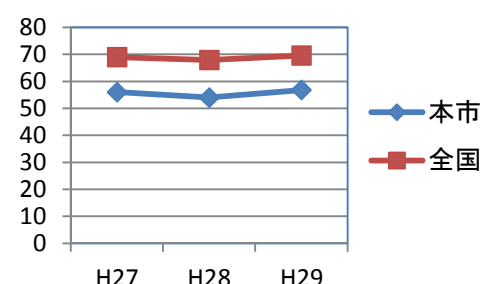
児童生徒質問紙から、「家庭学習」「メディアとの接触」に関係の深いデータを示しています。

質問番号小15中15 【学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか】に対して、「1時間以上勉強している」と回答した児童生徒の割合。

【小学校】



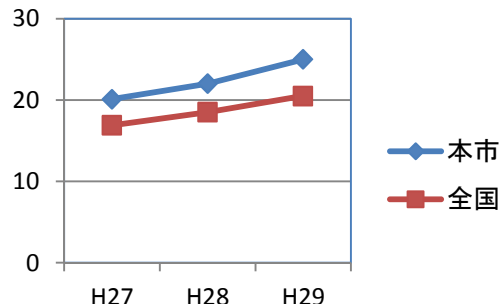
【中学校】



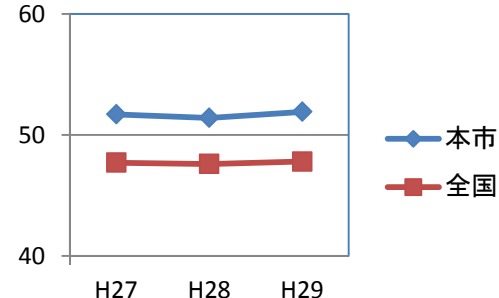
「学校の授業時間以外で1時間以上勉強する」児童生徒の割合は、この3年間、あまり増加していない。また依然、全国との差が見られる。

質問番号 小・中14 【1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか】に対して、1時間以上と回答した児童生徒の割合

【小学校】



【中学校】



「普段、携帯電話やスマートフォンの使用時間が1時間以上の児童生徒の割合は、全国より高くなっている。また、小学校では増加傾向にある。

<学習習慣の定着を図る家庭・地域との連携>

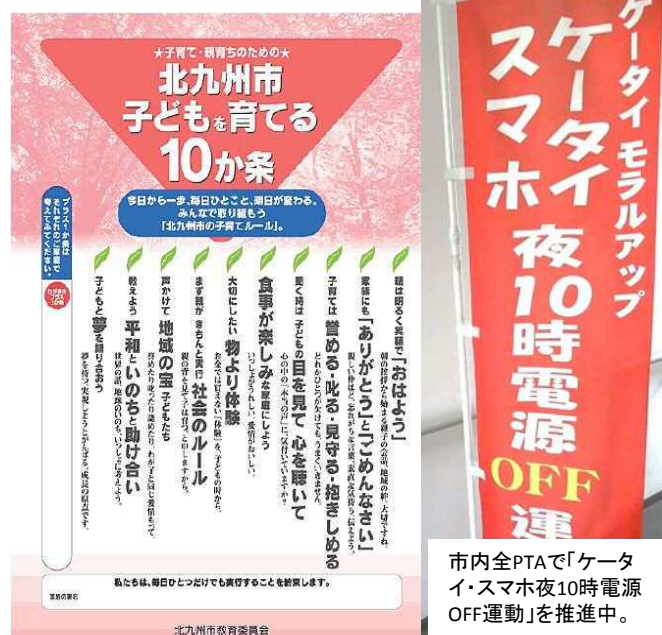
○ 「家庭学習チャレンジハンドブック」「活用編」等を活用した家庭学習の指導の充実

- ・ 宿題の量や質、点検方法の共通理解
- ・ 家庭学習の意義、計画の立て方、取組方等の指導
- ・ 優れた取組・ノート等の掲示や顕彰
- ・ 「学校だより」等での取組の紹介



○ 家庭・地域との連携を図る取組の充実

- ・ 家庭での過ごし方、家庭学習の取組方などについて、保護者会、PTA総会、家庭教育学級等での情報発信や意見交換



市内全PTAで「ケータイ・スマホ夜10時電源OFF運動」を推進中。

(4) 子どもひまわり学習塾

1 子どもひまわり学習塾の目的

児童生徒が主体的な学習の習慣や、基礎的・基本的な学力の確実な定着を図るため、小学校3年生から6年生及び中学校3年生を対象に、放課後等に補充学習を行う。

2 平成29年度実施状況

校種	実施校	実施時期	学習内容	参加者数
小学校	100校	6月上旬～3月上旬	国語科・算数科	約3900人
中学校	62校	7月下旬～3月上旬	数学科・英語科	約500人

- ・ 週2回、1回当たり1時間程度学習。・ 小学校の実施時期は、長期休業期間を除く。
- ・ 中学校の実施校は、拠点型（運営等を民間事業者へ委託）の5か所を含む。拠点型は土曜日の午後、3時間程度学習。

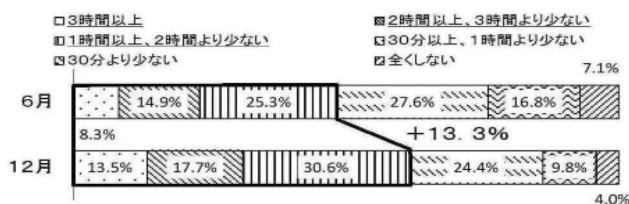
3 学習指導員

約600人（大学生、地域住民、教員OB等）

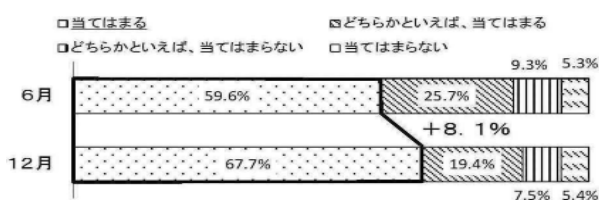
4 平成28年度 児童生徒アンケート結果の比較（1学期と2学期の比較）

児童アンケート調査結果

- ◆ 学校の授業時間以外に、平日、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。（ひまわり学習塾で学習している時間も含む）

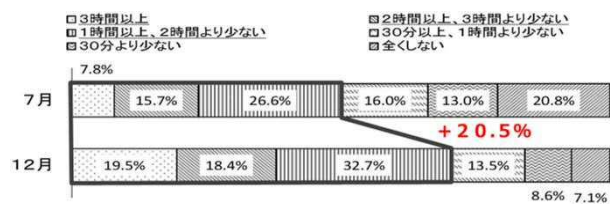


- ◆ ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。

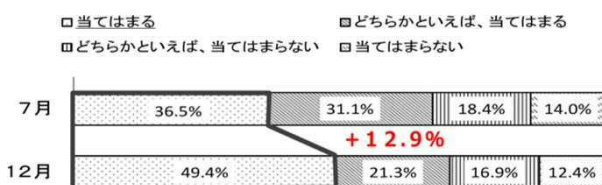


生徒アンケート調査結果

- ◆ 学校の授業時間以外に、平日、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。（ひまわり学習塾で学習している時間も含む）



- ◆ 将来の夢や希望をもっている。



☆ 子どもひまわり学習塾に参加した児童生徒は、学校以外での学習時間が増加している。また、自己肯定感も高まっている。

5 子どもひまわり学習塾に参加した児童の感想

- ・ 算数で、一億をこえる数が得意になりました。心の中で「やったー」という気持ちになりました。国語では、国語辞典の使い方が分かり、辞書を使うのがとっても好きになりました。2学期でも、辞書を使う学習をもっとしたいです。
- ・ わたしは、苦手だった算数ができるようになりました。テストの点数が前よりも上がりました。
- ・ ぼくは、ひまわり学習塾で、集中力がついたと思いました。勉強がいやじゃなくなりました。





2 平成29年度 新体力テスト調査結果速報値

(1) 全体概要(平成29年度新体力テスト速報値)

平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果は、スポーツ庁から12月中旬に公表予定

結果の概要

【小学校】

- 体力合計点において、男女共に、昨年度の本市平均を上回った。
- 経年比較した時、昨年度の数値を上回った種目数（8種目中）
男子：6種目 女子：7種目
- 体力合計点において、男女共に、昨年度の全国平均を上回った。
- 昨年度の全国平均を上回った種目数（8種目中）
男子：7種目 女子：5種目

【中学校】

- 体力合計点において、男女共に、昨年度の本市平均を上回った。
- 経年比較した時、昨年度の数値を上回った種目数（9種目中）
男子：8種目 女子：全種目
- 体力合計点において、男女共に、昨年度の全国平均を上回った。
- 昨年度の全国平均を上回った種目数（9種目中）
男子：8種目 女子：8種目

※全国平均は、平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査と比較

本年度結果（小学校）

実技に関する調査の結果

【調査種目】小学校8種目 中学校9種目（20mシャトルランと持久走のどちらかを選択）
体力合計点：各種目の記録を10点満点で得点化し、合計したもの

※ は、昨年度全国平均値と同等以上の項目。本市比較で前年度より向上したものは↑で示す。

※本速報値は、市独自の集計であり、国の集計方法とは異なるため、数値が変わることもある。

測定項目	単位	小学校5年 男子				小学校5年 女子			
		H28 全国	H28 本市	H29 全国	H29 本市	H28 全国	H28 本市	H29 全国	H29 本市
①握力	kg	16.47	16.78		16.67	16.13	16.48		16.47
②上体起こし	回	19.67	19.79		↑ 20.33	18.60	18.34		↑ 19.24
③長座体前屈	cm	32.87	31.93		↑ 33.04	37.21	35.88		↑ 37.08
④反復横とび	点	41.97	41.14		40.89	40.06	39.07		↑ 39.56
⑤20mシャトルラン	回	51.89	51.08		↑ 52.63	41.29	40.17		↑ 42.03
⑥50m走	秒	9.38	9.41		↑ 9.38	9.61	9.67		↑ 9.62
⑦立ち幅とび	cm	151.39	151.32		↑ 152.74	145.31	145.18		↑ 146.31
⑧ソフトボール投げ	m	22.42	23.82		↑ 24.08	13.88	13.97		↑ 14.56
体力合計点	点	53.92	53.77		↑ 54.31	55.54	54.74		↑ 55.92

本年度結果（中学校）

実技に関する調査の結果

【調査種目】小学校8種目 中学校9種目（20mシャトルランと持久走のどちらかを選択）

体力合計点：各種目の記録を10点満点で得点化し、合計したもの

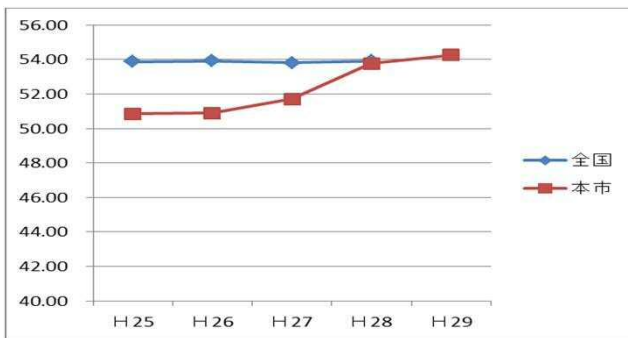
※ は、昨年度全国平均値と同等以上の項目。本市比較で前年度より向上したものは↑で示す。

※本速報値は、市独自の集計であり、国の集計方法とは異なるため、数値が変わることもある。

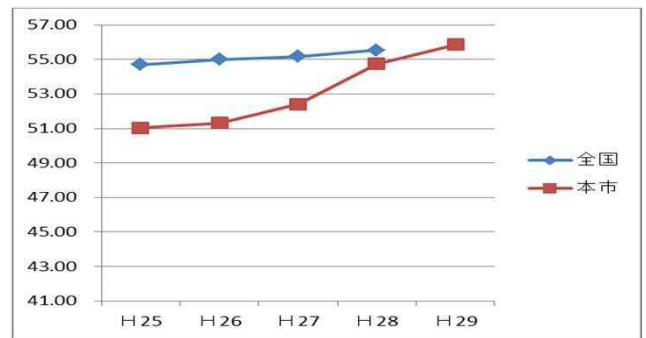
測定種目	単位	中学校2年 男子				中学校2年 女子			
		H28 全国	H28 本市	H29 全国	H29 本市	H28 全国	H28 本市	H29 全国	H29 本市
①握力	kg	28.91	29.55		↑ 30.16	23.75	24.21		↑ 24.50
②上体起こし	回	27.46	28.06		↑ 28.60	23.48	23.51		↑ 24.67
③長座体前屈	cm	43.06	44.81		↑ 46.00	45.46	46.78		↑ 49.08
④反復横とび	点	51.93	52.32		↑ 52.50	46.60	46.51		↑ 46.98
⑤持久走	秒	391.72	388.77		↑ 376.00	288.51	293.87		↑ 283.00
⑥20m シャトルラン	回	86.24	87.33		86.22	58.80	58.23		↑ 59.16
⑦50m走	秒	8.03	7.93		↑ 7.90	8.83	8.81		↑ 8.74
⑧立ち幅とび	cm	194.69	197.50		↑ 200.40	168.28	169.02		↑ 174.59
⑨ハンドボール投げ	m	20.59	21.05		↑ 21.33	12.85	12.76		↑ 12.79
体力合計点	点	42.13	43.99		↑ 44.75	49.56	50.04		↑ 51.84

体力合計点の経年変化

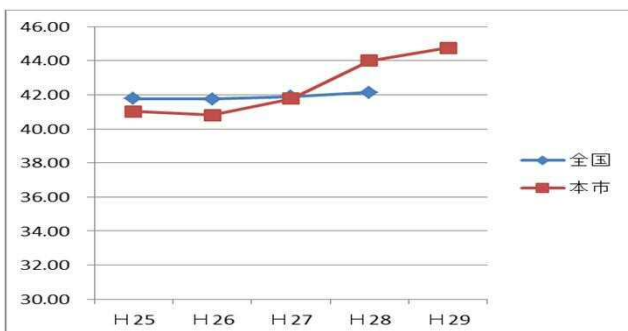
【小学校男子】



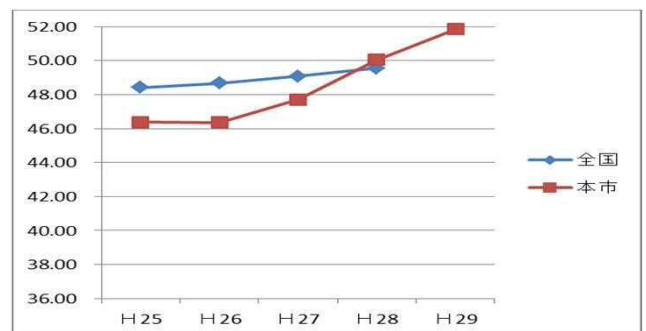
【小学校女子】



【中学校男子】



【中学校女子】



※本資料は新体カテストの種目別結果を各学校ごとに集計・分析し配付したものである。

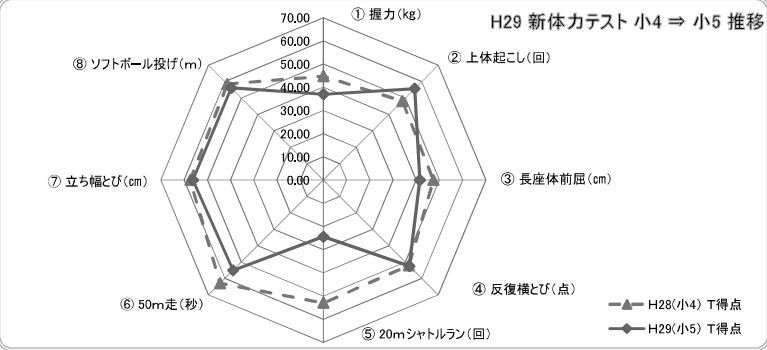
平成29年度 新体カテスト【小学5年生 男子】 分析資料

学校名) 北九州市立〇〇小学校

◇ 新体カテスト結果

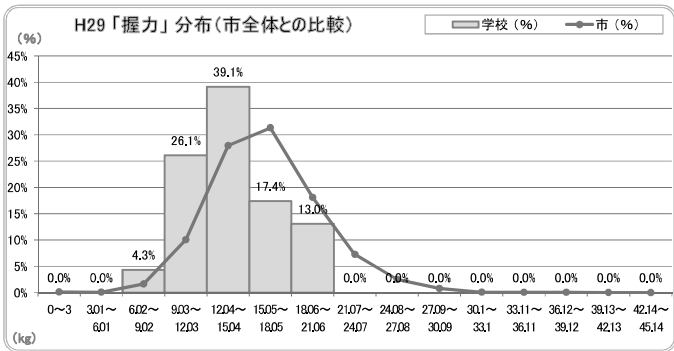
種目名	H29(小5) 平均値	H29(小5) T得点	H28(小4) 平均値	H28(小4) T得点
① 握力(kg)	14.52	36.99	13.70	44.74
② 上体起こし(回)	21.55	55.67	17.14	48.14
③ 長座体前屈(cm)	29.35	41.59	29.00	47.38
④ 反復横とび(点)	41.77	52.38	37.28	52.08
⑤ 20mシャトルラン(回)	33.15	24.43	45.09	52.94
⑥ 50m走(秒)	9.23	55.04	9.38	62.96
⑦ 立ち幅とび(cm)	158.00	56.20	149.87	57.37
⑧ ソフトボール投げ(m)	25.63	56.16	22.16	58.48
体力合計点(点)	52.63	44.44	49.55	55.14

◇ 同一集団による経年比較

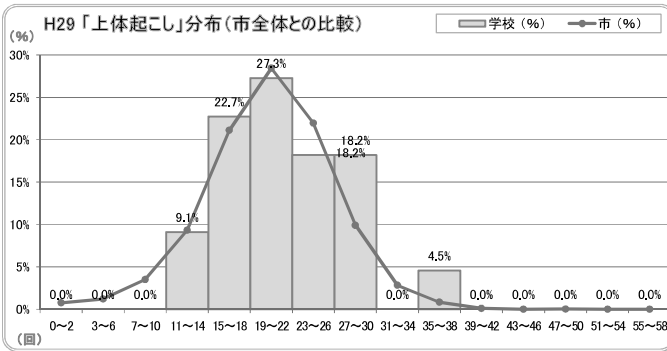


◇ 実技結果の分布(種目別)

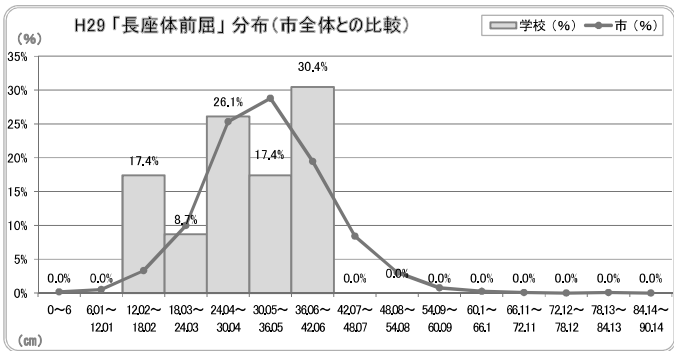
① 握力(kg)



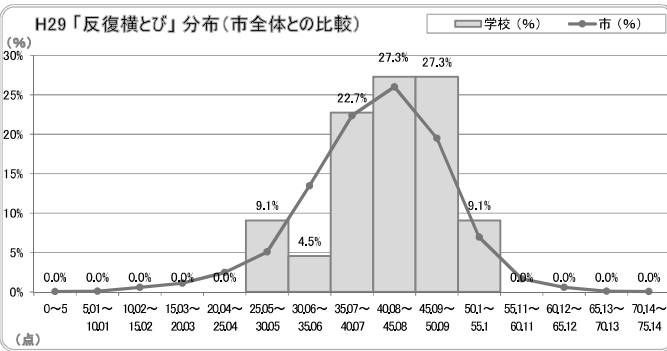
② 上体起こし(回)



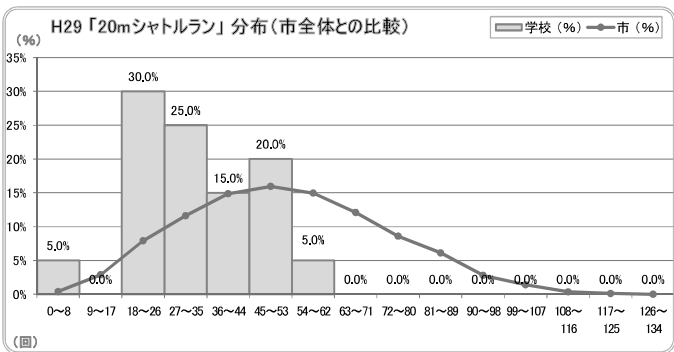
③ 長座体前屈(cm)



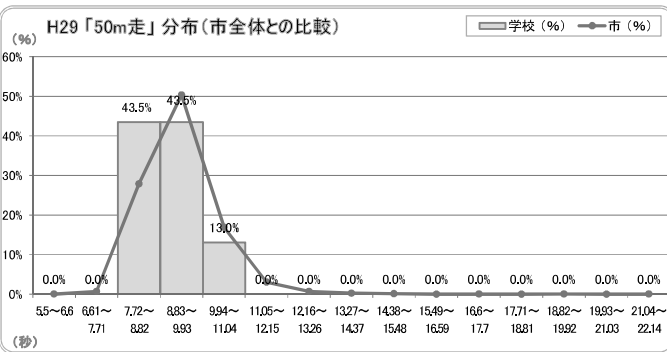
④ 反復横とび(点)



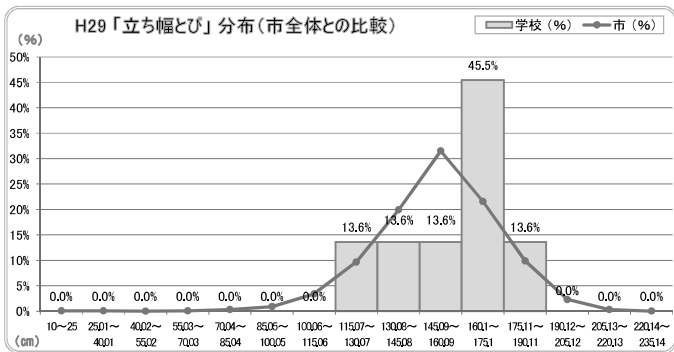
⑤ 20mシャトルラン(回)



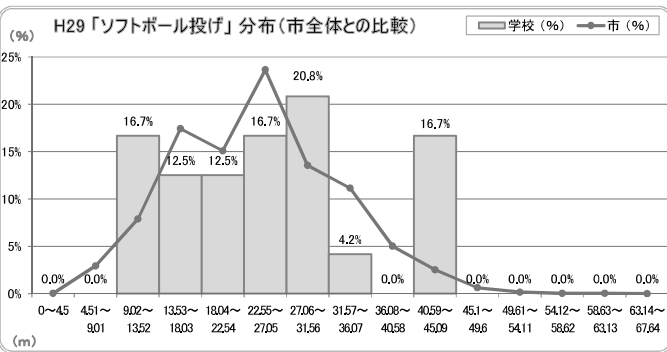
⑥ 50m走(秒) ※ 横軸はタイムが速い順です。



⑦ 立ち幅とび(cm)



⑧ ソフトボール投げ(m)



各学校は、資料をもとに自校の児童生徒の体力状況を把握し、課題解決の取組を行っている。

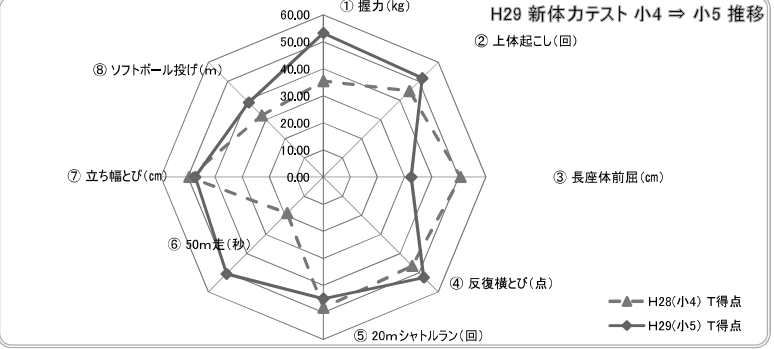
平成29年度 新体力テスト【小学5年生 女子】 分析資料

学校名) 北九州市立〇〇小学校

◇ 新体力テスト結果

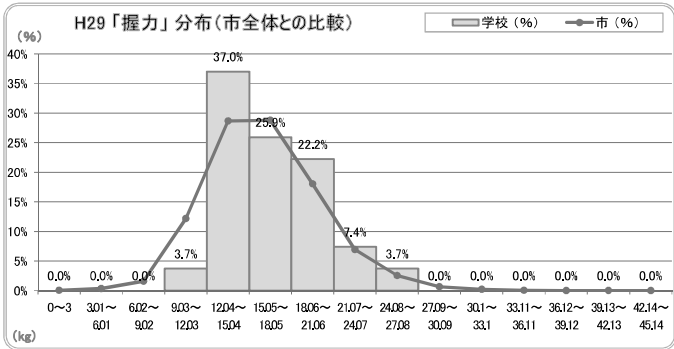
種目名	H29(小5) 平均値	H29(小5) T得点	H28(小4) 平均値	H28(小4) T得点
① 握力(kg)	17.04	53.16	11.20	35.44
② 上体起こし(回)	19.69	51.64	15.46	44.97
③ 長座体前屈(cm)	29.50	32.46	33.65	50.70
④ 反復横とび(点)	40.42	52.45	32.88	46.42
⑤ 20mシャトルラン(回)	38.64	44.94	32.12	48.29
⑥ 50m走(秒)	9.61	50.54	11.30	18.88
⑦ 立ち幅とび(cm)	144.00	47.30	134.54	49.56
⑧ ソフトボール投げ(m)	12.38	38.95	9.00	32.16
体力合計点(点)	53.80	44.01	43.80	38.62

◇ 同一集団による経年比較

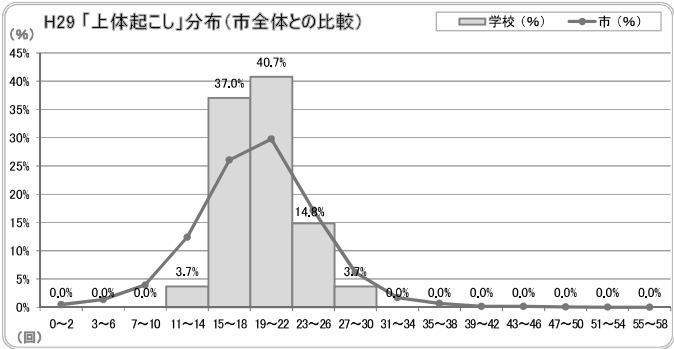


◇ 実技結果の分布(種目別)

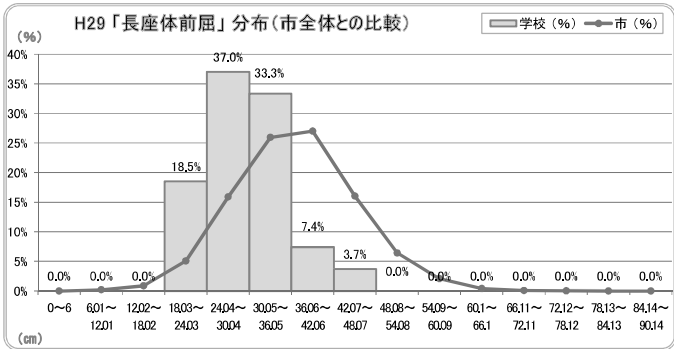
① 握力(kg)



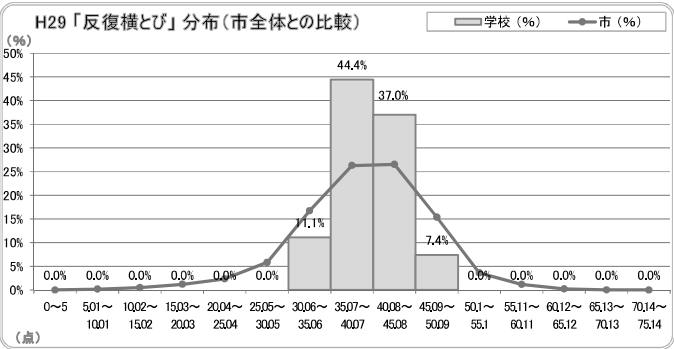
② 上体起こし(回)



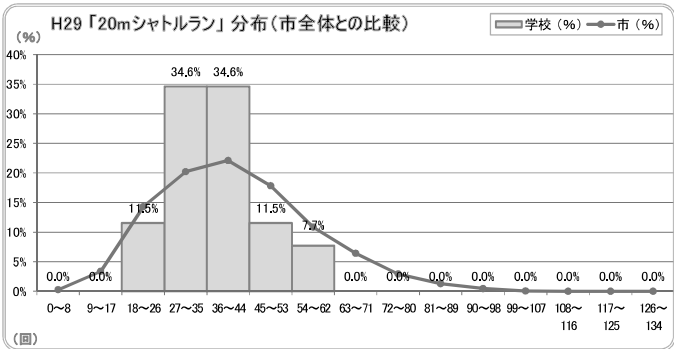
③ 長座体前屈(cm)



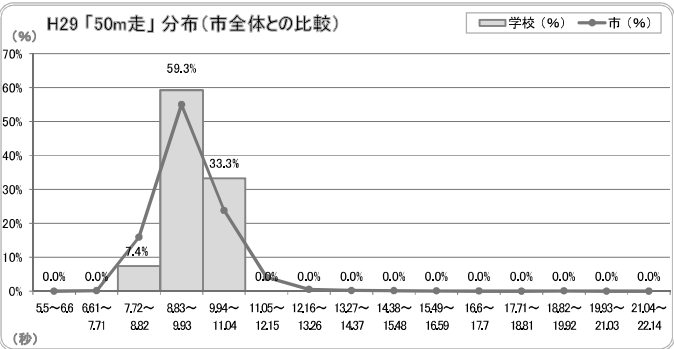
④ 反復横とび(点)



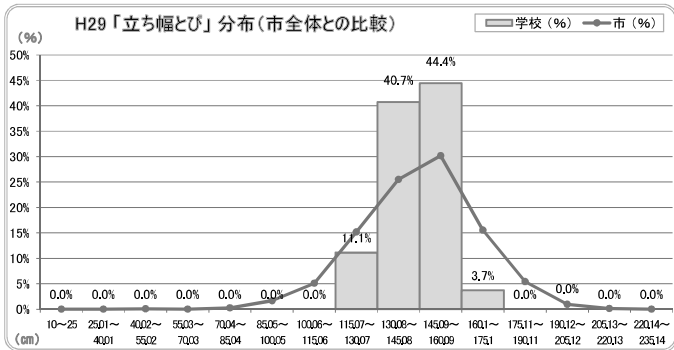
⑤ 20mシャトルラン(回)



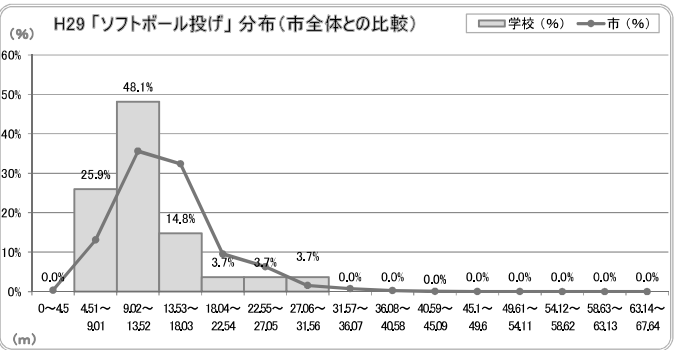
⑥ 50m走(秒) ※ 横軸はタイムが速い順です。



⑦ 立ち幅とび(cm)



⑧ ソフトボール投げ(m)



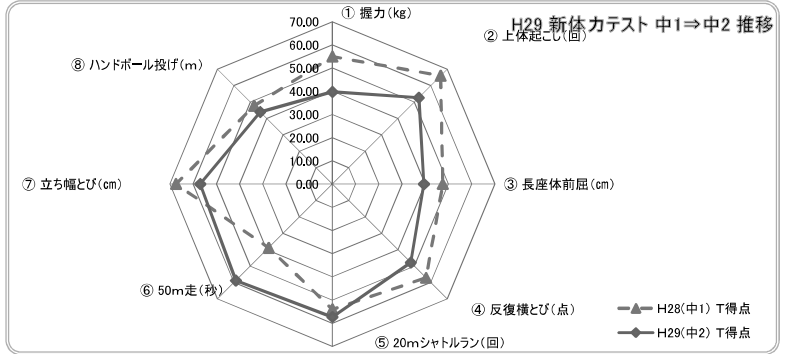
平成29年度 新体力テスト【 中学2年生 男子 】 分析資料

学校名) 北九州市立〇〇中学校

◇ 新体力テスト結果

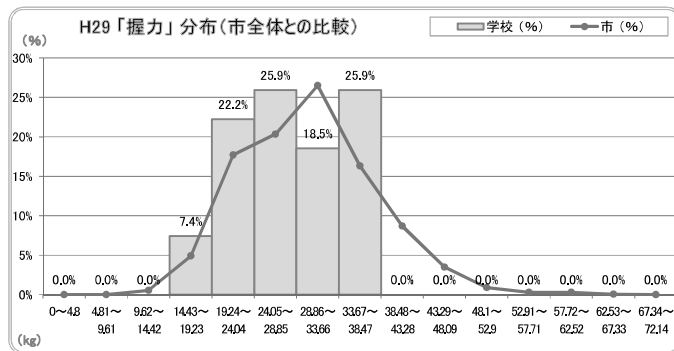
種目名	H29(中2) 平均値	H29(中2) T得点	H28(中1) 平均値	H28(中1) T得点
① 握力(kg)	27.96	39.73	25.59	54.92
② 上体起こし(回)	29.22	52.67	26.83	66.03
③ 長座体前屈(cm)	41.37	39.47	38.24	47.57
④ 反復横とび(点)	51.78	47.79	50.86	57.14
⑤ 20mシャトルラン(回)	91.89	57.28	75.86	54.02
⑥ 50m走(秒)	7.63	58.78	8.18	38.78
⑦ 立ち幅とび(cm)	206.41	56.97	193.86	67.34
⑧ ハンドボール投げ(m)	20.26	43.97	17.97	47.73
体力合計点(点)	43.78	47.10	37.07	58.54

◇ 同一集団による経年比較

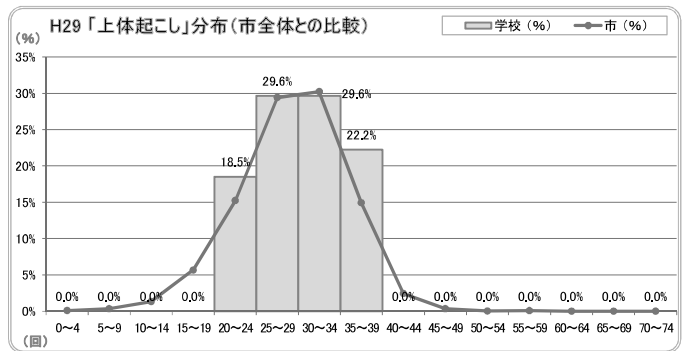


◇ 実技結果の分布(種目別)

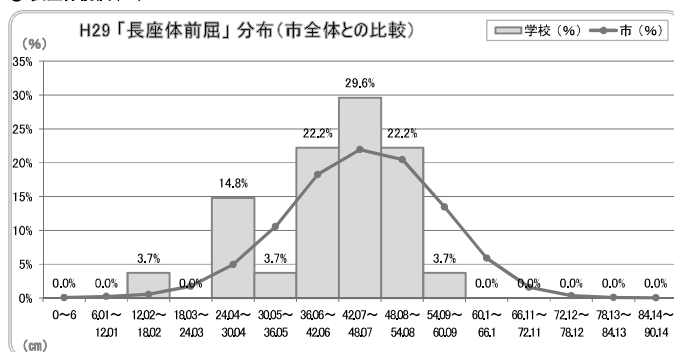
① 握力(kg)



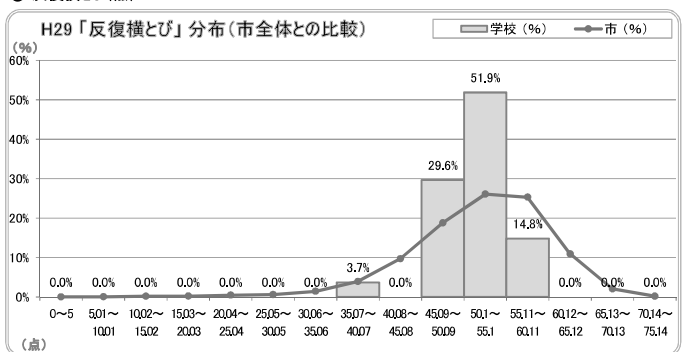
② 上体起こし(回)



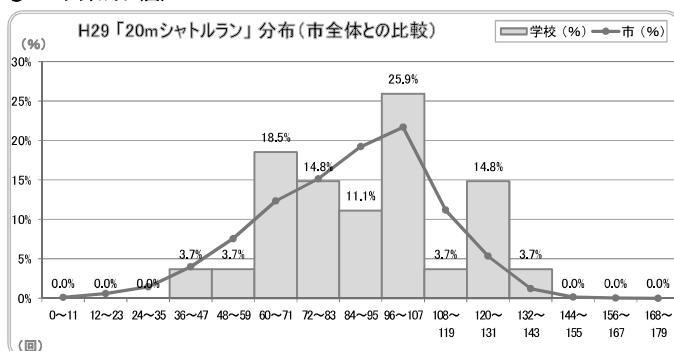
③ 長座体前屈(cm)



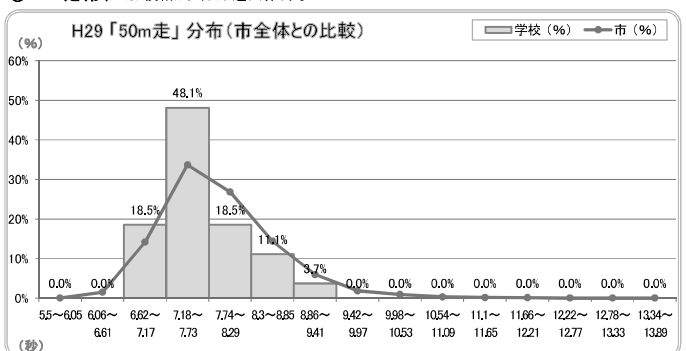
④ 反復横とび(点)



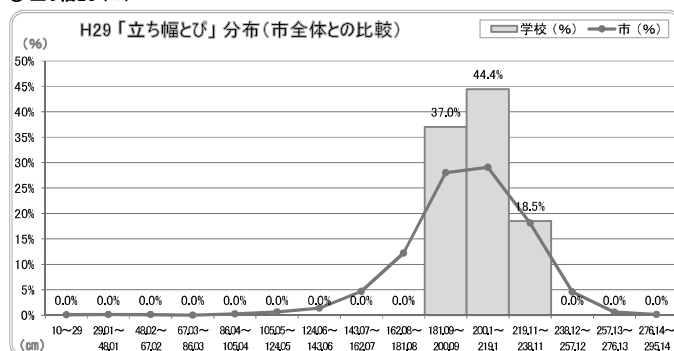
⑤ 20mシャトルラン(回)



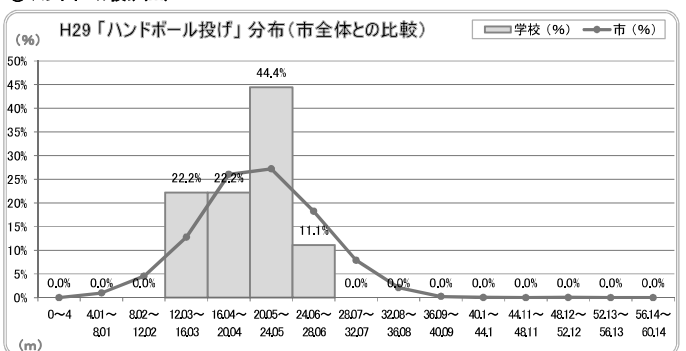
⑥ 50m走(秒) ※ 横軸はタイムが速い順です。



⑦ 立ち幅とび(cm)



⑧ ハンドボール投げ(m)



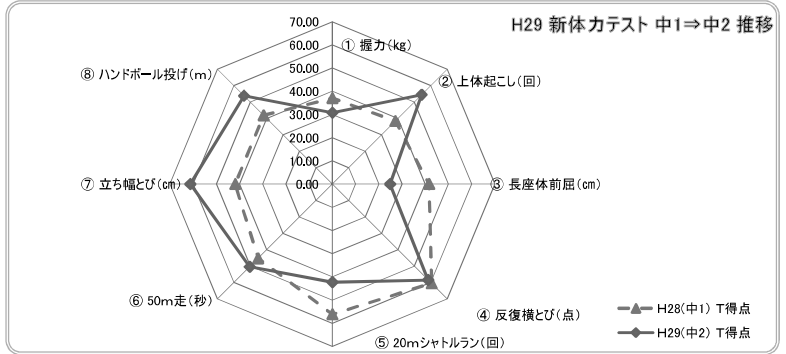
平成29年度 新体力テスト【 中学2年生 女子 】 分析資料

学校名) 北九州市立〇〇中学校

◇ 新体力テスト結果

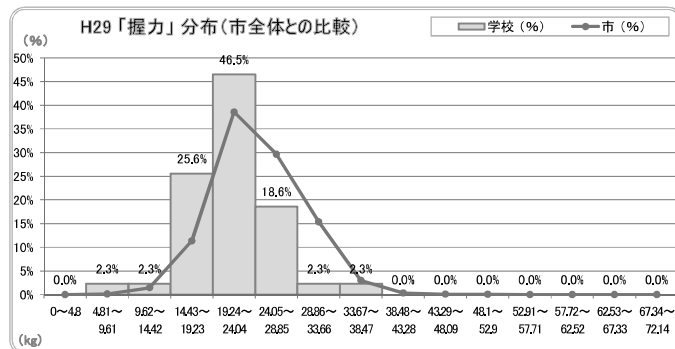
種目名	H29(中2) 平均値	H29(中2) T得点	H28(中1) 平均値	H28(中1) T得点
① 握力(kg)	21.74	30.74	20.54	37.02
② 上体起こし(回)	25.98	54.44	20.98	38.38
③ 長座体前屈(cm)	40.05	24.92	40.43	41.73
④ 反復横とび(点)	49.23	58.43	47.37	60.43
⑤ 20mシャトルラン(回)	54.42	42.27	56.93	56.15
⑥ 50m走(秒)	8.73	50.35	9.16	45.22
⑦ 立ち幅とび(cm)	183.02	61.19	160.02	41.88
⑧ ハンドボール投げ(m)	13.23	53.85	10.40	41.91
体力合計点(点)	50.30	45.18	43.69	45.59

◇ 同一集団による経年比較

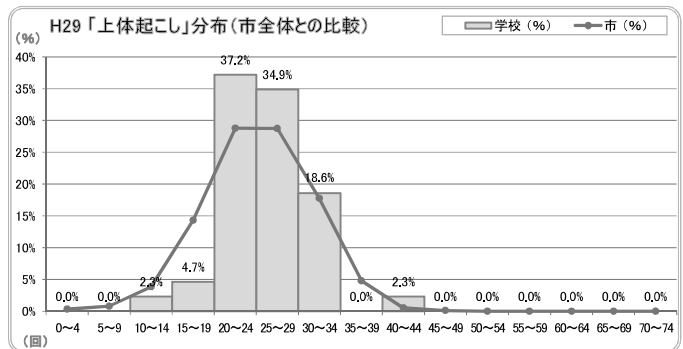


◇ 実技結果の分布(種目別)

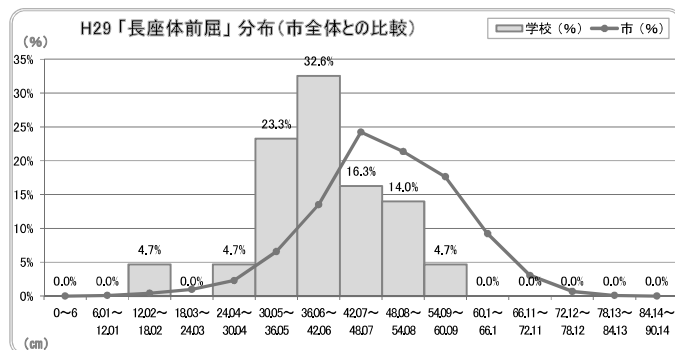
① 握力(kg)



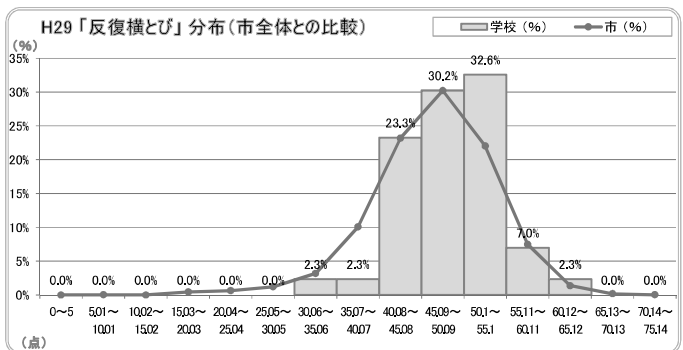
② 上体起こし(回)



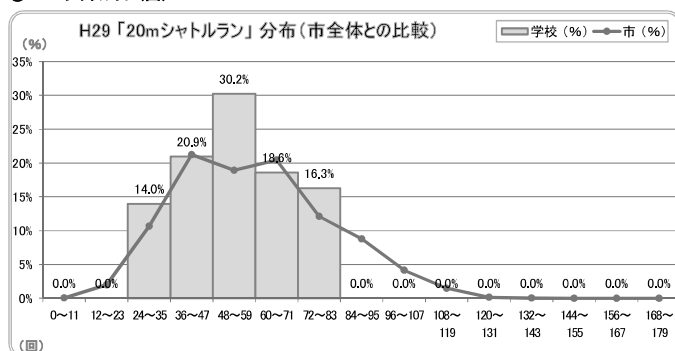
③ 長座体前屈(cm)



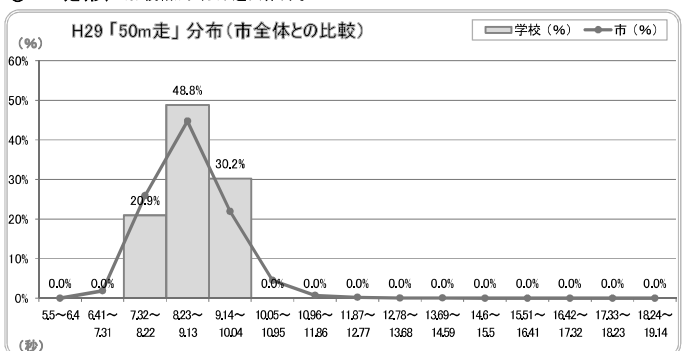
④ 反復横とび(点)



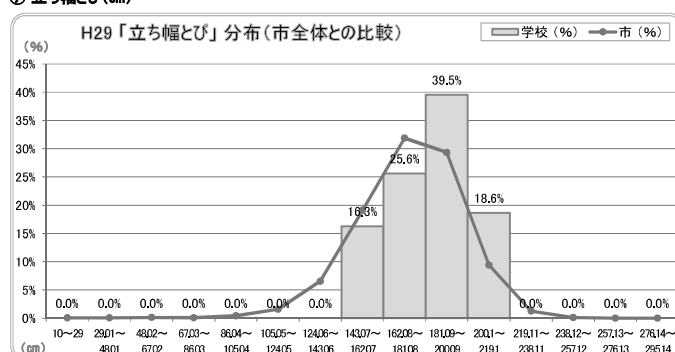
⑤ 20mシャトルラン(回)



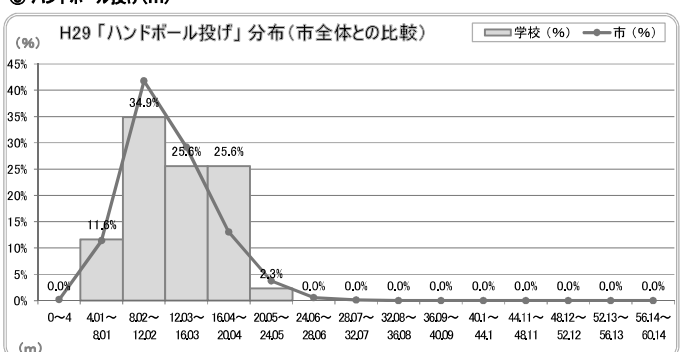
⑥ 50m走(秒) ※ 横軸はタイムが速い順です。



⑦ 立ち幅とび(cm)



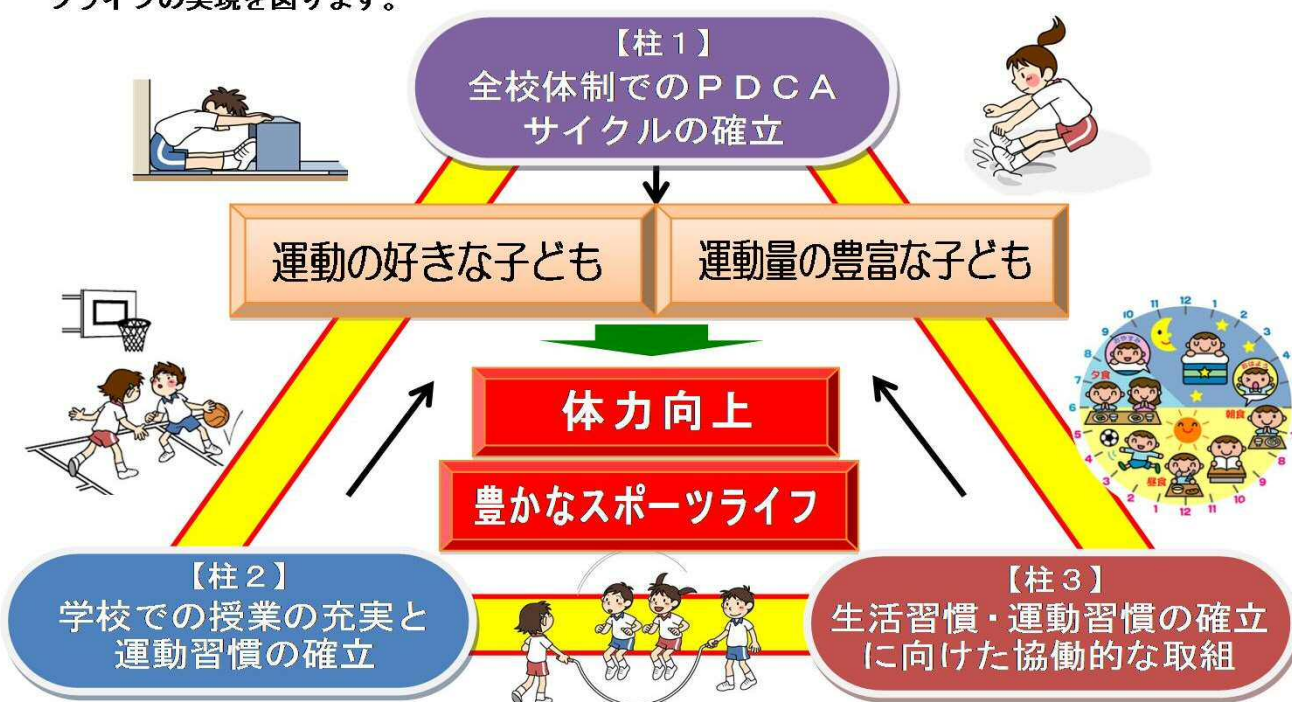
⑧ ハンドボール投げ(m)



(2)本年度の体力向上の取組について

北九州市学力・体力向上アクションプランの概要（体力向上）

【目標】健やかな体の育成のためには、体育・保健体育科の授業等を通じて、幼児期や学齢期に運動やスポーツに親しむ資質や能力の基礎を養い、病気から身を守る体力を強化し、より健康な状態をつくっていくことが大切です。体力は活動の源であり、健康の維持のほか、意欲や気力の充実に大きく関わっており、人間の発達・成長を支える基本的な要素です。「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」の実現を目指して、以下の3つの柱に沿った取組を実施し、「運動の好きな子ども」「運動量の豊富な子ども」を育て、その結果として、体力の向上と豊かなスポーツライフの実現を図ります。



【今後3年間で取り組む、学校、家庭・地域での具体的取組】

【柱1】全校体制でのPDCAサイクルの確立

- 測定についての正しい理解に基づく、新体力テストの全学年・全種目実施による体力の実態把握（実施方法のDVDと好事例の配信、実技講習会の開催、校内研修等）
- 調査結果等に基づく「スクールプラン」の策定・実行・検証・改善と家庭への調査結果提供
- 体力・学力向上策をつなぐ教育委員会内の体制の確立

【柱2】学校での授業の充実と運動習慣の確立

- 体育・保健体育科授業の準備運動等での「北九州市体力向上プログラム」の活用
- 楽しみながら身に付ける体育・保健体育科授業の構築
（管理職・主幹教諭・指導教諭・学力向上推進教員及び指導主事による指導助言）
- 「1校1取組」による年間を通した運動習慣の確立
（体力の状況・取組が記録できる「北九っ子体力向上シート」等の活用、スポコン広場への参加、なわとび運動、持久走、ダンス等を年間を通して継続的に実施）

【柱3】生活習慣・運動習慣の確立に向けた協働的な取組

- 「早寝・早起き・朝ごはん運動」、「ケータイ・スマホ夜10時オフ」の推進
- 保健学習の指導の充実による健康3原則の正しい理解と家庭における実践
- 家庭・地域において、運動を「する・見る・話す」機会づくりのすすめ

◇体力向上プログラムの作成・活用

- (1)「準備運動編」では、「ジャンプアップ運動」や「ボディバランス運動」など、短い時間で簡単に行うことができる運動を紹介しており、各学校ではそれらを体育の準備運動として実践。本年度、紹介する運動を増やす予定。
- (2)「1校1取組編」では、自校の児童生徒の体力の実態に応じて、年間を通して継続的に行うことができる運動を紹介しており、各学校では、「年間を通してなわとびで体力アップ」「ダンスで体力アップ」「スポコン広場で体力アップ」などに取り組んでいる。
- (3)「授業編」は現在作成中であり、子ども達が楽しく取り組み、運動量を確保できるような、授業づくりに役立つアイデアを掲載する予定。

◇新体力テストの結果の活用

種目別結果の分布(ヒストグラム)を作成し、各学校に提供。同一集団における変容や市の平均との比較を基に分析し、体力向上の取組の改善に活かす。

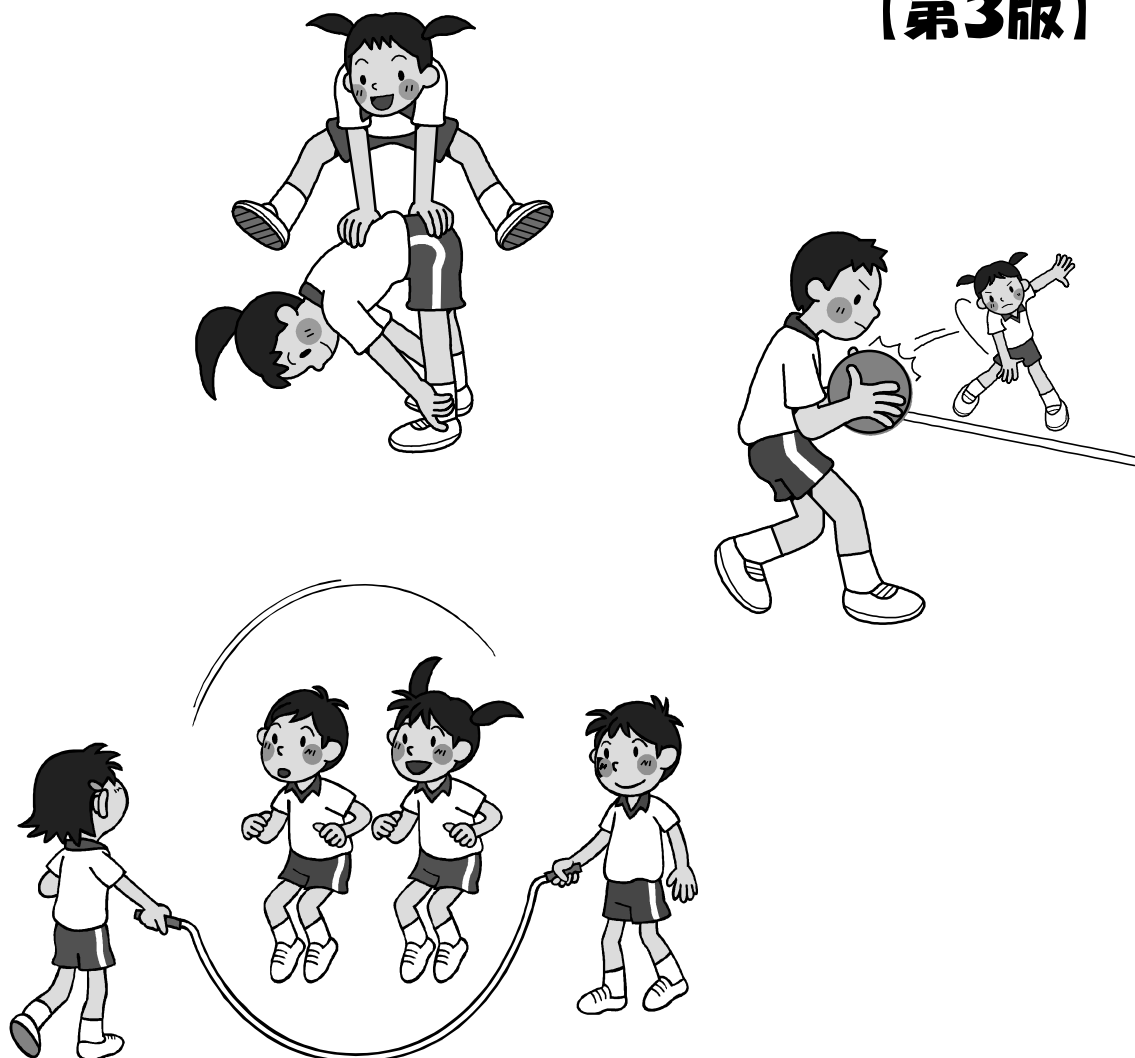
◇教員の研修

- (1) 立命館大学と連携した「小学校体育授業パワーアッププラン研修会」を開催し、校内研修を通じて協同的に授業づくりに取り組めるプログラムを提示。体育授業モデルを示し、指導のポイントを具体的につかむことで、授業改善を全校で図る取組の実施。
- (2)新体力テストの測定の方法や体力向上プログラムの活用について、全小・中学校合同での「体力向上実技講習会」を実施。

運動が好き・運動量の豊富な子どもの育成を目指して！

北九州市体力向上プログラム

【第3版】



平成29年3月（改訂）

北九州市教育委員会

立命館大学と共同開発した体育授業ポイントシート

日々の授業を振り返ろう！「体育授業のポイントシート」

体力向上プログラムを有効に活用するためには、体育授業がきちんとできる体制が整っていることが大切です。日々の体育授業を、ポイントシートを使って、定期的に振り返ってみましょう。



ポイント合計

/100

キーワード：45分・50分の授業の徹底

初任(1～5年目)の先生は40ポイント、中堅(6～10年目)の先生は60ポイント、ベテラン(11年目～)の先生は80ポイントを目指すといよいでしょう。安全・準備に関する内容は、必ず〇がつくように心がけましょう。



流れ	内容		そう思う 思わない
授業のはじめ /24	学習活動	チャイムと同時に授業を始めた。	4-3-2-1
		始まりのあいさつをした。	4-3-2-1
		準備運動を行った。(ストレッチ系、北九州市体力向上プログラムの両方)	4-3-2-1
		今日のめあてを児童生徒と確認した。(例：板書、黒板等への掲示、復唱等)	4-3-2-1
	指導	児童生徒の体調や様子等を確認した。	4-3-2-1
		体調面、態度面など、注意すべき児童生徒の様子を確認・指導した。	4-3-2-1
授業のなか /40	学習活動	児童生徒一人あたりの運動時間を確保した。(授業時間の5割程度)	4-3-2-1
		運動が苦手な児童生徒が「できた」と感じることのできる運動(内容)があった。	4-3-2-1
		運動について考えたり、話し合ったり、思考する場面があった。	4-3-2-1
	指導	児童生徒一人ひとりに対する言葉かけを行った。	4-3-2-1
		児童生徒の名前を呼んで言葉かけをした。(近くに行って共感的な言葉かけ)	4-3-2-1
		できたことを、具体的に褒めた。	4-3-2-1
		積極的に取り組んでいることを、具体的に褒めた。	4-3-2-1
		仲間を応援していることを、具体的に褒めた。	4-3-2-1
		伸びに注目した言葉かけを、具体的に行った。	4-3-2-1
		できないことに対する否定的な言葉かけを、行わなかった。	4-3-2-1
授業のまとめ /28	学習活動	授業のまとめを行った。	4-3-2-1
		運動が苦手な児童生徒のがんばりや努力についても積極的に紹介し、クラス全体で認め合う場面をつくった。	4-3-2-1
		整理運動を行った。	4-3-2-1
		終わりのあいさつをした。	4-3-2-1
		チャイムと同時に授業を終えた。	4-3-2-1
	指導	まとめの中で、運動の苦手な児童生徒のよいところを褒めた。	4-3-2-1
		積極的に活動した・技能が伸びた・よくなった児童生徒を紹介した。	4-3-2-1
準備安全 /8	指導	児童生徒が協力して準備や片付けを行えるように、具体的な手立てを行った。(例：順番を決めた、準備・片付けの仕方を教えた等)	4-3-2-1
		安全に配慮し、けがなく、授業を行うことができた。	4-3-2-1

体育授業のポイントシートは、立命館大学スポーツ健康科学部スポーツ教育学研究室及び北九州市教育委員会が共同開発しました。



準備運動編（例）

プログラム名	新体カテストとの関連 立ち幅び
ジャンプアップ運動	
準備運動に取り入れたいおすすめの領域 (低)走・跳の運動遊び(中) 走・跳の運動 (高)陸上運動 (中学校)陸上競技 (小・中学校)体づくり運動 等	活動のめやす時間 2分 効果の表れる期間 4週間～

<このような運動です>

短い時間で行うことができ、運動特性の「タイミングのよさ」「力強さ」を高めるのに効果的な運動です。新体カテストの立ち幅跳びや、運動領域の陸上系「走り幅跳び」等に結び付く運動です。

【小学校】
【中学校】

プログラム	低学年 実施回数	中学年 実施回数	高学年 実施回数	中学校 実施回数
リズム 抱え込みジャンプ	5回	7回	10回	15回
リズム 折りたたみジャンプ	5回	7回	10回	15回
リズム 開脚ジャンプ	5回	7回	10回	15回
連続 抱え込みジャンプ	5回	7回	10回	15回
合計	5回×4=20回 週3回	7回×4=28回 週3回	10回×4=40回 週3回	15回×4=60回 週3回

教師の笛の合図で、跳ぶようにします。

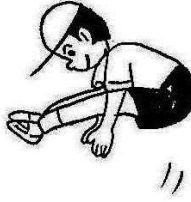
教師の1回の笛の合図後、連続して跳びます。

リズム抱え込みジャンプ



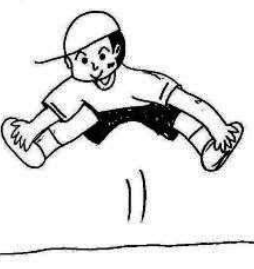
ジャンプしてすぐにヒザを抱え込みます。抱え込むことが難しい場合は、「ヒザにタッチ」でも構いません。

リズム折りたたみジャンプ



ジャンプして、足の裏側で手をたたきます。足の裏で手を叩くことが難しい場合は、おしりにタッチでも構いません。

リズム開脚ジャンプ



つま先にタッチします。難しい場合は、足首やヒザにタッチでも構いません。

本プログラムは、立命館大学スポーツ健康科学部スポーツ教育学研究室、北九州市教育委員会、及び草津市教育委員会が共同開発しました。

©2016 RITSUMEIKAN UNIVERSITY S.H.S Sport Pedagogy Lab.

1 校 1 取組編（例）

気持ちを一つに！

レッツ・チャレンジ！なわとびタイム

新体力テストとの関連
20mシャトルラン
反復横とび、立ち幅とび
対象：小・中学校

＜このような運動です＞

長なわ・短なわを使った全身運動を、小学校では1～6年生のたてわりグループで協力し、中学校では学年等で継続させることで親睦を深め、運動習慣の定着、体力の向上を図ります。また、仲間やなわの動きに対応してタイミングよくリズムカルに動くことができる能力も高めていきます。

レッツ・チャレンジ！なわとびタイムの行い方

- 1 時 月・水・金曜日の中休み（週3回程度）
※ スポーツ集会や持久走大会等の体育的行事の準備期間に合わせて実施すると活動の意欲が持続しやすい。
- 2 場所 運動場（体育館）
- 3 内容 長なわとび（8の字・一斉とび）
短なわとび
- 4 実施方法
 - 1～6年生のたてわりグループで活動する。
 - 学校の実態に応じて、長なわ（8の字とび、一斉とび）・短なわを日替わり、週替わりで行う。
- 5 指導の工夫
 - 体育委員会の児童が細かい実施方法や内容を校内放送・全校集会等で連絡する。
 - 学期はじめの体育科「体づくり運動」や準備運動の中で長なわ・短なわを積極的に取り入れ、なわとびを体験する機会を増やす。
 - 記録の時間「チャレンジタイム」（長なわ：3分間、短なわ：1分間）を毎回実施し、記録をカード等に記載する。記録の測定は、一度引っかかってもしその回数から加算し、跳び続けても構わないものとする。
- 6 継続のためのアイデア
 - 毎回の最高記録を掲示板やお昼の放送で紹介することで見える化を推進し、次への意欲を高める。
 - 集中下足置き場に長なわのかご等を設置し、いつでも誰でも何度でも活動できるようにしておく。
 - 日常活動の成果をスポーツ集会等で競う場を設定し、目標をもつ
 - 各種通信で活動を保護者や地域に発信し、理解を得るとともに意欲的に運動の習慣が定着できる。



授業編（例）

6年 水泳

具体的指導内容

- 本単元では、児童一人一人が自分にあった問題解決の方法を知り、手と足の動きに呼吸を合わせながらクロールや平泳ぎで続けて長く泳ぐことができることをねらいとしている。
- 指導に当たっては、児童が自己目標を設定し、その達成のために手や足の動かし方の課題を自分で選択して解決していく学習展開をとる。また、着衣泳については、学校の実態に応じて取扱う。水泳は命に直結するため「水泳の心得」は必ず守らせるように徹底する。

目標

運動への 関心・意欲・態度	○ クロールや平泳ぎに進んで取り組み、助け合って水泳しようとする。 ○ 水泳の心得を守って、自分の健康や安全に気を配ろうとする。
運動についての 思考・判断	○ クロールや平泳ぎのポイントを知り、自分に合った課題を見付けることができる。 ○ 自分の課題に応じた練習の場や段階を選ぶことができる。
運動の技能	○ クロールで合理的な呼吸の仕方をしながら、続けて長く泳ぐことができる。 ○ 平泳ぎでキックとストローク、呼吸を調和させ、続けて長く泳ぐことができる。

単元計画

	はじめ	なか							おわり
	1 時間目	2 時間目	3 時間目	4 時間目	5 時間目	6 時間目	7 時間目	8 時間目	9 時間目
導入 (5 分)	オリエンテーション	準備運動 シャワー 入水 水慣れ (ボビング・け伸び・キック・面かぶりクロール・面かぶり平泳ぎ) 学習のめあてを確認							
活動① (30 分)	・水泳の心得の確認 ・水慣れ ・学習の進め方 試しの泳ぎ ・距離の測定	【ねらい 1】＜クロールで自分の課題に合った練習をする＞ ○ 課題別学習をする。 ・児童相互で教え合いができるように同じ練習の場で練習する児童とペアを組むようにする。(手のかき①・ばた足②・ローリングを用いた呼吸③)							記録会
		【ねらい 2】＜平泳ぎで自分の課題に合った練習をする＞ ○ 課題別学習をする。 ・児童相互で教え合いができるように同じ練習の場で練習児童とペアを組むようにする。(キック④・手のかき・手と足のタイミング⑤・呼吸⑥)							
活動② (5 分)		自分の泳ぎを確認する							
まとめ (5 分)	自己目標を設定する	学習のまとめ ふりかえり 整理運動 シャワー 着替え							

解説に例示として示されている運動

25～50m程度を目安にしたクロール

- 手を左右交互に前に伸ばして水に入れ、水をかくこと。
- リズミカルなばた足をする。
- 肩のローリングを用いて顔を横に上げて呼吸をすること。

水をつかむ → 水をかく → 水を押す → 息つぎ → もどす



できるだけ手を前方に入れて、水をつかむ

ひじを曲げて、おなかの下の水をかく

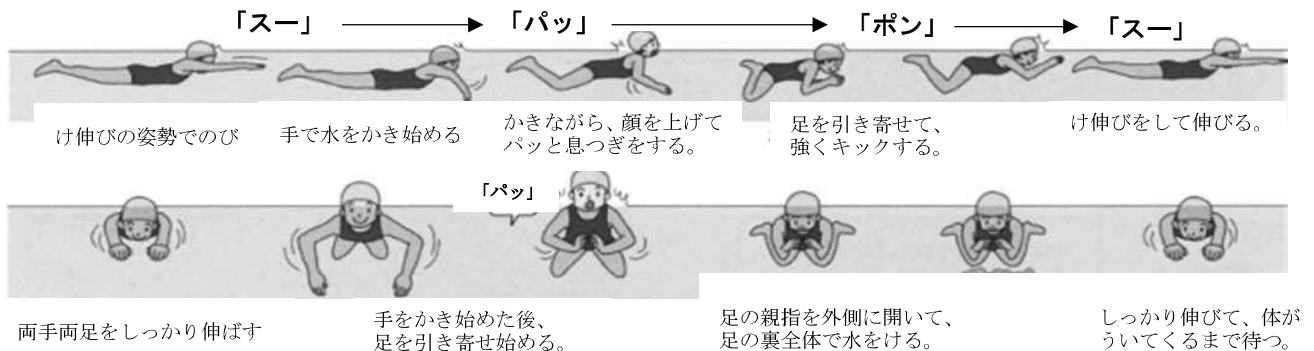
水を押すようにももまでしっかりかく

ひじから手を上げて、顔を横に上げる。口から一気に息を吸う。

手をできるだけ前方にもどす（入水する）。

25～50m程度を目安にした平泳ぎ

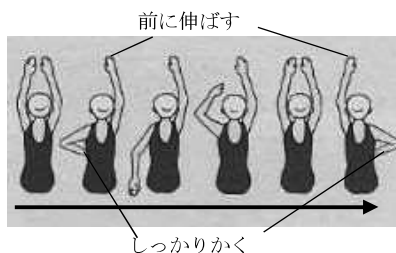
- 両手を前方に伸ばし、円を描くように左右に開き水をかくこと。
- 足の親指を外側に開いて足の裏全体で水を押し出すとともに、キックの後に伸びの姿勢を保つこと。
- 手を左右に開き水をかきながら、顔を前に上げ呼吸をすること。



運動の行い方の工夫

<クロール>

- しっかりと最後まで水をかき、腕を前に伸ばす手のかきの工夫【手のかき①】



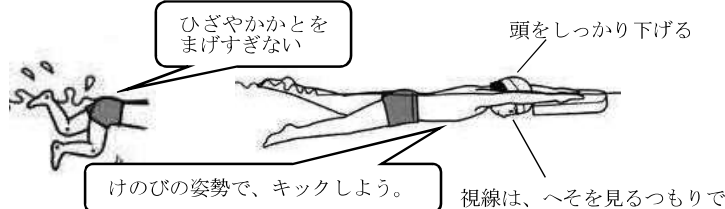
補助の仕方

水をかき終わった手は、相手の手にのせよう。



相手が、手を触れることのできる速さで下がろう。

- ひざやかかとを曲げすぎず、太ももから動かすキックの工夫【ばた足②】



補助の仕方

体を密着

太ももからの動きが大切だね。



太ももをもつ

- 下半身が沈んでしまわない呼吸の工夫【ローリングを用いた呼吸③】

下半身が沈んでしまうのは、呼吸する時に顔が前に上がることや、腕が曲がり、腕と頭が離れていることが考えられる。



補助の仕方

1・2 パツ 4

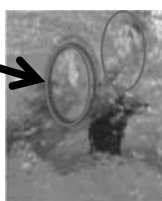


声をかけながら、後ろに引こう

<平泳ぎ>

- 足の裏でキックする工夫【キック④】

つま先が上を向き、足の甲で進まない。



後から見た場合
ハの字の形

補助の仕方



手のひらに足の甲を乗せ、親指で足の裏を押すようにして持つ。



途中で足首が伸びないように足首を支える



ひざ・足首・つま先が一直線になるように

○ 手と足のタイミングをつかむ工夫【手と足のタイミング⑤】

手足を同時に動かしてしまうと、推進力が生まれにくく、なかなか進まない。



補助の仕方



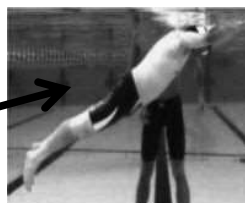
ビート板の上で手のかきと呼吸のタイミングを確認しよう。

- 1 け伸び
- 2 手をかく
- 3 息つぎ
- 4 キック

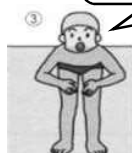
け伸びの姿勢をゆったりと取るようにする。

○ 下半身が沈んでしまわない呼吸の工夫【呼吸⑥】

顔が上がりすぎると、体が反り、下半身が沈んでしまう。



ゆっくりと顔を上げ、あごを水面につけるようにしよう。



頭は水の中に入れ目線はへそを見るようにする。



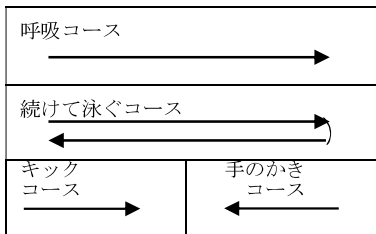
立った状態で確認をする

ビート板を使って確認をする

場の工夫

掲示物

- クロールや平泳ぎの泳法を身に付けたり、泳ぐ距離に挑戦したりすることができる場を子どもの実態に応じて設定する。
- 各コースのポイントや練習の仕方を掲示して、ポイントを押さえた練習ができるようにする。



めあてと学習のまとめ方の例

	めあて	まとめのポイント (☆：関心・意欲・態度 ○：技能 ◎：思考・判断)
1	学習の進め方を知り、試しの泳ぎを測定しよう。	◎ 授業の進め方が分かりましたか。 ◎ 目標の泳ぎを設定することができましたか。
2	クロールで、自分の課題に合った場や練習を選んで泳ごう。 ○ クロールの動きをつかんで続けて長く泳ごう。 ・手のかきの動きをつかもう。	◎ クロールで自分の課題に合った場や練習を選んで泳ぐことができたか。 ○ クロールの動きをつかんで続けて長く泳ぐことができたか。 ○ 手のかきの動きをつかんで泳ぐことができたか。 (○手を左右交互に伸ばして水をかいて泳ぐことができた。)
3	・足のけりの動きをつかもう	◎ 足のけりの動きがわかりましたか。 (◎リズムカルなばた足をするとうまく泳げるのが分かった。)
4	・手のかきと呼吸の仕方をつかもう	○ 手のかきと呼吸の仕方をつかんで泳ぐことができたか。 (○肩ローリングを用いて顔を横に上げて呼吸をして泳ぐことができた)
5	平泳ぎで、自分の課題に合った場や練習を選んで泳ごう。 ○ 平泳ぎの動きをつかんで続けて長く泳ごう。 ・キックの動きをつかもう	○ 平泳ぎで自分の課題に合った場や練習を選んで泳ぐことができたか。 ○ 平泳ぎの動きをつかんで続けて長く泳ぐことができたか。 ○ キックの動きをつかんで泳ぐことができたか。 (○足の親指を外側に開いて足の裏全体で水を押し出して泳ぐことができた。)
6	・手のかきの動きをつかもう	○ 手のかきの動きをつかんで泳ぐことができたか。 (○両手を前方に伸ばし、円を描くように左右に開いて水をかいて泳ぐことができた。)
7	・手と足のタイミングの動きをつかもう	◎ 手と足のタイミングの動きが分かりましたか。 (◎手で水をかく間に足を曲げてかかとを引き寄せ、手を前方に差し出す間に足裏で水をけるとよいことが分かった。)
8	・手のかきと呼吸の仕方をつかもう	○ 手のかきと呼吸の仕方をつかみ泳ぐことができたか。 (○手を左右に開き顔を前に上げて呼吸をして泳ぐことができた。)
9	学習したことを生かして記録会をしよう。	☆ 学習の成果を生かして、記録に挑戦することができましたか。

(4) 小学校体育授業パワーアッププラン

1. 目的

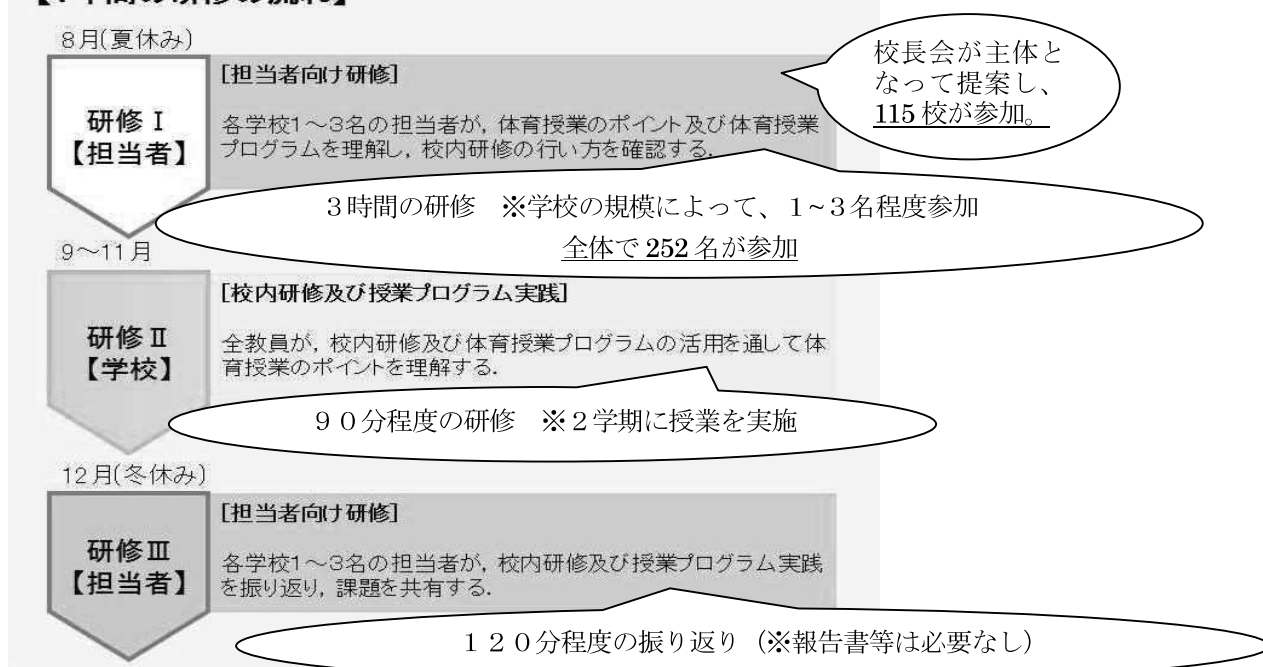
「運動の好きな子ども」「運動量の豊富な子ども」の育成に向けて、小学校における日々の体育の授業の改善を図る。

2. 内容

小学校：「体育授業パワーアッププラン」に沿って、研修や授業を行う。

- ① 各学校の担当者が、体育授業プログラムの活用の仕方について、立命館大学 教授 大友 智先生より研修を受ける。(夏季休業日に実施)
- ② 担当者研修で受けた内容を、校内研修(1回実施)で全教員に広げていく。その研修を受けて、担当者を中心に各学年・学級で体育授業プログラムに沿った授業実践を行う。(校内での公開授業研などは、実施する必要なし。)
- ③ 各学校の担当者が振り返りシートを使って、ワークショップ型の研修を行い、今後の実践に向けた課題を共有する。(冬季休業日に実施)

【1年間の研修の流れ】



3. 今後の流れ

- ・ 8月24日(木)・・・パワーアッププラン講習会(実技を含む)：3時間
- ・ 9～11月に授業を実施(20校程度は検証用アンケートを実施)
- ・ 12月上旬・・・担当者向け研修を実施：2時間
- ・ 12～1月・・・立命館大学によるデータ検証(20校程度の協力校)
- ・ 2月・・・結果報告(立命館大学による報告)

4. パワーアッププランによる期待できる効果

- ・ **(授業内容の保障)** 立命館大学から提供される詳細な学習指導案を使って授業を実施するため、全職員が同じように授業を行うことができる。
- ・ **(OJTが進む)** 研究授業のように行うのではなく、同学年と協力して同じ指導案で授業をするため、学年の中で内容に関する研修を自分たちで行うようになる。
- ・ **(授業力の向上)** 体育の授業の行い方・流し方等がわかるようになり、体育科の他領域及び他の教科でも同じように授業を行うことができるようになる。
- ・ **(研修システムの構築)** 校内研修を行うことを通して、研修の行い方もわかるようになる。

たいいくじゅぎょう まな たつじん 体育授業の学びの達人になろう！！

クラス全員で学びの達人を目指しましょう。

授業のはじめに今日のレベルを確認して、授業のまとめの時間にできたかどうか振り返るよ！

